

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1. 入学定員の設定の考え方と学生確保の見通し	2
(1) 入学定員設定の考え方	2
(2) 学生確保の見通しのアンケートの調査結果	3
(3) 留学生の入学状況	9
(4) 他大学からの入学状況	12
(5) 既設組織の入学定員充足の状況	15
(6) 総合学術研究科の入学定員の充足の見通し	16
2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	18
3. 社会的要請や人材需要の動向	20
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	20
(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠	21

1. 入学定員の設定の考え方と学生確保の見通し

(1) 入学定員設定の考え方

総合学術研究科修士課程は、人文社会科学系および自然科学系における大学院教育を「専門知識修得偏重」から、顕在化する「複合的課題」を解決できる「総合知を創生する場で活躍できる人材育成」の場へ転換し、現代の VUCA 時代に適応した大学院教育を実現するため、既設の現代社会文化研究科と自然科学研究科を一研究科として再編し、現代社会文化研究科博士前期課程の組織を引き継ぐ人文社会科学専攻と、自然科学研究科博士前期課程の組織を引き継ぐ自然科学専攻の二専攻を設置する。入学定員及び収容定員は、以下のとおり設定する。

研究科	専攻	入学定員	収容定員
総合学術研究科	人文社会科学専攻	60	120
	自然科学専攻	507	1,014
合計		567	1,134

人文社会科学専攻の入学定員は、現代社会文化研究科博士前期課程の入学定員と同数の 60 人、自然科学専攻の入学定員は、自然科学研究科博士前期課程の入学定員 502 人に医歯学総合研究科医科学専攻（修士課程）より、入学定員を 5 人移行し、507 人とする。

人文社会科学専攻には四つの学位プログラムを設置し、自然科学専攻には九つの学位プログラムを設置する。学位プログラムには受け入れの目安となる定員を設け、内訳は表 1 のとおりである。

表 1 学位プログラム目安定員

人文社会科学専攻		目安定員
専門深化型学位プログラム	人間文化科学プログラム	30
	現代社会科学プログラム	20
新潟学際型学位プログラム	アニメ・映像資源科学プログラム	5
	日本酒学プログラム	5

自然科学専攻		目安定員
専門深化型学位プログラム	物質創成・基礎科学プログラム	131
	システム創成科学プログラム	136
	生命環境・食料科学プログラム	136
新潟学際型学位プログラム	アニメ・映像資源科学プログラム	5
	日本酒学プログラム	5
	情報社会デザイン科学プログラム	59
	カーボンニュートラル融合科学プログラム	10
	フィールド科学プログラム	15
	ひと脳・健康科学プログラム	10

なお、学位プログラムは、伝統的な学問分野を基盤とする「専門深化型学位プログラム」と、学際性、融合性を志向する「新潟学際型学位プログラム」の2種に大別している。

各プログラムの目安の定員については、「専門深化型学位プログラム」は、既設研究科の同一の学問分野の定員やこれまでの充足状況を基に設定し、「新潟学際型学位プログラム」は、新たな学問分野を切り開く学位プログラムであることから小規模の定員を設定する。但し、自然科学専攻に設置する「情報社会デザイン科学プログラム」は、既設自然科学研究科が、令和6年度「大学・高専機能強化支援事業（支援2）」に採択され、入学定員を15人増員した情報系組織であるため、その定員を引き継ぐこととする。

なお、学位プログラムの目安の入学定員については社会の変化、地域の情勢、充足状況なども踏まえて評価し、定期的に見直しを行う。

(2) 学生確保の見通しのアンケートの調査結果

1) 学部3年生に対するアンケート

上記(1)で設定する入学定員が充足できる見通しについて調査するため、本学に在籍する学部1～3年生（新研究科の基礎学部：人文学部、教育学部、法学部、経済科学部、理学部、工学部、農学部、創生学部を対象）にアンケート調査を実施した。ただし、学部1～2年生のアンケート調査は参考程度とし、以下の調査結果の分析は、総合学術研究科を設置する令和8年4月入学予定の3年生の回答に基づいている。

①調査概要

実施期間：令和6年12月2日～令和7年2月10日

調査方法：Microsoft Forms

回答者数：1,037人（対象 2,066人）、回収率 50.2%

なお、アンケート実施の際に、新研究科の構想のパンフレットを配付しているが、調査時点から以下の点が変更されている。

- ・研究科名称「人文社会・自然科学研究科」→「総合学術研究科」
- ・プログラム名称「生命環境科学プログラム」→「生命環境・食料科学プログラム」
- ・令和8年4月博士前期課程・博士後期課程設置
→ 令和8年4月修士課程設置（令和10年4月博士後期課程設置予定）
- ・一研究科一専攻（人文社会・自然科学専攻）
→ 一研究科二専攻（人文社会科学専攻、自然科学専攻）

②調査内容

- ・属性（学年、性別、所属する学位プログラム）
- ・卒業後の進路
- ・大学院への入学を悩んでいる理由
- ・進学する大学院の設置主体
- ・興味のある学問系統
- ・新研究科への入学希望

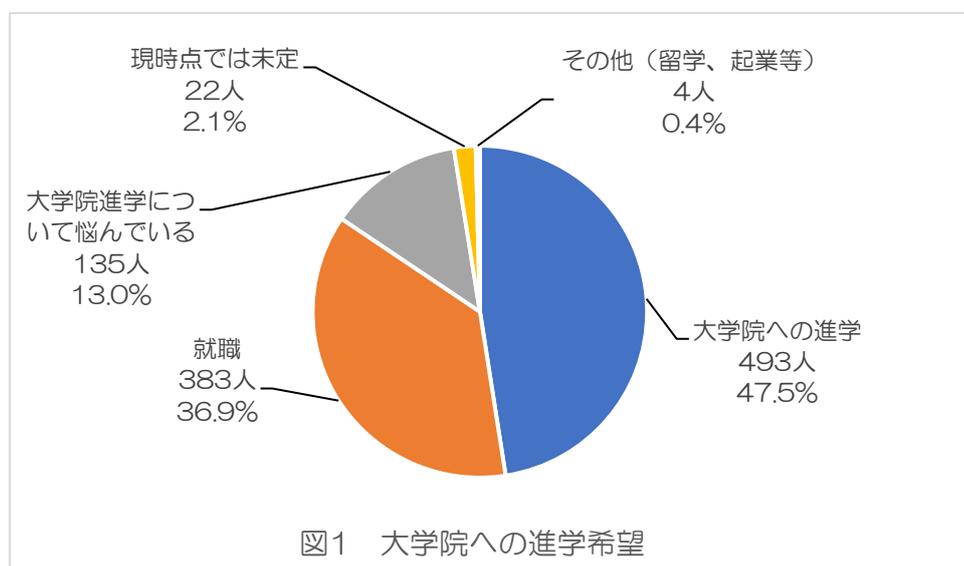
- ・新研究科へ合格した場合の入学希望
- ・入学を希望する学位プログラム
- ・学位プログラムを選択した理由
- ・博士後期課程への進学意向

③調査結果（調査結果の詳細は【資料2】）

ア) 卒業後の進路

現時点で卒業後の進路について問う質問の結果は図1のとおりである。

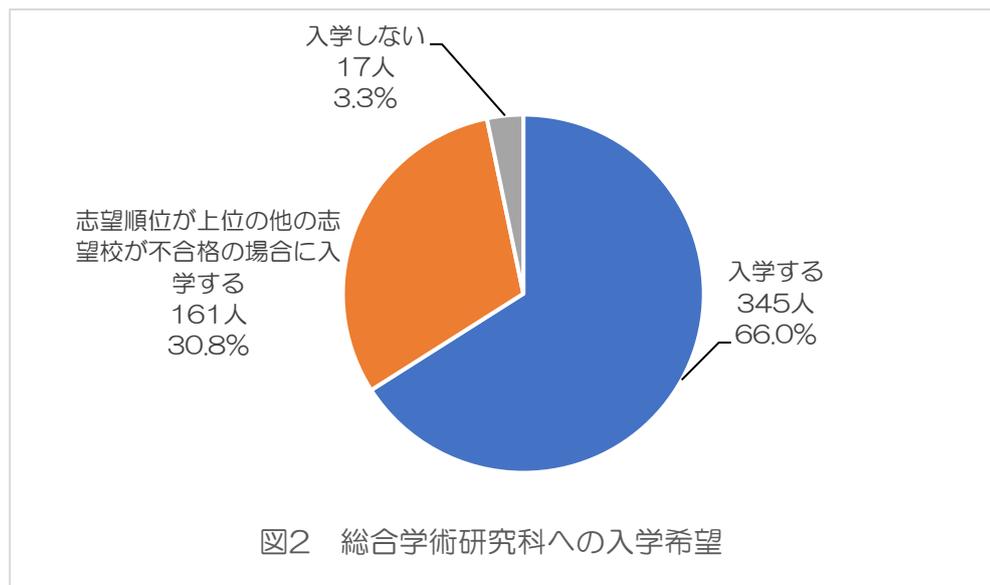
「大学院への進学」との回答が493人、「大学院進学について悩んでいる」との回答が135人と、合計で628人が大学院への進学を意識していることを示している。これは、回答者のおよそ8割が、理系学部の学生であったことも要因と考えられる。



イ) 総合学術研究科への入学希望

図1で卒業後の進路を「大学院への進学」または「大学院進学について悩んでいる」と回答した628人のうち、新研究科への進学希望について、第一希望、第二希望あるいは第三希望以降として受験すると回答した523人に対し、総合学術研究科を受験して、合格した場合、入学するかを問う質問の結果は図2のとおりである。

「入学する」との回答が、345人、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」が161人であり、入学意思を示した学生は506人であった。新研究科が第1志望ではない学生もいるもののアンケート回答時の3年生の時点では、4年生で行う卒業研究を経験する前であり、これまでの、実績を考慮すると、研究室に配属され、研究室で行う研究活動に直接携わる機会を通じて、新研究科を第1希望として、入学に結び付く学生が多いと考えられる。



ウ) 入学を希望する学位プログラムについて

総合学術研究科への入学希望を示した学生に対して、入学を希望する学位プログラムについて問う質問の結果は表2のとおりである。

「情報社会デザイン科学プログラム」、「フィールド科学プログラム」において、目安の定員を上回っている。いずれも、分野融合の学位プログラムであり、学生のニーズが高いことが伺える。なお、在学生以外の入学見込み数も勘案した、定員充足の見込みについては、(6)において説明する。

表2 入学を希望する学位プログラム (学部3年生)

	学位プログラム	人数	目安定員
1	人間文化科学プログラム	15	30
2	現代社会科学プログラム	10	20
3	物質創成・基礎科学プログラム	104	131
4	システム創成科学プログラム	127	136
5	生命環境・食料科学プログラム	128	136
6	アニメ・映像資源科学プログラム	3	10
7	日本酒学プログラム	5	10
8	情報社会デザイン科学プログラム	78	59
9	カーボンニュートラル融合科学プログラム	9	10
10	フィールド科学プログラム	19	15
11	ひと脳・健康科学プログラム	8	10
	合計	506	567

2) 社会人向けアンケートについて

社会人の学びの場の拡大が必要とされる中、高等教育機関は、社会のニーズに沿う教育プログラムの充実、リスキリング教育の環境整備が求められている。現役社会人等の新設する「総合学術研究科」への入学希望、入学後に活用を希望する制度について、調査するためアンケートを実施した。

①調査概要

実施期間：令和7年1月10日～1月18日

調査方法：インターネットリサーチ

回答者数：516人（調査会社モニタから以下の条件に該当するもの）

- ・現に職を有している又は勤務経験のあるもののうち、大学院での学び直しに関心のある者
- ・新潟県、新潟近県在住（山形県、福島県、富山県、長野県、群馬県）

なお、アンケート実施の際に、新研究科の構想のパンフレットを配付しているが、調査時点から以下の点が変更されている。

- ・研究科名称「人文社会・自然科学研究科」→「総合学術研究科」
- ・プログラム名称「生命環境科学プログラム」→「生命環境・食料科学プログラム」
- ・令和8年4月博士前期課程・博士後期課程設置
→ 令和8年4月修士課程設置（令和10年4月博士後期課程設置予定）
- ・一研究科一専攻（人文社会・自然科学専攻）
→ 一研究科二専攻（人文社会科学専攻、自然科学専攻）

②調査内容

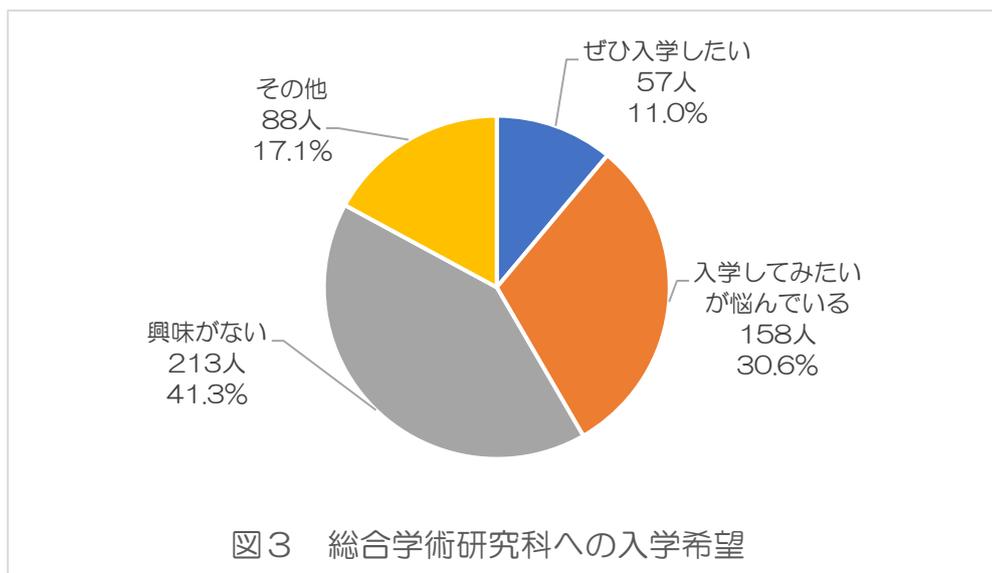
- ・新研究科への入学希望度
- ・新研究科への入学希望時期
- ・大学院への入学を悩んでいる理由
- ・入学を希望する学位プログラム
- ・選択した学位プログラムの理由
- ・博士後期課程への進学意向
- ・活用を希望する制度

③調査結果（調査結果の詳細は【資料3】）

ア) 総合学術研究科への入学希望

総合学術研究科への入学希望を問う質問の結果は、図3のとおりである。

「ぜひ入学したい」との回答が57人、「入学してみたいが悩んでいる」との回答が158人と41.7%が入学の希望を示している。なお、希望する学位プログラムを問う質問で、博士後期課程の学位プログラム選択者（76人）はその他に含んでいる。他に「その他」の内容としては、遠距離であることや、金銭的な問題が挙げられている。



イ) 総合学術研究科への入学希望時期

「ぜひ入学したい」、「入学してみたいが悩んでいる」と回答した 215 人に対する、入学時期を問う質問への回答結果は、表 3 のとおりである。なお、希望する学位プログラムを問う質問で、博士後期課程の学位プログラム選択者は除外する。

「令和 8 年度」との回答は 29 人、「令和 9 年度～11 年度」との回答は、48 人、「令和 12 年度以降」との回答が 34 人と、具体的な入学時期を想定した回答が 111 人と、半数以上の方が具体的に入学を検討していることを示している。

表 3 入学を希望する時期

入学希望時期	人数	比率
令和 8 年度（開設時）	29	13.5%
令和 9 年度～11 年度（開設後 3 年以内）	48	22.3%
令和 12 年度以降（開設後 4 年後以降）	34	15.8%
決めていない	104	48.4%
合計	215	100.0%

ウ) 大学院入学を悩む理由

入学意向を問う質問で、「入学してみたいが悩んでいる」と回答した 158 人に対する、悩んでいる理由を問う質問への回答結果は、表 4 のとおりである。

懸念として、最も多く挙げられているのは「仕事との両立、時間や体力」が 122 人、「経済的理由」が 77 人であった。「その他」の理由としては、障がいを抱えていること等が挙げられている。社会人の大学院入学への障壁を払拭させるためには、時間的、体力的な負担を軽減し、遠隔での研究指導や、場所や時間を選ばず受講できる環境整備が求められるほか、奨学金の充実など、経済的負担の軽減が必要であることを示している。

表4 入学を悩んでいる理由（複数選択可）

悩んでいる理由	人数	比率
仕事との両立、時間や体力	122	77.2%
経済的理由	77	48.7%
興味はあるが、学力に不安がある	40	25.3%
職場で同意を得られない	32	20.3%
育児している	23	14.6%
介護を抱えている	12	7.6%
（介護・育児以外に）家族の反対	1	0.6%
その他	3	1.9%

エ) 希望する学位プログラム

「ぜひ入学したい」、「入学してみたいが悩んでいる」と回答した215人に対する、希望する学位プログラムを問う質問への回答の入学希望時期別の結果は、表5のとおりである。

入学を希望する時期にはバラつきがあるが、開設時の令和8年度の入学希望者は29人と一定数いることを示している。また、分野融合の新潟学際型学位プログラムにも一定数の希望者がおり、需要があることを示している。

表5 入学を希望する学位プログラム（社会人）

専攻	学位プログラム	令和8年度	令和9～11年度	令和12年度以降	未定
人文社会	人間文化科学プログラム	13	9	2	17
	現代社会科学プログラム	4	12	13	24
人文社会	アニメ・映像資源科学プログラム※	0	0	0	2
自然科学	日本酒学プログラム※	3	2	2	7
自然科学	物質創成・基礎科学プログラム	2	4	3	6
	システム創成科学プログラム	1	4	3	7
	生命環境・食料科学プログラム	0	3	3	10
	情報社会デザイン科学プログラム※	1	1	1	11
	カーボンニュートラル融合科学プログラム※	1	5	1	3
	フィールド科学プログラム※	1	4	1	3
	ひと脳・健康科学プログラム※	3	4	5	14
合計		29	48	34	104

※新潟学際型学位プログラム

オ) 大学院で活用を希望する制度

「ぜひ入学したい」、「入学してみたいが悩んでいる」と回答した 215 人に対する、活用を希望する大学院の制度を問う質問への結果は、表 6 のとおりである。

社会人入学にあたり、経済的支援や場所や時間の制約のない授業・研究環境の支援を希望している方が多いことを示している。

表 6 活用を希望する制度（複数選択可）

活用を希望する制度	人数	比率
社会人向け奨学金	130	60.5%
土日・夜間の開講	130	60.5%
リモートによる講義・研究指導	126	58.6%
早期修了制度	36	16.7%
託児所	18	8.4%
その他	0	0.0%

カ) 調査結果の考察

以上の調査の結果、総合学術研究科へ社会人学生として入学の意向を持つ方は相当数確認することができる。今後、大学院で学び直しの意向を持つ社会人等が、実際に入学に結び付くよう、大学として、経済的支援の充実や社会人が無理なく学び続けられる場所や時間の制約のない環境整備が必要であることを示している。

(3) 留学生の入学状況

留学生を対象としたアンケートは実施していないため、過去 5 年間（令和 2～6 年度）の既設研究科への入学状況を基に、留学生の新研究科への入学の見通しについて考察する。新研究科に移行する既設専攻への留学生の入学状況は表 7 のとおりである。

表7 既設専攻の留学生の入学状況

【人文社会科学専攻】

人間文化科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()は分野	R2	R3	R4	R5	R6	平均
現代文化専攻(情報社会文化、人間形成科学)	30	20	33	25	19	25.4
うち留学生	11	6	13	11	8	9.8
社会文化専攻(環東アジア社会文化、欧米社会文化)	14	9	6	11	11	10.2
うち留学生	12	3	4	7	4	6.0
合計	44	29	39	36	30	35.6
うち留学生	23	9	17	18	12	15.8

※表中の () は令和3年度から令和6年度の分野。令和2年度は、現代文化専攻（情報社会文化、現代人間科学、生活健康行動科学）、社会文化専攻（アジア社会文化、国際日本文化、欧米社会文化

現代社会科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()は分野	R2	R3	R4	R5	R6	平均
法政社会専攻(法政社会、国際社会)	3	3	1	10	2	3.8
うち留学生	2	1	0	6	1	2.0
経済経営専攻(経済社会、経営会計)	14	5	12	16	5	10.4
うち留学生	6	4	9	9	4	6.4
合計	17	8	13	26	7	14.2
うち留学生	8	5	9	15	5	8.4

日本酒学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()は分野	R2	R3	R4	R5	R6	平均
経済経営専攻(日本酒学)※3年間の平均	-	-	0	4	3	2.3
うち留学生	-	-	0	1	0	0.3

【自然科学専攻】

物質創成・基礎科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
数理物質科学専攻(物理学、化学、数理科学)	56	61	54	59	61	58.2
うち留学生	0	1	1	0	1	0.6
材料生産システム専攻(機能材料科学、素材生産科学)	94	70	93	72	76	81.0
うち留学生	2	0	3	6	1	2.4
合計	150	131	147	131	137	139.2
うち留学生	2	1	4	6	2	3.0

システム創成科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
材料生産システム専攻(機械科学)	73	67	69	72	85	73.2
うち留学生	1	2	1	3	5	2.4
電気情報工学専攻(電気電子工学、人間支援科学)	100	90	90	78	78	87.2
うち留学生	5	9	5	6	5	6.0
合計	173	157	159	150	163	160.4
うち留学生	6	11	6	9	10	8.4

生命環境・食料科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
生命・食料科学専攻(基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学)	50	72	63	74	66	65.0
うち留学生	7	7	8	12	5	7.8
環境科学専攻(流域環境学、社会基盤・建築学、地球科学、災害環境科学、自然システム科学)	72	93	93	66	86	82.0
うち留学生	3	7	7	8	8	6.6
合計	122	165	156	140	152	147.0
うち留学生	10	14	15	20	13	14.4

日本酒学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
生命・食料科学専攻(日本酒学)※3年間の平均	-	-	6	5	4	5.0
うち留学生	-	-	0	0	0	0.0

情報社会デザイン科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
材料生産システム専攻(社会システム工学)※4年間の平均	-	7	10	8	7	8.0
うち留学生	-	1	0	1	0	0.5
電気情報工学専攻(情報工学)	31	58	48	46	61	48.8
うち留学生	0	2	6	3	2	2.6
合計	31	65	58	54	68	55.2
うち留学生	0	3	6	4	2	3.0

フィールド科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
環境科学専攻(フィールド科学)※4年間の平均	-	11	22	21	19	18.3
うち留学生	-	0	1	0	1	0.5

上記のとおり、既設専攻の過去5年間の留学生の入学状況の平均値から、以下のとおり留学生の入学が見込まれる。

【人文社会科学専攻】	人間文化科学プログラム	15人
	現代社会科学プログラム	8人
	日本酒学プログラム	0人
【自然科学専攻】	物質創成・基礎科学プログラム	3人
	システム創成科学プログラム	8人
	生命環境・食料科学プログラム	14人
	日本酒学プログラム	0人
	情報社会デザイン科学プログラム	3人
	フィールド科学プログラム	0人

(4) 他大学からの入学状況

他大学出身者（社会人、留学生を除く）の入学の見通しについて、過去5年間（令和2～6年度）の既設研究科への入学状況を基に考察する。新研究科に移行する既設専攻への他大学出身者の入学状況は表8のとおりである。

表8 既設専攻の他大学からの入学状況

【人文社会科学専攻】

人間文化科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()は分野	R2	R3	R4	R5	R6	平均
現代文化専攻(情報社会文化、人間形成科学)	30	20	33	25	19	25.4
うち他大学	3	2	3	1	1	2.0
社会文化専攻(環東アジア社会文化、欧米社会文化)	14	9	6	11	11	10.2
うち他大学	0	1	0	0	0	0.2
合計	44	29	39	36	30	35.6
うち他大学	3	3	3	1	1	2.2

※表中の () は令和3年度から令和6年度の分野。令和2年度は、現代文化専攻(情報社会文化、現代人間科学、生活健康行動科学)、社会文化専攻(アジア社会文化、国際日本文化、欧米社会文化)

現代社会科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()は分野	R2	R3	R4	R5	R6	平均
法政社会専攻(法政社会、国際社会)	3	3	1	10	2	3.8
うち他大学	0	0	0	0	0	0.0
経済経営専攻(経済社会、経営会計、日本酒学)	14	5	12	16	5	10.4
うち他大学	1	0	1	0	0	0.4
合計	17	8	13	26	7	14.2
うち他大学	1	0	1	0	0	0.4

日本酒学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()は分野	R2	R3	R4	R5	R6	平均
経済経営専攻(日本酒学)	-	-	0	4	3	2.3
うち他大学	-	-	0	1	0	0.3

【自然科学専攻】

物質創成・基礎科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
数理物質科学専攻(物理学、化学、数理科学)	56	61	54	59	61	58.2
うち他大学	3	0	1	1	0	1.0
材料生産システム専攻(機能材料科学、素材生産科学)	94	70	93	72	76	81.0
うち他大学	3	0	2	0	0	1.0
合計	150	131	147	131	137	139.2
うち他大学	6	0	3	1	0	2.0

システム創成科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
材料生産システム専攻(機械科学)	73	67	69	72	85	73.2
うち他大学	0	0	1	2	2	1.0
電気情報工学専攻(電気電子工学、人間支援科学)	100	90	90	78	78	87.2
うち他大学	0	1	0	2	1	0.8
合計	173	157	159	150	163	160.4
うち他大学	0	1	1	4	3	1.8

生命環境・食料科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
生命・食料科学専攻(基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学)	50	72	63	74	66	65.0
うち他大学	1	3	0	1	5	2.0
環境科学専攻(隆起環境学、社会基盤・建築学、地球科学、災害環境科学、自然システム科学)	72	93	93	66	86	82.0
うち他大学	5	5	5	2	1	3.6
合計	122	165	156	140	152	147.0
うち他大学	6	8	5	3	6	5.6

日本酒学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
生命・食料科学専攻(日本酒学)※3年間の平均	-	-	6	5	4	5.0
うち他大学	-	-	0	0	0	0.0

情報社会デザイン科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
材料生産システム専攻(社会システム工学)※4年間の平均	-	7	10	8	7	8.0
うち他大学	-	0	0	0	0	0.0
電気情報工学専攻(情報工学)	31	58	48	46	61	48.8
うち他大学	1	1	0	0	2	0.8
合計	31	65	58	54	68	55.2
うち他大学	1	1	0	0	2	0.8

フィールド科学プログラムの基礎となる既設専攻への入学状況

専攻 ()はコース	R2	R3	R4	R5	R6	平均
環境科学専攻(フィールド科学)※4年間の平均	-	11	22	21	19	18.3
うち他大学	-	1	1	0	2	1.0

上記のとおり、既設専攻の過去5年間の他大学生の入学状況の平均値から、以下のとおり他大学からの入学が見込まれる。

【人文社会科学専攻】	人間文化科学プログラム	2人
	現代社会科学プログラム	0人
	日本酒学プログラム	0人
【自然科学専攻】	物質創成・基礎科学プログラム	2人
	システム創成科学プログラム	1人
	生命環境・食料科学プログラム	5人
	日本酒学プログラム	0人
	情報社会デザイン科学プログラム	0人
	フィールド科学プログラム	1人

(5) 既設組織の入学定員充足の状況

既設の現代社会文化研究科博士前期課程と自然科学研究科博士前期課程の過去5年間（令和2～6年度（【資料1】：既設研究科の入学定員の充足状況）の入学定員の充足状況の実績に基づき、新研究科の入学定員の確保の見通しを検証する。

現代社会文化研究科の過去5年間（令和2～6年度）の入学定員の充足状況は、85.3%である。定員未充足の大きな要因としては、入学者の5割を占める留学生の志願者がコロナ禍により、大きく落ち込んだことが考えられる。コロナ禍前の平成27～令和元年度の期間の平

均充足状況は、106.7%となっており、入学定員を充足していることから、コロナ禍により渡航制限がなされたことが大きな要因であったと言える。

専攻別では、現代文化専攻では、各年度で入学定員を充足しているものの、社会文化専攻、法政社会専攻、経済経営専攻では未充足となっている。

自然科学研究科博士前期課程の過去5年間（令和2～6年度）の入学定員の充足状況は、106.7%となっており、入学定員を充足している。

専攻別では、数理工学専攻のみ、入学定員が未充足となっている。要因として、募集人員を超える合格者がいるものの、入学を辞退し、就職や他大学院への進学者がいたことが挙げられる。

（6）総合学術研究科の入学定員の充足の見通し

在学生及び社会人に対するアンケート結果と、今回、アンケートを実施していない他大学生や留学生の近年の入学状況を勘案し、総合学術研究科の定員充足の見通しを分析する。

3年生と社会人へのアンケートにおいて、総合学術研究科への入学意向を持つもので入学を希望する学位プログラムごとの人数（在学生は表2、社会人は表5の令和8年度入学希望者）と留学生と他大学の過去5年間（令和2～6年度）の入学状況（留学生は表7、他大学は表8）から算出した総合学術研究科で開設する学位プログラムごとの入学者数の見通しを表9に示す。

表9 入学を希望する学位プログラム

学位プログラム	在学生	社会人	留学生	他大学	計	目安定員
人間文化科学プログラム	15	13	15	2	45	30
現代社会科学プログラム	10	4	8	0	22	20
物質創成・基礎科学プログラム	104	2	3	2	111	131
システム創成科学プログラム	127	1	8	1	137	136
生命環境・食料科学プログラム	128	0	14	5	147	136
アニメ・映像資源科学プログラム	3	0	—	—	3	10
日本酒学プログラム	5	3	0	0	8	10
情報社会デザイン科学プログラム	78	1	3	0	82	59
カーボンニュートラル融合科学プログラム	9	1	—	—	10	10
フィールド科学プログラム	19	1	0	1	21	15
ひと脳・健康科学プログラム	8	3	—	—	11	10
合計	506	29	51	11	597	567

専攻別の入学希望者については、実施したアンケートは専攻を二つに分けないものであったため、二つの専攻にまたがるアニメ・映像資源科学プログラムと日本酒学プログラムの結果を示すことができない。そのため、アニメ・映像資源科学プログラムと日本酒学プログラムの目安定員（人文社会科学専攻、自然科学専攻それぞれで10人（5人+5人）を除いたものを示すと表10のようになる。

表10 入学を希望する学位プログラム（専攻別）

【人文社会科学専攻】

学位プログラム	在学生	社会人	留学生	他大学	計	目安定員
人間文化科学プログラム	15	13	15	2	45	30
現代社会科学プログラム	10	4	8	0	22	20
合計	25	17	23	2	67	50

【自然科学専攻】

学位プログラム	在学生	社会人	留学生	他大学	計	目安定員
物質創成・基礎科学プログラム	104	2	3	2	111	131
システム創成科学プログラム	127	1	8	1	137	136
生命環境・食料科学プログラム	128	0	14	5	147	136
情報社会デザイン科学プログラム	78	1	3	0	82	59
カーボンニュートラル融合科学プログラム	9	1	—	—	10	10
フィールド科学プログラム	19	1	0	1	21	15
ひと脳・健康科学プログラム	8	3	—	—	11	10
合計	473	9	28	9	519	497

このように、アニメ・映像資源科学プログラムと日本酒学プログラムを除いた入学希望者数は、人文科学専攻で67人、自然科学専攻で519人となり、この数字はすでに両プログラムを含めた人文社会科学専攻と自然科学専攻の定員（60人、507人）を超えている。したがって、二つの専攻にまたがる両プログラムの不確定性を差し引いて考えたとしても、人文社会科学専攻と自然科学専攻の定員充足は十分に見込めるといえる。

既設研究科専攻を基礎とするその他のプログラムにおいては概ね目安定員の充足が見込まれ、人文社会科学専攻と自然科学専攻のいずれも入学定員を上回っている。これらに加えて、既設研究科の過去5年間の入学定員の充足状況において学部からの進学者は安定していることを鑑みると、後述の定員充足の方策や具体的な取り組みにより、入学定員の充足は可能であると判断する。

なお、学位プログラムごとに設定した目安定員は、今後の充足状況等を勘案し、完成年度に評価を行い、その後も定期的な見直しを行う。

2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

自然科学専攻の母体となる既設の自然科学研究科において、毎年度在学学生および修了生におこなっているアンケート結果を分析したところ、進学を決める重要な因子は主に、学費等の金銭的な支援やキャリアパス形成のサポート体制が構築されているか否か、魅力的な研究の有無であった。そこで、これまで成果を上げている取組みは継続して利用し、これらの要因に特に焦点をあてて大学院進学の意味を広くアピールすると共に、新研究科に移行することで本学大学院の魅力がさらに増すことを学内外に周知するために、以下の取組みをおこなっている。

①学部学生に向けた大学院への進学説明会・座談会・アンケートの実施

自然科学研究科において、専門分野（コース等）ごとに学部全学年を対象とした進学説明会・座談会を実施している。大学院進学を動機づける進路情報や支援体制を周知するだけでなく、自らの専門分野に近い博士学位取得者を含む大学院修了生や大学院在学学生の声を直接聞く場を座談会形式で開催するなど、進学を検討している学生に近い感覚で、大学院生活の楽しさや大学院に進学する意義の説明をおこなっている。また、各コースで社会に出て活躍している当該コース大学院修了生を通して、大学院で得た知識、経験が役立つことを、具体的事例をもって伝えている。これにより、在学学生が大学院での生活や修了後の具体的なイメージを想像することを促すことになり、進学率の向上を図っている。また、学部全学年を対象として、大学院進学意向アンケートを9～10月に実施し、学部生の動向を把握するだけでなく、低学年から大学院進学意識の醸成を図っている。

人文社会科学専攻の母体となる現代社会文化研究科でも同様の説明会を実施してきたが、組織的な取組にはなっていなかった。新研究科の発足に向けて、自然科学研究科を範とし、文系諸学部に対する説明会を組織的に実施することによって、大学院への理解を深め、進学を積極的に促すことができる。

②入学試験の統一

自然科学研究科においては、学部において優秀な成績を収めた内部進学希望者に対して日程と試験内容が異なる入学試験を実施してきたことが、内部進学へのインセンティブを高める結果につながっていた。新研究科においては、人文社会科学専攻と自然科学専攻の入学試験方式が統一されるために、人文社会科学専攻においても内部進学者向けの特別入試が実施されることになり、進学を迷っている学生を後押しすることになることが期待できる。

③インターンシップ事業による実社会との関係強化

自然科学研究科においては、様々な業種、形態の民間企業や公的機関へのキャリアパスの支援を、研究科附属教育研究高度化センターを中心におこなっており、多様化する修了後の進路を手厚くサポートしている。また、多様なキャリアパスを提示するために実践型教育に力を入れており、学生と企業のマッチングを重視したインターンシップを授業として設定し、県外を含めたインターンシップ先の拡充や単位化を推進している。これにより、大学院生には社会との関連を意識した研究への取組みを促し、就職実績の向上につながる

っている。また、在学生には大学院での実習型教育を周知すると共に、高い就職実績が進学率の向上にも貢献することが見込まれる。

④修学支援制度の拡充とキャリア支援体制の強化

新潟大学修学支援貸与金制度などの本学独自の支援体制の整備を進めると共に、博士課程進学推進および博士課程学生のキャリア支援をおこなう PhD リクルート室や自然科学研究科附属教育研究高度化センターなどの大学院学生支援体制の強化を進めている。これらの手厚い大学院生支援体制の存在は進学決定の大きな要因の1つであることから、進学率向上に貢献することが期待できる。また、自然科学研究科では進学を考えている学生に対して、特任助手任用事業（※）の紹介や活用事例の説明会を実施し、制度の周知にも努めている。

※特任助手任用事業

自然科学研究科博士後期課程に在学する優秀な女子学生を対象に、将来的に優秀な教員となり得る人材を育成することを目的として特任助手として任用し、女子学生の教育研究分野における今後のキャリアを支援する制度。

⑤研究科の概要を説明したパンフレットでの周知

新研究科へ移行することで高まる大学院教育の魅力を中心に、新研究科の概要と体制を分かりやすく端的に伝えるため、要点を絞って内容を短くまとめたパンフレットを作成し、学部学生に広く配布した。これにより、新研究科の魅力を効率よく伝えることができ、進学率の向上につながると見込まれる。

⑥研究科ホームページ（HP）による学外学生や社会人への研究発信

HP上に各コースの「特色ある研究」をアクセスしやすく配置することで、学外学生や社会人に対して本学大学院の魅力を広く周知することを計画している。研究科で進められている優れた研究を国内にとどまらず、広く発信することが、即効的に進学率の大幅な向上につながるものではないが、良い研究を生み、成長させ、それを発信し続ける地道な努力が進学者数の底上げにつながると期待できる。併せて社会人ドクターの紹介ページも整備中である。

⑦研究科ホームページの改修とSNSによる研究紹介

本学の魅力ある研究を広く周知するために、高校生以上の学生を対象にして専門知識がなくても理解できるような分かりやすい研究紹介動画の作成および公開の準備を進めている。動画は研究の面白さを伝えることを中心に、5～10分程度の短い時間にまとめたものを公開予定である。また、動画の魅力的な場面や研究情報をSNSで積極的に発信する計画も進めている。これにより、少しでも本学に興味のある幅広い対象に効率よく研究の紹介ができ、潜在的な進学者の掘り起こしに貢献することが見込まれる。

⑧優秀な留学生・社会人の獲得

優秀な留学生の獲得のため、一部英語化されているホームページの研究科紹介を、新研究科では多言語化し、外国人留学生に新研究科の魅力を広く周知することを計画している。日本語に不安がある外国人留学生でも日本企業への就職の可能性を広げることができる研究室を中心に、英語版の研究紹介動画を作成することも計画中である。留学生に対するキャリア支援体制を強化し、本学大学院に入学し学ぶことが日本での就職につながるという流れを作り、それを英語版動画で周知するという循環が出来上がれば、留学生にとって本学大学院は非常に魅力的に映り、留学生の大幅な増加が期待できる。

また、特に人文社会科学専攻は、既設の現代社会文化研究科と同様、留学生がかなりの割合を占めることが予想される。このため、新研究科において優秀な留学生を獲得すべく、次のような積極的かつ体系的な取組を進めることを計画している。(1)海外の提携大学の学生について、一定以上の学力が確実に見込める場合は、従来留学生に課していた入学前の半年間の本学研究生としての在籍を免除し、外国の大学を卒業後、ただちに本学研究科に入学できるような仕組みを整備する。そのための具体的な方策として、海外の提携大学向けのオンライン説明会と、留学生が適切な指導教員を見つけるためのマッチングを行う。(2)現代社会文化研究科は中国人民大学とのあいだでダブルディグリー・プログラム(DDP)を締結しているが、これを他の提携大学にも拡大し、出身大学院と本学総合学術研究科修士課程で二つの学位の取得をめざす優秀な留学生の獲得を目指す。

優秀な社会人の獲得については、人文社会科学専攻では、地方自治体における文化財の活用による地域振興にたずさわる公務員の再教育など、社会人入学者の需要を掘り起こす余地があることから、大学院進学への広報範囲を広げることを計画している。

自然科学専攻においても、社会人に特化した新研究科紹介パンフレットや社会人大学院生の紹介を中心としたウェブサイトを活用した研究紹介動画により、本学の魅力ある研究を、県内を中心に県外も含めた企業や自治体に広く周知することを計画している。動画の視聴により、研究を紹介した研究室への企業からの技術相談数の増加を期待しており、併せて、企業から本学大学院への派遣件数の底上げに貢献することが見込まれる。

3. 社会的要請や人材需要の動向

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

全世界にとって、持続可能な開発目標(SDGs)の達成や、地球規模の温暖化および気候変動への対応は、最も重要な課題である。これら喫緊の課題に対して、国際的な協力とともに、社会や文化の適応と変革、技術革新を通じた迅速な行動が求められる。また、わが国では、高齢化・少子化・労働人口減少という深刻な問題にも直面しており、それが経済成長と地域間の均衡に望ましくない影響を与え、社会の持続可能性が危ぶまれている。

新潟県および環日本海地域においては、人口減少や少子高齢化が全国平均を上回り、特に進学や就職による県外への若年層の人口流出が問題となっている。そのため地域コミュニティの弱体化が進み、医療・福祉や災害への対応など、様々な面での対策が急務になっている。また地域経済においても、地場産業の成長産業化や社会インフラの劣化への対応などが大きな課題となっている。

このような中で、新たな技術革新が、経済成長や環境問題の解決に大きな役割を果たすことが期待されており、さらに技術革新の社会への受容と様々な影響の適切な管理も求められる。そのためには、次世代を担う高度に専門的な人材の育成が急務であり、それを支える大学院教育の充実が重要である。これからの大学院教育においては、単に知識を与えるだけでなく、社会のさまざまな課題に柔軟に対応できる総合的な知を備えた人材の育成が必要である。

教育未来創造会議が令和4年5月にとりまとめた第一次提言においては、未来を支える人材を育む大学等の機能強化として、「人文・社会科学の厚みのある「知」の集積を図るとともに、自然科学の「知」との融合などにより、あらゆる分野の知見を総合的に活用し社会課題への的確な対応を図る「総合知」の創出・活用を図っていくことが極めて重要」とし、学部・大学院を通じた文理横断教育の推進を求めている。また、「教育環境の改善、文理横断・融合による総合知の創出のための大学入学者選抜や大学教育改革に積極的に取り組むことが必要」とされている。それに先立って、令和元年1月に中央教育審議会大学分科会により示された「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿（審議まとめ）」では、「大学院のカリキュラムと社会や企業の期待との間にギャップが生じているとの指摘」があるとされている。また、一般社団法人日本経済団体連合会が発表した「博士人材と女性理系人材の育成・活躍に関するアンケート結果」（令和6年）において、「優先的に取り組む大学院改革の施策」の項目では「大学院教育における産学連携の充実、共同研究への大学院生の参画促進」および「課題解決型の教育プログラム(PBL等)の充実」が上位にある。これらの提言や要請に合わせた大学院改革が急務である。

以上のような背景から、本学は、地域中核大学として社会の課題解決に貢献できる知識や技術を持った高度専門人材の育成と多様なセクターへの人材を輩出するため、従来の文系・理系に分かれた、現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合し、複数の領域を横断する広い学識と高度な専門的知識・スキル及び態度・姿勢を基礎に、単一の専門知のみでは解決できない人間や社会の課題解決、すなわち「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組み活躍する人材を育成する。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

上記(1)のとおり、新設する「総合学術研究科」が社会的、地域的な人材需要動向を踏まえたものであることを客観的データとして示すものとして、企業、団体等を対象にアンケートを実施した。

①調査概要

調査対象：本学の卒業、修了者の就職先企業・団体の採用担当部署 1033

回答があった企業・団体 152 回答率：14.7%

調査期間：令和7年1月10日～1月31日

調査方法：インターネットリサーチ（調査依頼、パンフレットは紙媒体で郵送）

なお、アンケート実施の際に、新研究科の構想のパンフレットを配付しているが、調査時点から以下の点に変更されている。

- ・研究科名称「人文社会・自然科学研究科」→「総合学術研究科」
- ・令和8年4月博士前期課程・博士後期課程設置
 - 令和8年4月修士課程設置（令和10年4月博士後期課程設置予定）
- ・一研究科一専攻（人文社会・自然科学専攻）
 - 一研究科二専攻(人文社会科学専攻、自然科学専攻)

②調査内容

- ・属性
- ・過去3年間の平均採用数
- ・過去3年間の大学院生の平均採用数
- ・今後の博士課程修了者の採用見通し
- ・新研究科の設置に対する評価
- ・新研究科で養成する能力の重視度
- ・新研究科修了者に対する採用意向
- ・研修の一環として、社会人学生として大学院へ派遣する制度の有無
- ・新研究科へ社会人学生として派遣意向（派遣時期）
- ・新研究科へ要望する社会人学生への支援

③調査結果（調査結果の詳細は【資料4】）

ア) 回答企業の属性

回答を得た企業・団体の本社所在地は、表11のとおり、主に新潟県、関東地方である。

また、回答を得た企業・団体の業種別の分類は表12のとおりである。幅広い業種から回答を得ているが、主には、製造業、建設業、情報通信業、公務、卸売・小売業からの回答を得ている。

表11 本社所在地

本社所在地	件数	比率
新潟県	70	46.1%
中部地方	12	7.9%
関東地方	53	34.9%
北海道・東北地方	13	8.6%
近畿地方	4	2.6%
合計	152	100.0%

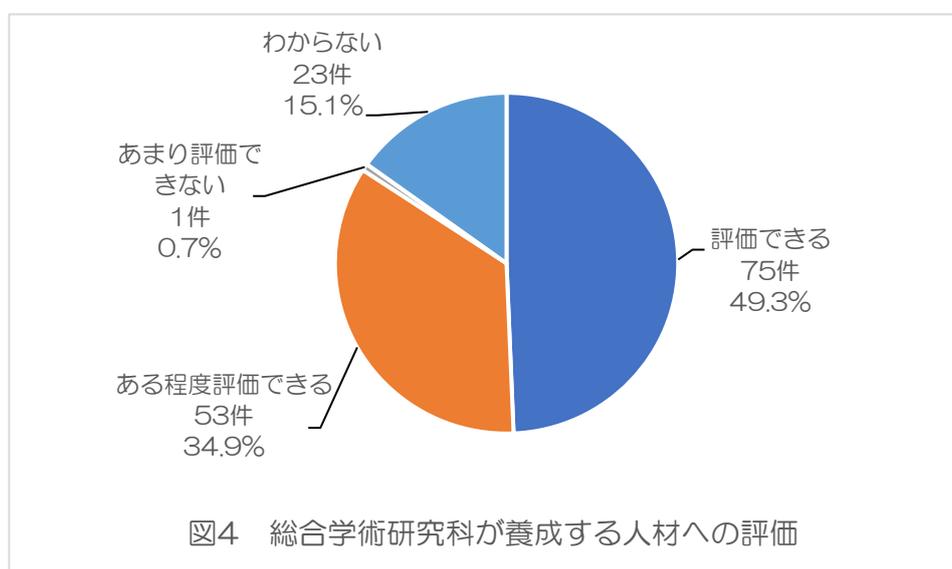
表 12 回答企業業種

業種	件数	比率	業種	件数	比率
農業・林業	1	0.7%	不動産業、物品賃貸業	3	2.0%
建設業	18	11.8%	学術研究、専門・技術サービス業	12	7.9%
製造業	37	24.3%	生活関連サービス業、娯楽業	1	0.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	2	1.3%	医療、福祉	1	0.7%
情報通信業	20	13.2%	サービス業（他に分類されないもの）	9	5.9%
運輸業、郵便業	2	1.3%	公務（他に分類されないものを除く）	18	11.8%
卸売業、小売業	17	11.2%	その他	1	0.7%
金融業、保険業	10	6.6%	合計	152	100%

イ) 総合学術研究科が養成する人材への評価

新研究科が養成する人材、すなわち「これまでの専門分野固有の能力の育成に加えて、「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組み、複雑化する社会問題に対応できる人材への評価を問う質問の結果は、図4のとおりである。

「評価できる」と回答した企業・団体が75件、「ある程度評価できる」と回答した企業・団体が53件と合計で128件であり、新研究科が養成する人材に対して84.2%の企業が肯定的に捉えており、専門分野の能力に加えて、「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組める人材のニーズが高いことを示している。



ウ) 総合学術研究科が養成する能力の重視度

新研究科が養成する能力（到達目標）を企業・団体において、どの程度重視するかを問う質問の結果は、図5のとおりである。

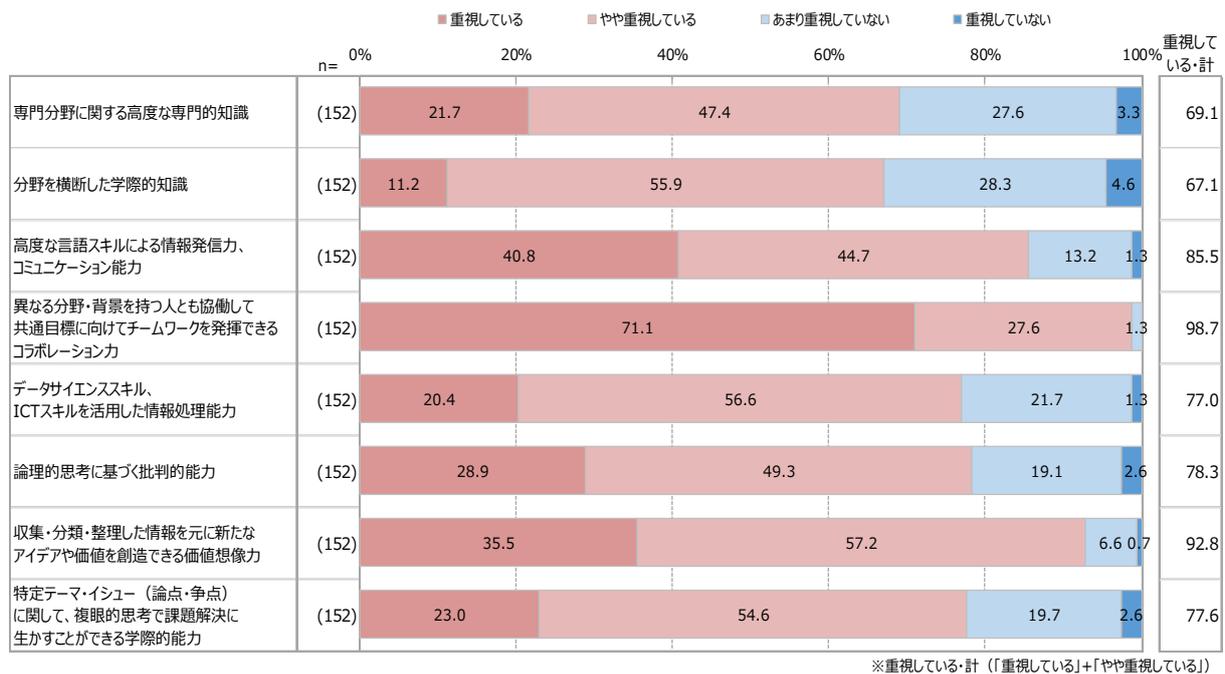


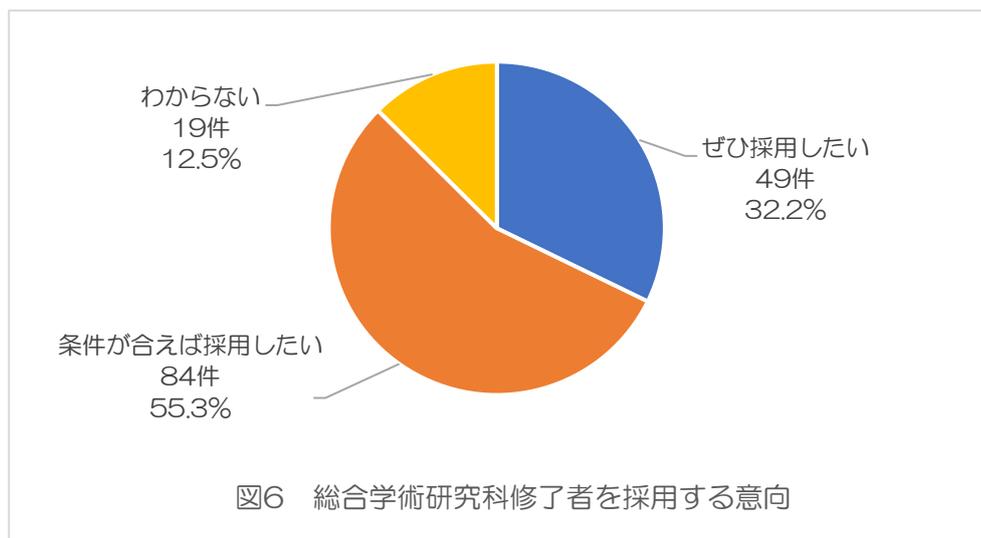
図5 総合学術研究科が養成する能力の重視度

最も重視されている能力は「異なる分野・背景を持つ人とも協働して共通目標に向けてチームワークを発揮できるコラボレーション力」で「重視している」との回答が108人、「やや重視している」との回答が42人と全体の98.7%、「収集・分類・整理した情報を元に新たなアイデアや価値を創造できる価値想像力」も「重視している」との回答が54人、「やや重視している」との回答が87人と全体の92.8%と高い数値となっている。他の能力についても高い数値となっており、新研究科で養成する能力が、企業・団体においても重視されていることを示している。

エ) 採用意向について

新研究科が養成する人材の採用意向について問う質問の結果は、図6のとおりである。

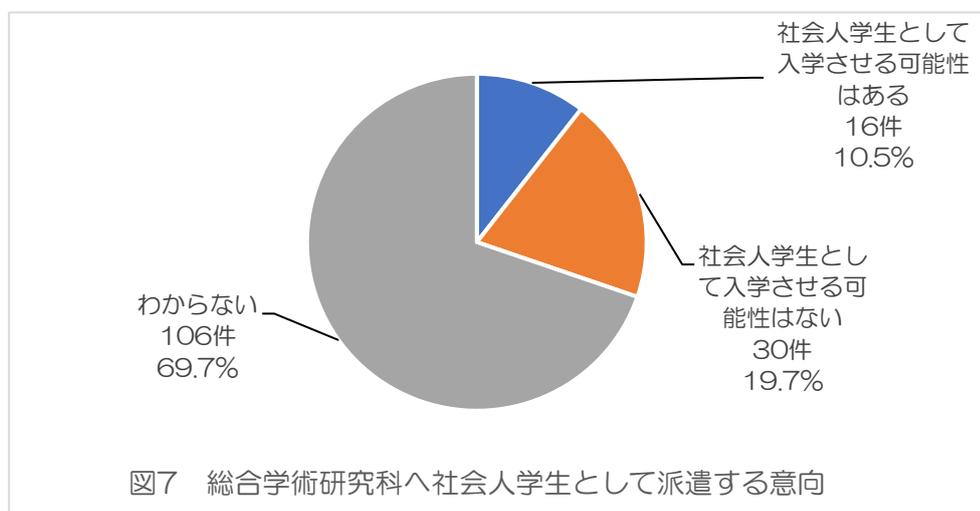
「ぜひ採用したい」という企業・団体は49件、「条件が合えば採用したい」という企業・団体は84件であり、87.5%の企業・団体が新研究科で養成する人材の採用を前向きに捉えていることを示している。



オ) 社会人学生として派遣の意向

新研究科に対して、研修の一環で、社会人学生として派遣する意向について問う質問の結果は図7のとおりである。

明確に「入学させたい」と回答した企業・団体は無かったが、「入学させる可能性がある」と回答した企業・団体は16件、最も多かったのが「わからない」の106件であった。



なお、「入学させる可能性がある」、「入学させる可能性はない」、「わからない」と回答をいただいた企業・団体に対しては、どのような支援があれば、派遣を促進する要因となるかという質問をおこなった。その回答は表13のとおりである。

希望する支援として、最も多かったのが、「オンラインでの遠隔指導、授業のオンデマンド配信等の開講」であった。今後、社会人学生の受入れを促進するには、職を有する社会人が学びやすい環境を整備することが課題であると考えられる。

表 13 派遣を促進させる要因

派遣を促進させる要因	件数	比率
オンラインでの遠隔指導、授業のオンデマンド配信等の開講が可能	81	53.3%
入学料や授業料の減免制度	57	37.5%
夜間や週末等、特定時期に学ぶことが出来る	56	36.8%
短期修了制度	48	31.6%
その他	1	0.7%
特になし	55	36.2%

カ) 調査結果の考察

以上の調査の結果、総合学術研究科が養成する人材への評価、養成する能力は、社会の需要に叶うものであり、修了後の採用に結び付くものであることを確認することができる。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

目次

資料 1	既設研究科の入学定員の充足状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
資料 2	大学院に関するアンケート（学部3年生対象）	
	調査内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
資料 3	社会人向けアンケート	
	調査内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
	結果報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	（参考）集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
資料 4	企業向けアンケート	
	調査内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	46
	結果報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52
	（参考）集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67
資料 5	新潟大学大学院改革リーフレット・・・・・・・・・・・・・・・・・・	73

◆既設研究科の入学定員の充足状況◆

研究科名	専攻名	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均
現代社会文化研究科（博士前期課程）	現代文化専攻	定員	10	10	10	10	10	10.0
		入学者数 (充足率)	30 (300.0%)	20 (200.0%)	33 (330.0%)	25 (250.0%)	19 (190.0%)	25.4 (254.0%)
		情報社会文化分野	14	5	13	9	9	10.0
		選抜区分別						
		一般	4	2	2	2	2	2.4
		内、他大学出身者（内数）	(0)	(1)	(1)	(1)	(0)	(0.6)
		社会人	2	0	3	0	0	1.0
		外国人留学生	8	3	8	7	7	6.6
		現代人間科学分野	8					8.0
		選抜区分別						
		一般	6					6.0
		内、他大学出身者（内数）	(2)					(2.0)
		社会人	1					1.0
		外国人留学生	1					1.0
		生活健康行動科学分野	8					8.0
	選抜区分別							
	一般	6					6.0	
	内、他大学出身者（内数）	(1)					(1.0)	
	社会人	0					0.0	
	外国人留学生	2					2.0	
	人間形成科学分野		15	20	16	10	15.3	
	選抜区分別							
	一般		12	14	11	8	11.3	
	内、他大学出身者（内数）		(1)	(2)	(0)	(1)	(1.0)	
	社会人		0	1	1	1	0.8	
	外国人留学生		3	5	4	1	3.3	
社会文化専攻	定員	20	20	20	20	20	20.0	
	入学者数 (充足率)	14 (70.0%)	9 (45.0%)	6 (30.0%)	11 (55.0%)	11 (55.0%)	10.2 (51.0%)	
	アジア社会文化分野	8					8.0	
	選抜区分別							
	一般	2					2.0	
	内、他大学出身者（内数）	(0)					(0.0)	
	社会人	0					0.0	
	外国人留学生	6					6.0	
	国際日本文化分野	1					1.0	
	選抜区分別							
	一般	0					0.0	
内、他大学出身者（内数）	(0)					(0.0)		
社会人	0					0.0		
外国人留学生	1					1.0		
環東アジア社会文化分野		4	4	6	7	5.3		
選抜区分別								
一般		2	2	2	4	2.5		
内、他大学出身者（内数）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0.0)		
社会人		0	0	0	0	0.0		
外国人留学生		2	2	4	3	2.8		
欧米社会文化分野	5	5	2	5	4	4.2		
選抜区分別								
一般	0	4	0	2	3	1.8		
内、他大学出身者（内数）	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0.2)		
社会人	0	0	0	0	0	0.0		
外国人留学生	5	1	2	3	1	2.4		

研究科名	専攻名	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均	
	法政社会専攻	定員	10	10	10	10	10	10.0	
		入学者数 (充足率)	3 (30.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	10 (100.0%)	2 (20.0%)	3.8 (38.0%)	
		法政社会分野	3	3	1	10	2	3.8	
		選抜区分 別	一般 内、他大学出身者 (内数)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0.6 (0.0)
		社会人	1	1	1	3	0	1.2	
		外国人留学生	2	1	0	6	1	2.0	
		国際社会分野	0	0	0	0	0	0.0	
		選抜区分 別	一般 内、他大学出身者 (内数)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)
		社会人	0	0	0	0	0	0.0	
		外国人留学生	0	0	0	0	0	0.0	
	経済経営専攻	定員	20	20	20	20	20	20.0	
		入学者数 (充足率)	14 (70.0%)	5 (25.0%)	12 (60.0%)	20 (100.0%)	8 (40.0%)	11.8 (59.0%)	
		経済社会分野	3	0	2	5	2	2.4	
		選抜区分 別	一般 内、他大学出身者 (内数)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	0.6 (0.0)
		社会人	0	0	0	0	0	0.0	
		外国人留学生	3	0	2	3	1	1.8	
		経営会計分野	11	5	10	11	3	8.0	
		選抜区分 別	一般 内、他大学出身者 (内数)	2 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0.8 (0.4)
		社会人	6	1	2	4	0	2.6	
		外国人留学生	3	4	7	6	3	4.6	
		日本酒学分野			0	4	3	2.3	
選抜区分 別	一般 内、他大学出身者 (内数)			0 (0)	1 (1)	0 (0)	0.3 (0.3)		
社会人			0	2	3	1.7			
外国人留学生			0	1	0	0.3			
研究科計	定員	60	60	60	60	60	60.0		
	入学者数 (充足率)	61 (101.7%)	37 (61.7%)	52 (86.7%)	66 (110.0%)	40 (66.7%)	51.2 (85.3%)		
	選抜区分 別	一般 内、他大学出身者 (内数)	20 (4)	21 (3)	19 (4)	22 (2)	19 (1)	20.2 (2.8)	
	社会人	10	2	7	10	4	6.6		
	外国人留学生	31	14	26	34	17	24.4		

※現代社会文化専攻現代人間科学分野および生活健康行動科学分野の平均は令和2年度の1年分

※現代社会文化専攻人間形成科学分野の平均は令和3から6年度の4年間で算出

※社会文化専攻アジア社会文化分野および国際日本文化分野の平均は令和2年度の1年分

※社会文化専攻環東アジア社会文化分野の平均は令和3から6年度の4年間で算出

※経済経営専攻日本酒学分野の平均は令和4から6年度の3年間で算出

研究科名	専攻名	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均	
自然科学研究科（博士前期課程）	数理解物質科学専攻	定員	63	63	63	63	63	63.0	
		入学者数 (充足率)	56 (88.9%)	61 (96.8%)	54 (85.7%)	59 (93.7%)	61 (96.8%)	58.2 (92.4%)	
		物理学コース	22	27	19	30	21	23.8	
		選抜区分 別	一般	22	26	19	30	21	23.6
		内、他大学出身者（内数）	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0.4)	
		社会人	0	0	0	0	0	0.0	
		外国人留学生	0	1	0	0	0	0.2	
		化学コース	29	23	17	16	20	21.0	
		選抜区分 別	一般	29	23	17	16	20	21.0
		内、他大学出身者（内数）	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0.2)	
		社会人	0	0	0	0	0	0.0	
		外国人留学生	0	0	0	0	0	0.0	
		数理科学コース	5	11	18	13	20	13.4	
		選抜区分 別	一般	5	11	17	13	19	13.0
	内、他大学出身者（内数）	(1)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0.4)		
	社会人	0	0	0	0	0	0.0		
	外国人留学生	0	0	1	0	1	0.4		
	材料生産システム専攻	定員	143	143	143	143	143	143.0	
		入学者数 (充足率)	167 (116.8%)	144 (100.7%)	172 (120.3%)	152 (106.3%)	168 (117.5%)	160.6 (112.3%)	
		機能材料科学コース	31	36	39	42	38	37.2	
選抜区分 別		一般	31	36	37	38	37	35.8	
内、他大学出身者（内数）		(3)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0.8)		
社会人		0	0	0	0	0	0.0		
外国人留学生		0	0	2	4	1	1.4		
素材生産科学コース		63	34	54	30	38	43.8		
選抜区分 別		一般	61	34	53	28	38	42.8	
内、他大学出身者（内数）		(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0.2)		
社会人		0	0	0	0	0	0.0		
外国人留学生		2	0	1	2	0	1.0		
機械科学コース		73	67	69	72	85	73.2		
選抜区分 別		一般	72	65	68	69	80	70.8	
内、他大学出身者（内数）		(0)	(0)	(1)	(2)	(2)	(1.0)		
社会人		0	0	0	0	0	0.0		
外国人留学生	1	2	1	3	5	2.4			
社会システム工学コース		7	10	8	7	8.0			
選抜区分 別	一般		5	10	7	7	7.3		
内、他大学出身者（内数）			(0)	(0)	(0)	(0)	(0.0)		
社会人		1	0	0	0	0	0.3		
外国人留学生		1	0	1	0	0.5			

研究科名	専攻名	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均	
	電気情報工学専攻	定員	122	122	122	122	122	122.0	
		入学者数 (充足率)	131 (107.4%)	148 (121.3%)	138 (113.1%)	124 (101.6%)	139 (113.9%)	136.0 (111.5%)	
		情報工学コース	31	58	48	46	61	48.8	
		選抜区分別	一般	31	56	42	43	59	46.2
			内、他大学出身者 (内数)	(1)	(1)	(0)	(0)	(2)	(0.8)
			社会人	0	0	0	0	0	0.0
		外国人留学生	0	2	6	3	2	2.6	
		電気電子工学コース	58	58	55	53	45	53.8	
		選抜区分別	一般	54	49	52	47	40	48.4
			内、他大学出身者 (内数)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0.2)
			社会人	0	0	0	0	0	0.0
		外国人留学生	4	9	3	6	5	5.4	
		人間支援科学コース	42	32	35	25	33	33.4	
		選抜区分別	一般	41	32	33	25	33	32.8
	内、他大学出身者 (内数)		(0)	(1)	(0)	(1)	(1)	(0.6)	
	社会人		0	0	0	0	0	0.0	
	外国人留学生	1	0	2	0	0	0.6		
	生命・食料科学専攻	定員	70	70	70	70	70	70.0	
		入学者数 (充足率)	50 (71.4%)	72 (102.9%)	69 (98.6%)	79 (112.9%)	70 (100.0%)	68.0 (97.1%)	
		基礎生命科学コース	4	15	12	13	14	11.6	
選抜区分別		一般	4	15	12	13	14	11.6	
		内、他大学出身者 (内数)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0.4)	
		社会人	0	0	0	0	0	0.0	
外国人留学生		0	0	0	0	0	0.0		
応用生命・食品科学コース		33	41	33	40	41	37.6		
選抜区分別		一般	31	35	28	33	38	33.0	
		内、他大学出身者 (内数)	(0)	(1)	(0)	(1)	(5)	(1.4)	
		社会人	0	0	0	0	0	0.0	
外国人留学生		2	6	5	7	3	4.6		
生物資源科学コース		13	16	18	21	11	15.8		
選抜区分別		一般	8	15	15	16	9	12.6	
		内、他大学出身者 (内数)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0.2)	
		社会人	0	0	0	0	0	0.0	
外国人留学生	5	1	3	5	2	3.2			
日本酒学コース			6	5	4	5.0			
選抜区分別	一般			6	5	4	5.0		
	内、他大学出身者 (内数)			(0)	(0)	(0)	(0.0)		
	社会人			0	0	0	0.0		
外国人留学生			0	0	0	0.0			

研究科名	専攻名	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均	
環境科学専攻		定員	89	89	89	89	89	89.0	
		入学者数 (充足率)	72 (80.9%)	104 (116.9%)	115 (129.2%)	87 (97.8%)	105 (118.0%)	96.6 (108.5%)	
		自然システム科学コース	選抜区分別	14	12	9	7	8	10.0
			一般	13	12	9	7	8	9.8
			内、他大学出身者 (内数)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0.2)
			社会人	0	0	0	0	0	0.0
		外国人留学生	1	0	0	0	0	0.2	
		流域環境学コース	選抜区分別	17	21	15	15	22	18.0
			一般	16	14	13	12	17	14.4
			内、他大学出身者 (内数)	(3)	(1)	(0)	(1)	(1)	(1.2)
			社会人	1	0	0	0	0	0.2
		外国人留学生	0	7	2	3	5	3.4	
		社会基盤・建築学コース	選抜区分別	26	43	55	37	43	40.8
			一般	25	43	51	36	41	39.2
			内、他大学出身者 (内数)	(2)	(3)	(4)	(0)	(0)	(1.8)
			社会人	0	0	0	0	0	0.0
		外国人留学生	1	0	4	1	2	1.6	
		地球科学コース	選抜区分別	8	12	12	7	7	9.2
			一般	7	12	11	3	6	7.8
			内、他大学出身者 (内数)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0.2)
社会人	0		0	0	0	0	0.0		
外国人留学生	1	0	1	4	1	1.4			
災害環境学コース	選抜区分別	7	5	2	0	6	4.0		
	一般	7	5	2	0	6	4.0		
	内、他大学出身者 (内数)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0.2)		
	社会人	0	0	0	0	0	0.0		
外国人留学生	0	0	0	0	0	0.0			
フィールド科学コース	選抜区分別		11	22	21	19	18.3		
	一般		11	21	20	18	17.5		
	内、他大学出身者 (内数)		(1)	(1)	(0)	(2)	(1.0)		
	社会人		0	0	1	0	0.3		
外国人留学生		0	1	0	1	0.5			
研究科計		定員	487	487	487	487	487	487.0	
		入学者数 (充足率)	476 (97.7%)	529 (108.6%)	548 (112.5%)	501 (102.9%)	543 (111.5%)	519.4 (106.7%)	
		選抜区分別	一般	457	499	516	461	515	489.6
			内、他大学出身者 (内数)	(13)	(11)	(10)	(8)	(13)	(11.0)
			社会人	1	1	0	1	0	0.6
外国人留学生	18		29	32	39	28	29.2		

※選抜区分「外国人留学生」には、国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムによる入学を含む

※材料生産システム専攻社会システム工学コースの平均は令和3から令和6年度の4年間で算出

※生命・食料科学専攻日本酒学コースの平均は令和4から令和6年度の3年間で算出

※環境科学専攻フィールド科学コースの平均は令和3から令和6年度の4年間で算出

(参考) コロナ禍以前の充足状況

研究科名	専攻名	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平均	
現代社会文化研究科（博士前期課程）	現代文化専攻	定員	10	10	10	10	10	10.0	
		入学者数 (充足率)	11 (110.0%)	5 (50.0%)	27 (270.0%)	25 (250.0%)	33 (330.0%)	20.2 (202.0%)	
		選抜区分別	一般	6	2	15	12	14	9.8
			社会人	0	0	0	1	4	1.0
			外国人留学生	5	3	12	12	15	9.4
	社会文化専攻	定員	20	20	20	20	20	20.0	
		入学者数 (充足率)	21 (105.0%)	18 (90.0%)	20 (100.0%)	29 (145.0%)	25 (125.0%)	22.6 (113.0%)	
		選抜区分別	一般	8	4	10	9	6	7.4
			社会人	2	0	1	0	1	0.8
			外国人留学生	11	14	9	20	18	14.4
	法政社会専攻	定員	10	10	10	10	10	10.0	
		入学者数 (充足率)	5 (50.0%)	2 (20.0%)	8 (80.0%)	8 (80.0%)	4 (40.0%)	5.4 (54.0%)	
		選抜区分別	一般	3	1	4	4	1	2.6
			社会人	2	0	2	0	0	0.8
			外国人留学生	0	1	2	4	3	2.0
	経済経営専攻	定員	20	20	20	20	20	20.0	
		入学者数 (充足率)	21 (105.0%)	29 (145.0%)	9 (45.0%)	9 (45.0%)	11 (55.0%)	15.8 (79.0%)	
		選抜区分別	一般	6	7	3	3	0	3.8
			社会人	2	1	2	0	2	1.4
			外国人留学生	13	21	4	6	9	10.6
	研究科計	定員	60	60	60	60	60	60.0	
入学者数 (充足率)		58 (96.7%)	54 (90.0%)	64 (106.7%)	71 (118.3%)	73 (121.7%)	64.0 (106.7%)		
選抜区分別		一般	23	14	32	28	21	23.6	
		社会人	6	1	5	1	7	4.0	
		外国人留学生	29	39	27	42	45	36.4	

研究科名	専攻名	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平均	
自然科学研究科 (博士前期課程)	数 理 物 質 科 学 専 攻	定員	63	63	63	63	63	63.0	
		入学者数 (充足率)	60 (95.2%)	60 (95.2%)	54 (85.7%)	75 (119.0%)	58 (92.1%)	61.4 (97.5%)	
		選 抜 区 分 別	一般	60	59	53	75	58	61.0
			社会人	0	0	0	0	0	0.0
	外国人留学生		0	1	1	0	0	0.4	
	材 料 生 産 シ ス テ ム 専 攻	定員	143	143	143	143	143	143.0	
		入学者数 (充足率)	172 (120.3%)	140 (97.9%)	148 (103.5%)	142 (99.3%)	145 (101.4%)	149.4 (104.5%)	
		選 抜 区 分 別	一般	170	139	146	137	137	145.8
			社会人	0	0	0	0	0	0.0
	外国人留学生		2	1	2	5	8	3.6	
	電 気 情 報 工 学 専 攻	定員	122	122	122	122	122	122.0	
		入学者数 (充足率)	124 (101.6%)	126 (103.3%)	137 (112.3%)	138 (113.1%)	128 (104.9%)	130.6 (107.0%)	
		選 抜 区 分 別	一般	120	122	133	136	119	126.0
			社会人	0	0	0	0	0	0.0
	外国人留学生		4	4	4	2	9	4.6	
	生 命 ・ 食 料 科 学 専 攻	定員	70	70	70	70	70	70.0	
		入学者数 (充足率)	68 (97.1%)	63 (90.0%)	63 (90.0%)	57 (81.4%)	60 (85.7%)	62.2 (88.9%)	
		選 抜 区 分 別	一般	65	63	61	52	51	58.4
			社会人	0	0	0	1	1	0.4
	外国人留学生		3	0	2	4	8	3.4	
	環 境 科 学 専 攻	定員	89	89	89	89	89	89.0	
		入学者数 (充足率)	67 (75.3%)	70 (78.7%)	83 (93.3%)	70 (78.7%)	85 (95.5%)	75.0 (84.3%)	
		選 抜 区 分 別	一般	66	66	80	68	83	72.6
			社会人	0	2	0	0	0	0.4
外国人留学生	1		2	3	2	2	2.0		
研 究 科 計	定員	487	487	487	487	487	487.0		
	入学者数 (充足率)	491 (100.8%)	459 (94.3%)	485 (99.6%)	482 (99.0%)	476 (97.7%)	478.6 (98.3%)		
	選 抜 区 分 別	一般	481	449	473	468	448	463.8	
		社会人	0	2	0	1	1	0.8	
外国人留学生		10	8	12	13	27	14		

[学部生対象] 大学院に関するアンケート

本調査はみなさまの大学院進学に関する興味や意識に関してお尋ねするものです。今後の本学の大学院教育改革の基礎資料とすることを目的に、学部1～3年生等を対象に実施しています。以下の注意事項をお読みのうえ、質問にご回答ください。

- ① 本調査は匿名で実施するものです。このアンケートへの回答により、みなさまの成績評価や進学・進路に関する評価などに影響を与えることは絶対にありません。
- ② ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理されます。また結果は調査目的以外に利用することはありません。
- ③ お一人1回の回答を想定した調査です。別の機会に回答した場合は、二重に回答しないようご注意ください。どうぞ、率直な回答をよろしくお願い致します。

このアンケートに記載されている新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称・設置構想中）に関する事項は全て予定であり、内容が変更する可能性があります。

* 必須

1

あなたの学年を選択してください。
(本調査は、学部1～3年生等を対象にしたものです。)*

- 学部1年生 (B1)
- 学部2年生 (B2)
- 学部3年生 (B3)
- その他 (研究生、科目等履修生等)

2

あなたの所属学部を選択してください。*

- 人文学部
- 教育学部
- 法学部
- 経済科学部
- 理学部
- 工学部
- 農学部
- 創生学部
- その他

あなたの所属している学位プログラムを選択してください。未定（決まっていない）の方は、そちらをお選びください。

*

- 未定（決まっていない）
- 心理・人間学プログラム
- 社会文化学プログラム
- 言語文化学プログラム
- 学校教員養成プログラム
- 法学プログラム
- 法曹養成プログラム
- 経済学プログラム
- 経営学プログラム
- 学際日本学プログラム
- 地域リーダープログラム
- 数学プログラム
- 物理学プログラム
- 化学プログラム
- 生物学プログラム
- 地質科学プログラム
- 自然環境科学プログラム
- フィールド科学人材育成プログラム（理学部）
- 機械システム工学プログラム
- 社会基盤工学プログラム
- 電子情報通信プログラム
- 知能情報システムプログラム
- 化学システム工学プログラム
- 材料科学プログラム
- 建築学プログラム
- 人間支援感性科学プログラム
- 協創経営プログラム
- 応用生命科学プログラム
- 食品科学プログラム

- ～
- 生物資源科学プログラム
 - 流域環境学プログラム
 - フィールド科学人材育成プログラム（農学部）
 - 創生学修プログラム

4

あなたの性別を選択してください。*

- 男性
- 女性
- 無回答

5

卒業後の進路を現時点でどのようにお考えですか。以下の項目からあてはまるものをひとつ選択してください。*

- 大学院への進学
- 大学院進学について悩んでいる
- 就職
- その他（留学、起業等）
- 現時点では未定

6

大学院進学を悩んでいる理由を教えてください。
以下の項目から該当するものを全て選択してください（複数回答可）。*

- 経済的理由
- 修了後の進路が不安
- 家族の反対
- その他

大学院に進学する場合、以下のいずれの大学院に進みたいですか。
以下の項目から該当するものを全て選択してください（複数回答可）。*

- 本学大学院
- 他の国立大学大学院
- 公立大学大学院
- 私立大学院
- 海外の大学院
- その他

あなたの興味のある学問系統はなんですか。以下の項目から該当するものを全て選択してください（複数回答可）。*

- 文学関係
- 史学関係
- 哲学関係
- 人文科学（その他）
- 法学・政治学関係
- 商学・経済学
- 社会学関係
- 社会科学（その他）
- 数学関係
- 物理学関係
- 化学関係
- 生物関係
- 地学関係
- 原子力理学関係
- 理学（その他）
- 機械工学関係
- 電気通信工学関係
- 土木・建築工学関係
- 応用化学関係
- 応用理学関係
- 原子力工学関係
- 金属工学関係
- 経営工学関係
- 工学（その他）
- 農学関係
- 農芸化学関係
- 農業工学関係
- 農業経済学関係
- 林学関係

新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）（現在の現代社会文化研究科（いわゆる文系の学問が中心）と自然科学研究科（いわゆる理系の学問が中心）を統合した、新しい時代に対応する研究科）が開設された場合、進学（受験）を希望しますか。添付しているパンフレットもご確認ください。

以下の項目からあてはまるものをひとつ選択してください。*

- 第一希望として受験する
- 第二希望として受験する
- 第三希望以降として受験する
- 受験しない

新たに開設された新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

以下の項目からあてはまるものをひとつ選択してください。*

- 入学する
- 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- 入学しない

新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）に設置を予定している以下の学位プログラムのうち、入学後に希望する学位プログラムをひとつ選択してください。添付しているパンフレットもご確認ください。なお、全て博士前期課程（修士号を取得できる課程）です。

*

学位プログラム概要

専門深化型学位プログラム

人間文化科学 哲学、史学、文学、心理学、メディア学、芸術実践、情報社会科学、生活健康行動科学について学修・研究する。「公認心理師」、「臨床心理士」、「日本語教育」のコースを含む。

現代社会科学 法学、政治学、行政学、経済学、経営会計などの社会科学について、他の専門分野や実務家と密接な関連を保ちながら学修・研究をします。

物質創成・基礎科学 物質科学の基礎分野である物理・宇宙科学、基礎化学、数理学、新物質・新素材の開発と実装を目指す材料科学、応用化学を学修・研究します。

システム創成科学 スマート社会を構築するための基盤となる先端技術の開発と社会実装を行うため、機械工学、電子情報通信工学、人間支援科学を学修・研究します。

生命環境科学 生命現象や自然環境に関する科学的探求とその社会実装を目指す。基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学、流域環境学、都市・環境デザイン、地球科学、災害科学を学修・研究します。

総合人文社会科学 前期課程の人文社会科学プログラムと現代社会科学プログラムの専門領域について学修・研究をします。

創成理工科学 前期課程の物質創成・基礎科学プログラムとシステム創成科学プログラムを統合し、物理・宇宙科学、基礎化学、数理学、材料科学、応用化学、機械工学及び電子情報・人間支援科学を学修・研究します。

新潟学際型学位プログラム

アニメ・映像資源科学 新潟大学が持つアニメ等のアーカイブから出発して、アニメや地域のさまざまな映像資料について、その文化や社会のかかわり、画像処理と保存、データベース化などについて領域横断的に学修・研究をします。

日本酒学 日本酒という対象を共通の軸として、自らの専門領域から、日本酒の原料、生産、販売、消費、文化、歴史、健康に至るまでの幅広い領域を俯瞰的に学修・研究をします。

情報社会デザイン科学 情報技術を活用して社会課題を解決するためのデザイン思考やデータサイエンス、ICTスキル、デジタルアーカイブ、コミュニケーションデザインなど情報社会デザイン科学を学修・研究します。

カーボンニュートラル融合科学 創エネルギー・省エネルギー・蓄エネルギーに関連する個別科学技術に加え、スマートグリッドに代表されるエネルギー・マネジメントやエネルギー・輸送など、カーボンニュートラル融合科学を学修・研究します。

フィールド科学 さまざまなフィールドで得たデータを分析・解析する「フィールド科学」を通じて、自然現象の科学的理解や自然環境と人間社会の共生を目指し学修・研究をします。

ひと脳・健康科学 人間の脳と健康に関する科学的知識について、特に脳の機能や神経疾患、精神疾患のメカニズム解明、治療法の開発など、ひと脳・健康科学を学修・研究します。

- 人間文化科学プログラム（哲学、史学、文学、心理学、メディア学、芸術実践、情報社会科学、生活健康行動科学について学修・研究する。「公認心理師」、「臨床心理士」、「日本語教育」のコースを含む。）
- 現代社会科学プログラム（法学、政治学、行政学、経済学、経営会計などの社会科学について、他の専門分野や実務家と密接な関連を保ちながら学修・研究する。）
- 物質創成・基礎科学プログラム（物質科学の基礎分野である物理・宇宙科学、基礎化学、数理学、新物質・新素材の開発と実装を目指す材料科学、応用化学を学修・研究する。）
- システム創成科学プログラム（スマート社会を構築するための基盤となる先端技術の開発と社会実装を行うため、機械工学、電子情報通信工学、人間支援科学を学修・研究する。）
- 生命環境科学プログラム（生命現象や自然環境に関する科学的探求とその社会実装を目指す、基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学、緑の環境学、都市・環境デザイン、地球科学、災害科学を学修・研究する。）
- アニメ・映像資源科学プログラム（新潟大学が持つアニメ等のアーカイブから出発して、アニメや地域のさまざまな映像資料について、その文化や社会のかかわり、画像処理と保存、データベース化などについて領域横断的に学修・研究する。）
- 日本酒学プログラム（日本酒という対象を共通の軸として、自らの専門領域から、日本酒の原料、生産、販売、消費、文化、歴史、健康に至るまでの幅広い領域を俯瞰的に学修・研究する。）
- 情報社会デザイン科学プログラム（情報技術を活用して社会課題を解決するためのデザイン思考やデータサイエンス、ICTスキル、デジタルアーカイブ、コミュニケーションデザインなど情報社会デザイン科学を学修・研究する。）
- カーボンニュートラル融合科学プログラム（創エネルギー・省エネルギー・蓄エネルギーに関連する個別科学技術に加え、スマートグリッドに代表されるエネルギー・マネジメントやエネルギー・輸送など、カーボンニュートラル融合科学を学修・研究する。）
- フィールド科学プログラム（さまざまなフィールドで得たデータを分析・解析する「フィールド科学」を通じて、自然現象の科学的理解や自然環境と人間社会の共生を目指し学修・研究する。）
- ひと脳・健康科学プログラム（人間の脳と健康に関する科学的知識について、特に脳の機能や神経疾患、精神疾患のメカニズム解明、治療法の開発など、ひと脳・健康科学を学修・研究する。）

12

一つ前の質問で、当該プログラムを選んだ理由をお答えください。
以下の項目から該当するものを全て選択してください（複数選択可）。*

- 現在の研究内容や探究している内容に近いから
- 興味がある研究分野だから
- 将来の進路に役に立ちそうだから
- プログラム内の異分野との連携が期待できそうだから
- その他

13

博士後期課程（博士号を取得できる課程）までの進学を考えていますか。
現時点のお考えに近いもの以下の項目からひとつ選択してください。*

- 進学したい
- 進学を検討している
- 進学は考えていない

14

新たに新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）が開設された場合、そのような研究科に期待することや、疑問に思うことなどはありますか。
どのような内容でも構いませんので、何かあれば自由に記述してください。特になければ、無回答で構いません。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

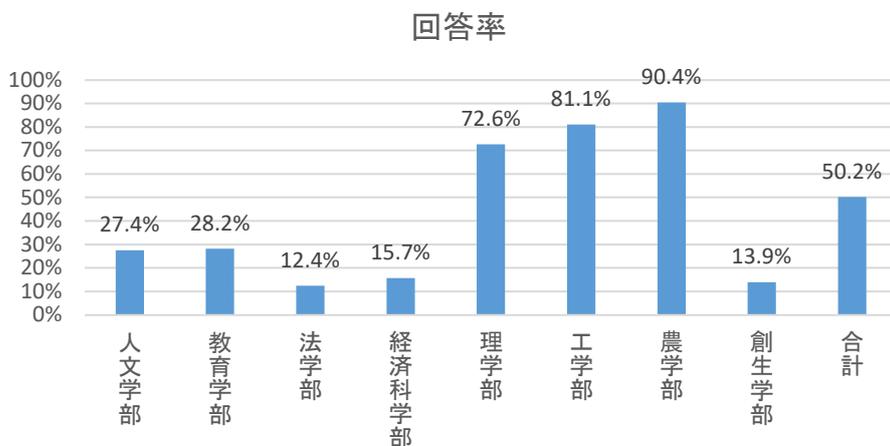
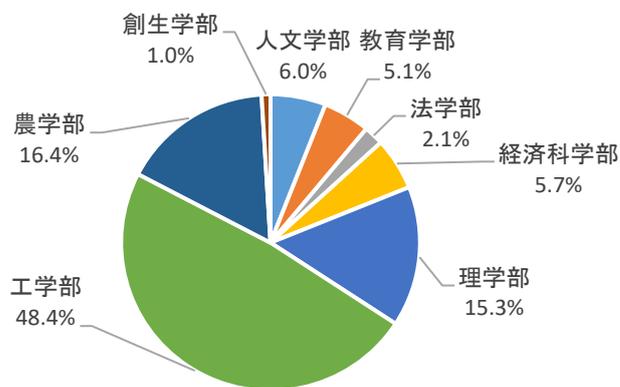
 Microsoft Forms

◆大学院に関するアンケート◆

【人文・教育・法・経済・理・工・農・創生学部3年生】

(1)あなたの所属学部を選択してください。

	学部	回答人数	割合	対象学生数	回収率
1	人文学部	62	6.0%	226	27.4%
2	教育学部	53	5.1%	188	28.2%
3	法学部	22	2.1%	178	12.4%
4	経済科学部	59	5.7%	376	15.7%
5	理学部	159	15.3%	219	72.6%
6	工学部	502	48.4%	619	81.1%
7	農学部	170	16.4%	188	90.4%
8	創生学部	10	1.0%	72	13.9%
	合計	1,037	100.0%	2,066	50.2%

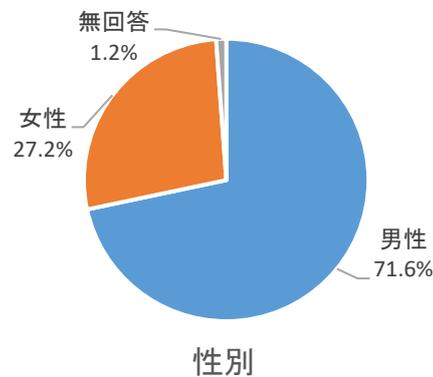


(2) あなたの所属している学位プログラムを選択してください。
未定(決まっていない)の方は、そちらをお選びください。

(省略)

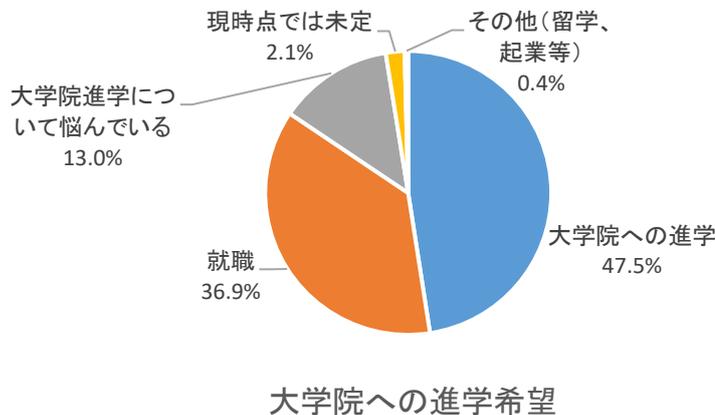
(3) あなたの性別を選択してください。

	性別	回答人数	割合
1	男性	743	71.6%
2	女性	282	27.2%
3	無回答	12	1.2%
	合計	1,037	100.0%



(4) 卒業後の進路を現時点でどのようにお考えですか。
以下の項目からあてはまるものをひとつ選択してください。

	大学院への進学希望	回答人数	割合
1	大学院への進学	493	47.5%
2	就職	383	36.9%
3	大学院進学について悩んでいる	135	13.0%
4	現時点では未定	22	2.1%
5	その他(留学、起業等)	4	0.4%
	合計	1,037	100.0%



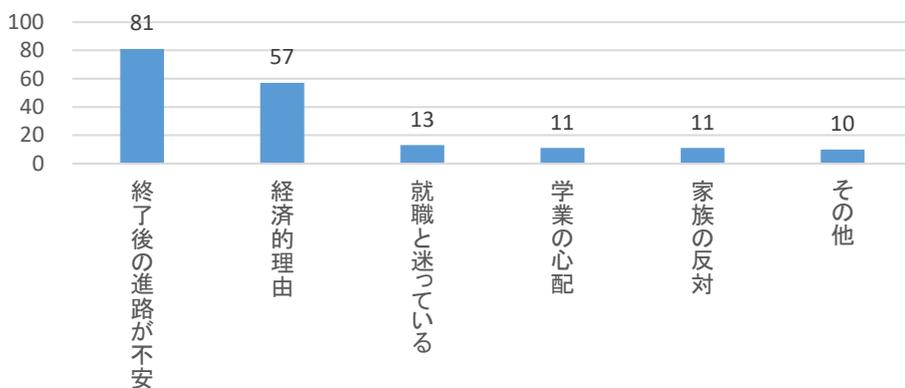
(5) 大学院進学を悩んでいる理由を教えてください。

以下の項目から該当するものを全て選択してください(複数回答可)。

※(4)で「大学院進学について悩んでいる」と回答した者(135人)のみが回答対象

	進学を悩んでいる理由	回答人数	回答者の割合
1	終了後の進路が不安	81	60.0%
2	経済的理由	57	42.2%
3	就職と迷っている	13	9.6%
4	学業の心配	11	8.1%
5	家族の反対	11	8.1%
6	その他	10	7.4%
	回答者数	135	

進学を悩んでいる理由



(6) 大学院に進学する場合、以下のいずれの大学院に進みたいですか。

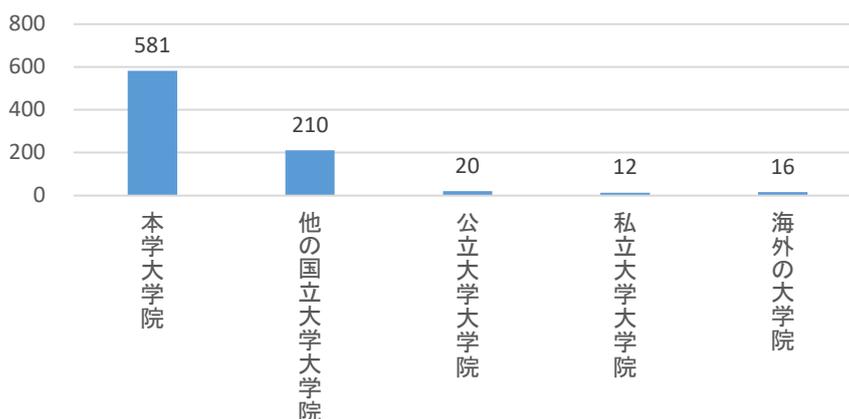
以下の項目から該当するものを全て選択してください(複数回答可)。

※(4)で「大学院への進学」または「大学院進学について悩んでいる」と回答した者(628人)が回答対象

	希望の進学先	回答人数	回答者の割合
1	本学大学院	581	92.5% ※
2	他の国立大学大学院	210	33.4%
3	公立大学大学院	20	3.2%
4	私立大学大学院	12	1.9%
5	海外の大学院	16	2.5%
	回答者数	628	

※内、本学大学院のみ回答した人数:412人

希望の進学先



(7)あなたの興味のある学問系統はなんですか。

以下の項目から該当するものを全て選択してください(複数回答可)。

※(4)で「大学院への進学」または「大学院進学について悩んでいる」と回答した者(628人)が回答対象

	興味のある学問系統	回答人数
1	電気通信工学関係	129
2	機械工学関係	125
3	化学関係	104
4	工学(その他)	91
5	生物関係	71
6	土木・建築工学関係	70
7	物理学関係	69
8	応用化学関係	63
9	農学関係	57
10	農芸化学関係	38
11	数学関係	37
12	食物学関係	31
13	医学	27
14	地学関係	25
15	商学・経済学	24
16	人文科学(その他)	23
17	理学(その他)	23
18	金属工学関係	22
19	農学(その他)	21
20	音楽関係	19
21	原子力工学関係	19
22	応用理学関係	18
23	経営工学関係	18
24	原子力理学関係	17
25	美術関係	16
26	法学・政治学関係	16
27	医学(その他)	14
28	社会学関係	14
29	農業工学関係	14
30	文学関係	14
31	教育学関係	12
32	哲学関係	12
33	林学関係	12
34	史学関係	11
35	芸術(その他)	10
36	社会科学(その他)	9
37	住居学関係	7
38	農業経済学関係	6
39	児童学関係	5
40	体育学関係	5

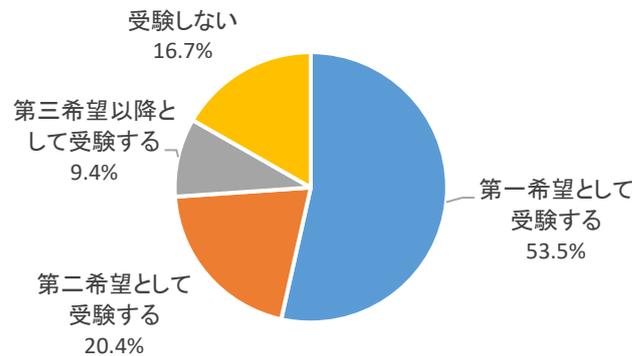
※回答数が5以上のものを記載

(8)新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科(仮称)(現在の現代社会文化研究科(いわゆる文系の学問が中心)と自然科学研究科(いわゆる理系の学問が中心)を統合した、新しい時代に対応する研究科)が開設された場合、進学(受験)を希望しますか。

添付しているパンフレットもご確認ください。

※(4)で「大学院への進学」または「大学院進学について悩んでいる」と回答した者(628人)が回答対象

	総合学術研究科への進学希望	回答人数	割合
1	第一希望として受験する	336	53.5%
2	第二希望として受験する	128	20.4%
3	第三希望以降として受験する	59	9.4%
4	受験しない	105	16.7%
	合計	628	100.0%

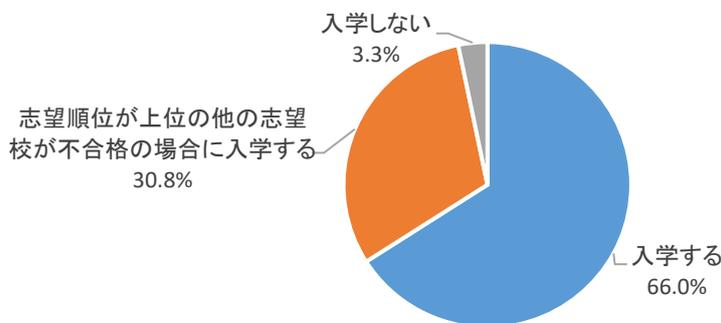


総合学術研究科への進学希望

(9)新たに開設された新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科(仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

※(8)で「受験しない」と回答した者を除く523人が回答対象者

	総合学術研究科への入学希望	回答人数	割合
1	入学する	345	66.0%
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	161	30.8%
3	入学しない	17	3.3%
	合計	523	100.0%



総合学術研究科への入学希望

(10)新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科(仮称)に設置を予定している以下の学位プログラムのうち、入学後に希望する学位プログラムをひとつ選択してください。

添付しているパンフレットもご確認ください。

なお、全て博士前期課程(修士号を取得できる課程)です。

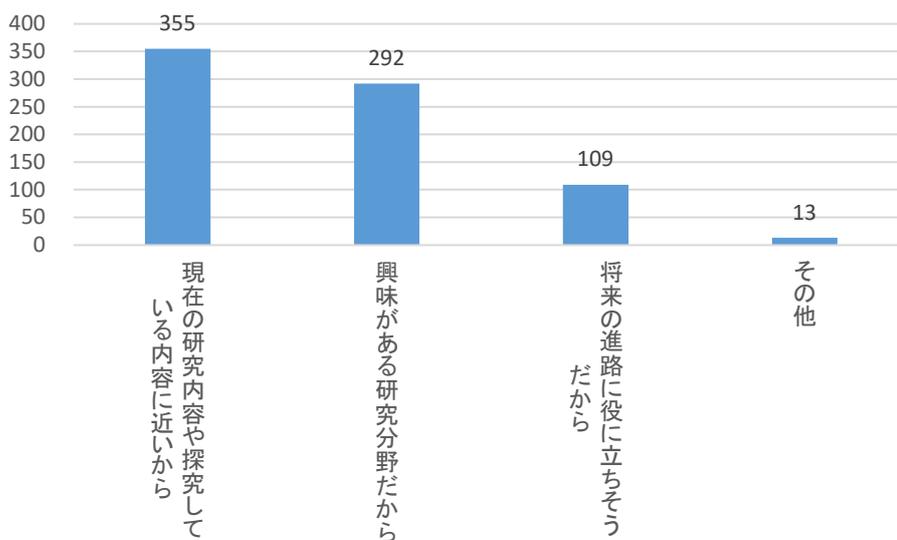
※(8)で「受験しない」または(9)で「入学しない」と回答した者を除く506人が回答対象者

	入学を希望する学位プログラム	回答人数
1	人間文化科学プログラム	15
2	現代社会科学プログラム	10
3	物質創成・基礎科学プログラム	104
4	システム創成科学プログラム	127
5	生命環境科学プログラム	128
6	アニメ・映像資源科学プログラム	3
7	日本酒学プログラム	5
8	情報社会デザイン科学プログラム	78
9	カーボンニュートラル融合科学プログラム	9
10	フィールド科学プログラム	19
11	ひと脳・健康科学プログラム	8
	合計	506

(11)一つ前の質問で、当該プログラムを選んだ理由をお答えください(複数回答可)。

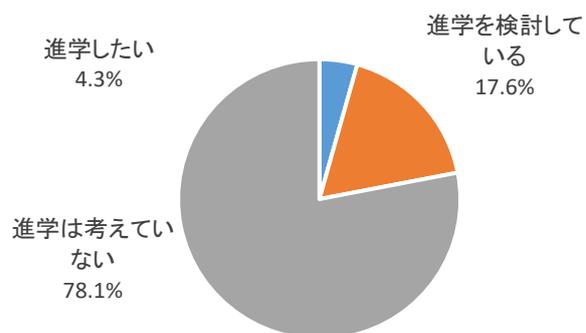
	入学を希望する学位プログラム	回答人数	回答者の割合
1	現在の研究内容や探究している内容に近いから	355	70.2%
2	興味がある研究分野だから	292	57.7%
3	将来の進路に役に立ちそうだから	109	21.5%
4	その他	13	2.6%
	回答者数	506	

プログラムを選んだ理由



(12) 博士後期課程(博士号を取得できる課程)までの進学を考えていますか。

	入学を希望する学位プログラム	回答人数	割合
1	進学したい	22	4.3%
2	進学を検討している	89	17.6%
3	進学は考えていない	395	78.1%
	合計	506	100.0%



博士後期課程への進学希望

社会人を対象としたネット・アンケート

本調査は、大学院進学に関する興味や意識に関してお尋ねするものです。今後の本学の大学院教育改革の基礎資料とすることを目的に実施しています。

結果は調査目的以外に利用することはありません。

このアンケートに記載されている新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称・設置構想中）に関する事項は全て予定であり、内容が変更する可能性があります。

Q1 新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称：現在の現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合した、新しい時代に対応する研究科）の博士課程が開設された場合、入学したいとお考えになりますか。添付しているパンフレットもご確認ください。

以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選択してください。

1. ぜひ入学したい→Q2へ
2. 入学してみたいが悩んでいる→Q3へ
3. 興味がない→（3-4回答者はアンケート終了）
4. その他（自由記入）

（Q1で「1」、「2」を選択した方への質問）

Q2 人文社会・自然科学研究科（仮称）への入学を希望する時期をお聞かせください。

以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選択してください。

1. 令和8年度（開設時）
2. 令和9年度～令和11年度（開設後3年以内）
3. 令和12年度以降（開設後4年後以降）
4. 決めていない

（Q1で「2」を選択した方への質問）

Q3 大学院入学を悩んでいる理由を教えてください。

以下の選択肢から該当するものを全て選択してください。（複数選択可）

1. 経済的理由
2. 仕事との両立 時間や体力

3. 職場で同意を得られない
4. 興味はあるが、学力に不安がある
5. 介護を抱えている
6. 育児している
7. (介護・育児以外に) 家族の反対
8. その他 (病気など)

(Q1で「1」、「2」選択した方への質問)

Q4 新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科(仮称)に設置を予定している以下の学位プログラムのうち、入学後に希望する学位プログラムをひとつ選択してください。添付しているパンフレットもご確認ください。

博士前期課程(修士号を取得する課程)

1. 人間文化科学プログラム

哲学、史学、文学、心理学、メディア学、芸術実践、情報社会科学、生活健康行動科学について学修・研究する。「公認心理師」、「臨床心理士」、「日本語教育」のコースを含む。

2. 現代社会科学プログラム

法学、政治学、行政学、経済学、経営会計などの社会科学について、他の専門分野や実務家と密接な関連を保ちながら学修・研究する。

3. 物質創成・基礎科学プログラム

物質科学の基礎分野である物理・宇宙科学、基礎化学、数理科学、新物質・新素材の開発と実装を目指す材料科学、応用化学を学修・研究する。

4. システム創成科学プログラム

スマート社会を構築するための基盤となる先端技術の開発と社会実装を行うため、機械工学、電子情報通信工学、人間支援科学を学修・研究する。

5. 生命環境科学プログラム

生命現象や自然環境に関する科学的探求とその社会実装を目指す、基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学、流域環境学、都市・環境デザイン、地球科学、災害科学を学修・研究する。

6. アニメ・映像資源科学プログラム

新潟大学が持つアニメ等のアーカイブから出発して、アニメや地域のさまざまな映像資料につ

いて、その文化や社会とのかかわり、画像処理と保存、データベース化などについて領域横断的に学修・研究する。

7. 日本酒学プログラム

日本酒という対象を共通の軸として、自らの専門領域から、日本酒の原料、生産、販売、消費、文化、歴史、健康に至るまでの幅広い領域を俯瞰的に学修・研究する。

8. 情報社会デザイン科学プログラム

情報技術を活用して社会課題を解決するためのデザイン思考やデータサイエンス、ICTスキル、デジタルアーカイブ、コミュニケーションデザインなど情報社会デザイン科学を学修・研究する。

9. カーボンニュートラル融合科学プログラム

創エネルギー・省エネルギー・蓄エネルギーに関連する個別科学技術に加え、スマートグリッドに代表されるエネルギーマネジメントやエネルギー輸送など、カーボンニュートラル融合科学を学修・研究する。

10. フィールド科学プログラム

さまざまなフィールドで得たデータを分析・解析する「フィールド科学」を通じて、自然現象の科学的理解や自然環境と人間社会の共生を目指し学修・研究する。

11. ひと脳・健康科学プログラム

人間の脳と健康に関する科学的知識について、特に脳の機能や神経疾患、精神疾患のメカニズム解明、治療法の開発など、ひと脳・健康科学を学修・研究する。

博士後期課程（博士号を取得する課程）

12. 総合人文社会科学プログラム

前期課程の人間文化科学プログラムと現代社会科学プログラムを統合し、人文・社会諸科学の専門領域について学修・研究する。

13. 創成理工科学プログラム

前期課程の物質創成・基礎科学プログラムとシステム創成科学プログラムを統合し、物理・宇宙科学、基礎化学、数理科学、材料科学、応用化学、機械工学及び電子情報・人間支援科学を学修・研究する。

14. 生命環境科学プログラム

生命現象や自然環境に関する科学的探求とその社会実装を目指す、基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学、流域環境学、都市・環境デザイン、地球科学、災害科学を学修・研究する。

15. アニメ・映像資源科学プログラム

新潟大学が持つアニメ等のアーカイブから出発して、アニメや地域のさまざまな映像資料について、その文化や社会とのかかわり、画像処理と保存、データベース化などについて領域横断的に学修・研究する。

16. 日本酒学プログラム

日本酒という対象を共通の軸として、自らの専門領域から、日本酒の原料、生産、販売、消費、文化、歴史、健康に至るまでの幅広い領域を俯瞰的に学修・研究する。

17. 情報社会デザイン科学プログラム

情報技術を活用して社会課題を解決するためのデザイン思考やデータサイエンス、ICTスキル、デジタルアーカイブ、コミュニケーションデザインなど情報社会デザイン科学を学修・研究する。

18. カーボンニュートラル融合科学プログラム（博士後期課程）

創エネルギー・省エネルギー・蓄エネルギーに関連する個別科学技術に加え、スマートグリッドに代表されるエネルギーマネジメントやエネルギー輸送など、カーボンニュートラル融合科学を学修・研究する。

19. フィールド科学プログラム（博士後期課程）

さまざまなフィールドで得たデータを分析・解析する「フィールド科学」を通じて、自然現象の科学的理解や自然環境と人間社会の共生を目指し学修・研究する。

Q5 前問で当該プログラムを選んだ理由を伺います。

以下の選択肢から該当するものを全て選択してください。（複数選択可）

1. 現在の職務内容に近いから
2. 大学等で過去に学んだことがあるから
3. 興味がある研究分野だから
4. 将来の進路に役に立ちそうだから
5. プログラム内の異分野との連携が期待できそうだから
6. その他（ ）

Q6 博士後期課程までの進学を考えていますか

以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選択してください。

1. 進学したい
2. 進学を検討している
3. 進学は考えていない

Q7 新たな大学院に下記のような制度を設置した場合、利用しますか。

以下の選択肢から該当するものを全て選択してください。(複数選択可)

1. 社会人向け奨学金
2. 土日・夜間の開講
3. リモートによる講義・研究指導
4. 託児所
5. 早期修了制度
6. その他(自由記入)

Q8 新たに新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科(仮称)が開設された場合、そのような研究科に期待することや、疑問に思うことなどはありますか。

どのような内容でも構いませんので、何かあれば自由に記述してください。特になければ、無回答で構いません。



国立大学法人新潟大学御中

社会人向けアンケート結果報告書

2025年1月30日

目次

◆ 調査概要	P3
◆ 回答者プロフィール	P4
◆ 調査結果の詳細	P5

報告書内の記述について

※n=30未満は参考値として記載

※「*」は非聴取項目

調査概要

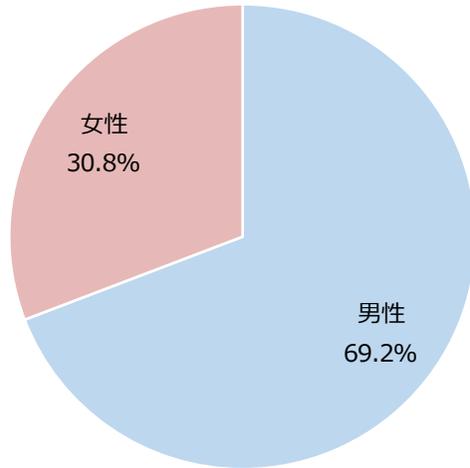
- ◆ 調査目的 : 新たに、大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）の設置を構想しておられる。
<社会人（学ばれる方）> <企業（派遣する側）> の両側面から、学部のニーズを把握し、今後の大学院教育改革の基礎資料とされたい
※今回のレポートでは<社会人（学ばれる方）>の結果を掲載。
- ◆ 調査対象 : モニター 20～69歳の男女
最終学歴が大学以上の方/社会人経験のある方/社会人向けの大学・大学院に関心のある方
- ◆ 調査地域 : 新潟県、新潟県近県（山形県、福島県、富山県、長野県、群馬県）
- ◆ 調査方法 : インターネットリサーチ
- ◆ 調査時期 : 【事前調査】2025年1月10日（金）～1月18日（土）
【本調査】2025年1月10日（金）～1月18日（土）
- ◆ 有効回答数 : 【事前調査】4849サンプル
【本調査】516サンプル

■ 割付

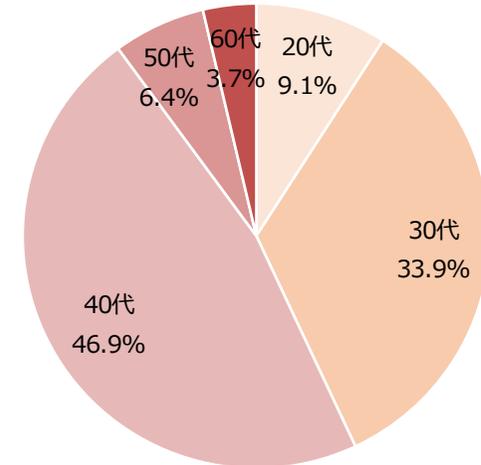
	サンプル数
20-49歳	464
50-69歳	52
計	516

回答者プロフィール n=516

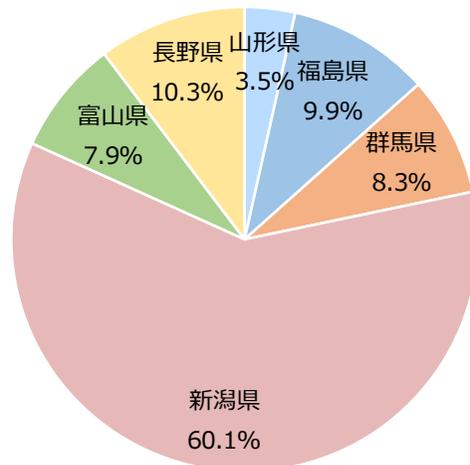
性別



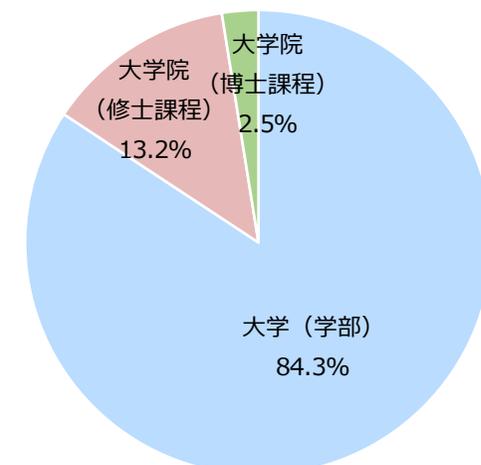
年代別



居住地



最終学歴



調査結果の詳細

入学希望度

- ✓ 入学希望度は、「ぜひ入学してみたい」が14.7%、「入学してみたいが悩んでいる」が41.7%で合計**56.4%**と半数以上。
- ✓ 年代別で見ると、「入学してみたい・計」のスコアは**50代が69.7%でトップ**。「ぜひ入学してみたい」スコアで見ると、30代が最も高い。
- ✓ 性別で見ると、男性の方が女性にくらべ入学希望度が14.3pt高い。

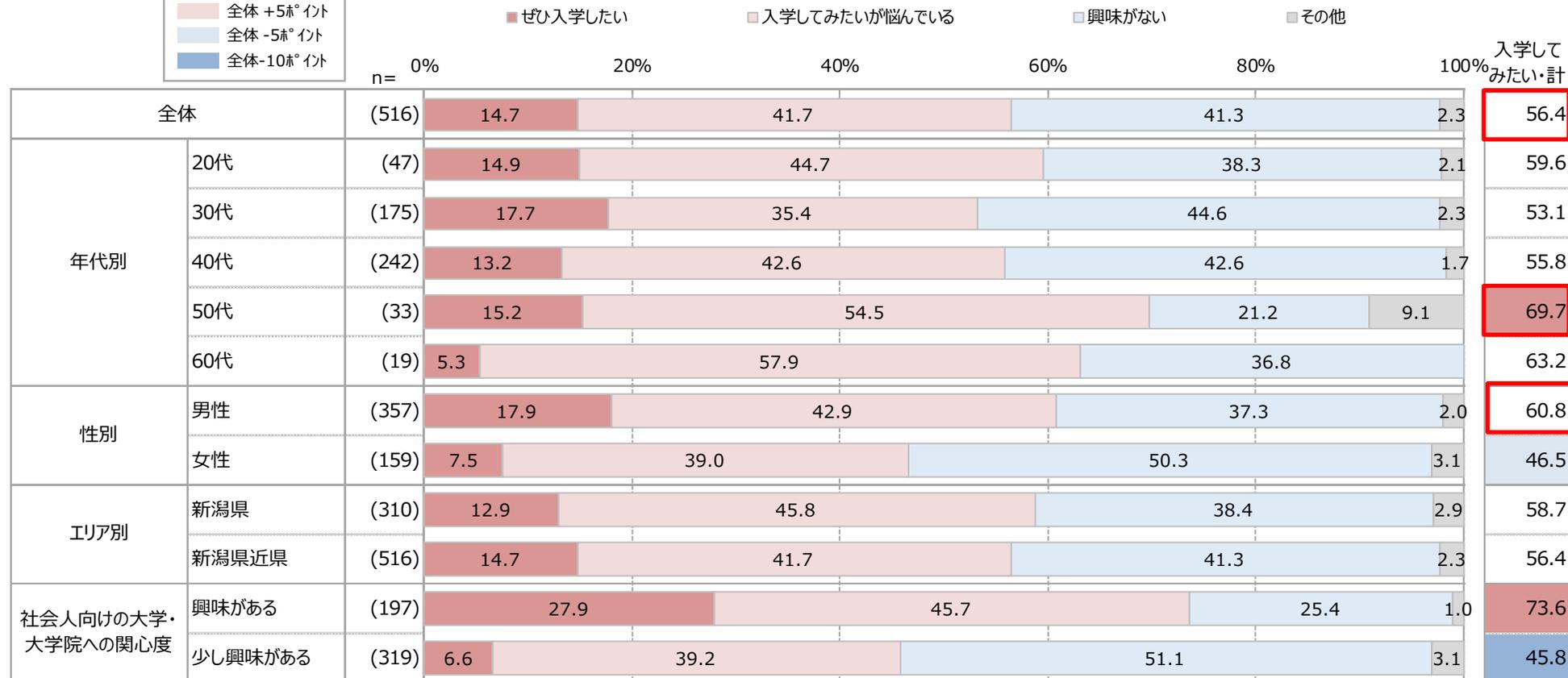
Q1 新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称：現在の現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合した、新しい時代に対応する研究科）の博士課程が開設された場合、入学したいとお考えになりますか。パンフレット画像もご確認ください。以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選択してください。

SA

※全体ベース

n=30以上の場合

[比率の差]



入学希望時期

- ✓ 入学希望時期は、「**決めていない**」方が**47.8%**と半数近い。決まっている方では、「令和9年度～令和11年度」がボリュームゾーン。開設時の「令和8年度」は11.3%に留まる。
- ✓ 入学希望度別で見ると、**<ぜひ入学したい層>**は、「令和9年度～令和11年度」に続いて「令和8年度」が高く、スコアは28.9%にのぼる。

Q2 人文社会・自然科学研究科（仮称）への入学を希望する時期をお聞かせください。以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選択してください。

SA

※入学希望者ベース

■ 令和8年度（開設時） ■ 令和9年度～令和11年度（開設後3年以内） ■ 令和12年度以降（開設後4年後以降） ■ 決めていない

n= 0% 20% 40% 60% 80% 100%



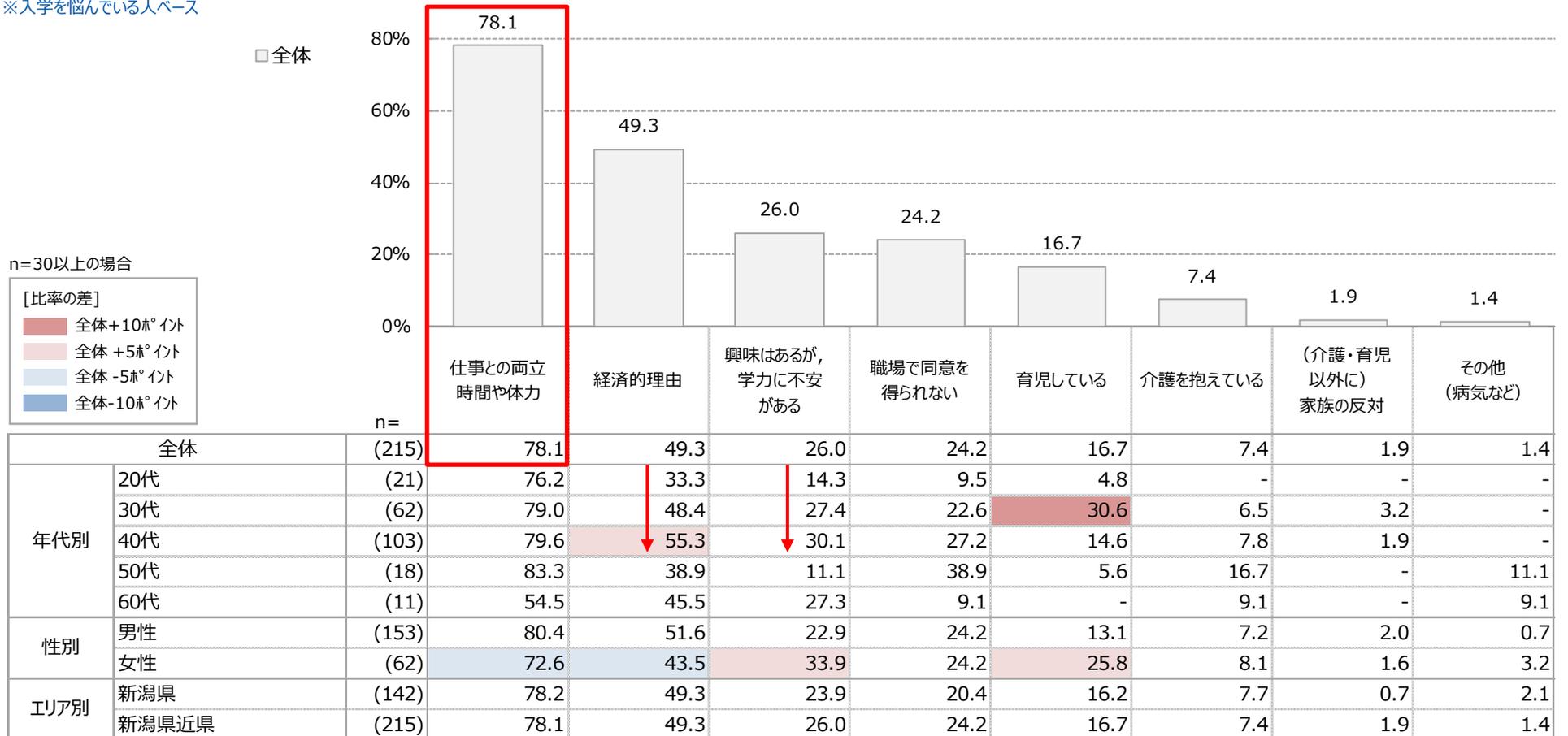
大学院入学を悩んでいる理由

- ✓ 大学院入学を悩んでいる理由は「仕事との両立/時間や体力」が78.1%でトップ。
次いで「経済的理由」「興味はあるが、学力に不安がある」「職場で同意を得られない」が続く。
- ✓ 年代別で見ると、「経済的理由」「興味はあるが、学力に不安がある」について、20代から40代では年代が上がるほどスコアが増加傾向にある。

Q3 大学院入学を悩んでいる理由を教えてください。以下の選択肢から該当するものを全て選択してください。（複数選択可）

MA

※入学を悩んでいる人ベース



※「全体」で降順ソート

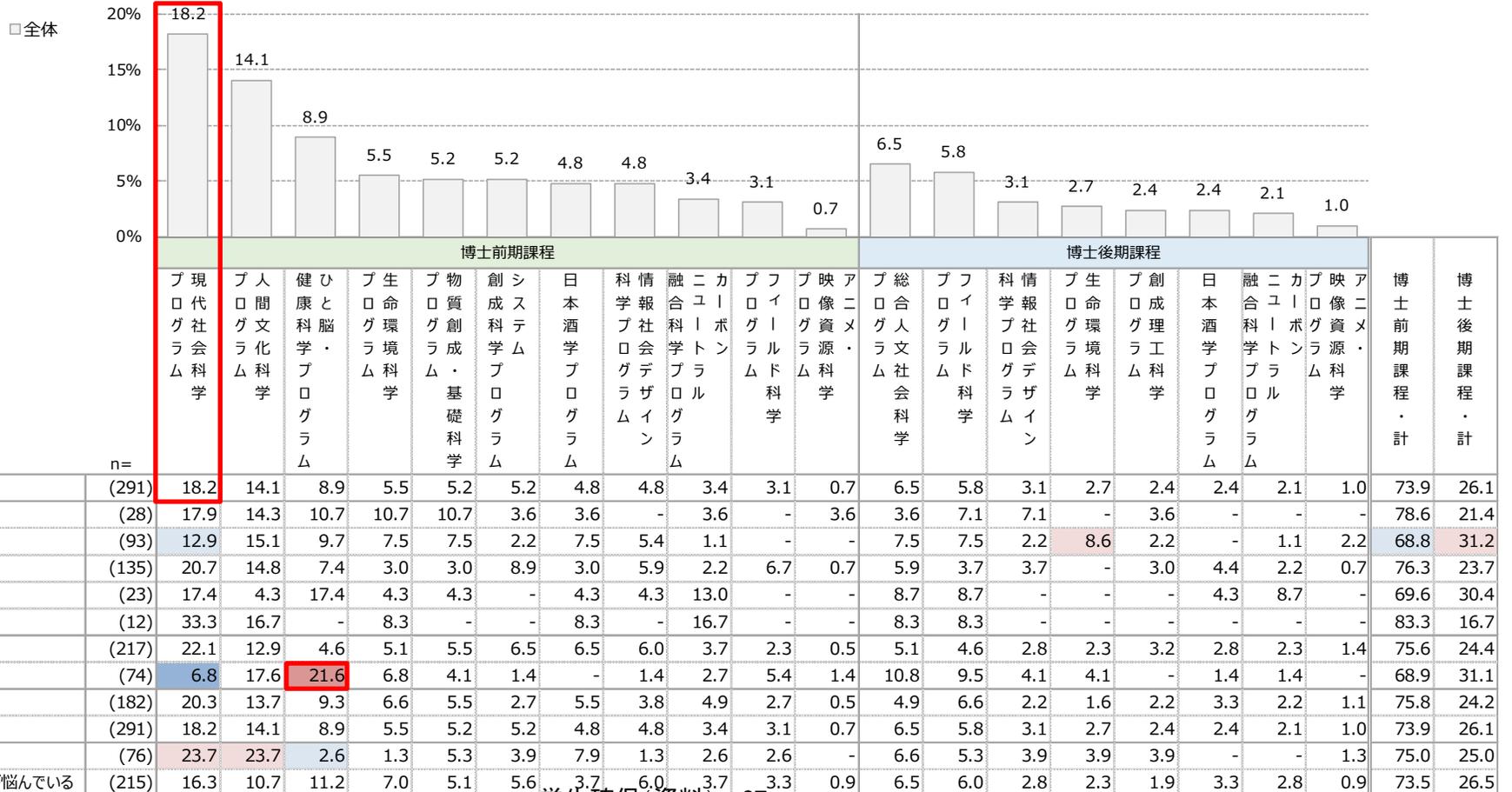
希望プログラム

- ✓ 希望プログラムでは「現代社会科学プログラム」が18.2%でトップ。次いで「人間文化科学プログラム」が続く。
- ✓ 「生命環境科学プログラム」「システム創成科学プログラム」など理系分野のスコアは2-5%程度。
- ✓ 性別で見ると、女性は「ひと脳・健康科学プログラム」のスコアが男性に比べ17pt高い。

Q4 新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）に設置を予定している以下の学位プログラムのうち、入学後に最も希望する学位プログラムをひとつ選択してください。
以下のパンフレット画像もご確認ください。

SA

※入学希望者ベース



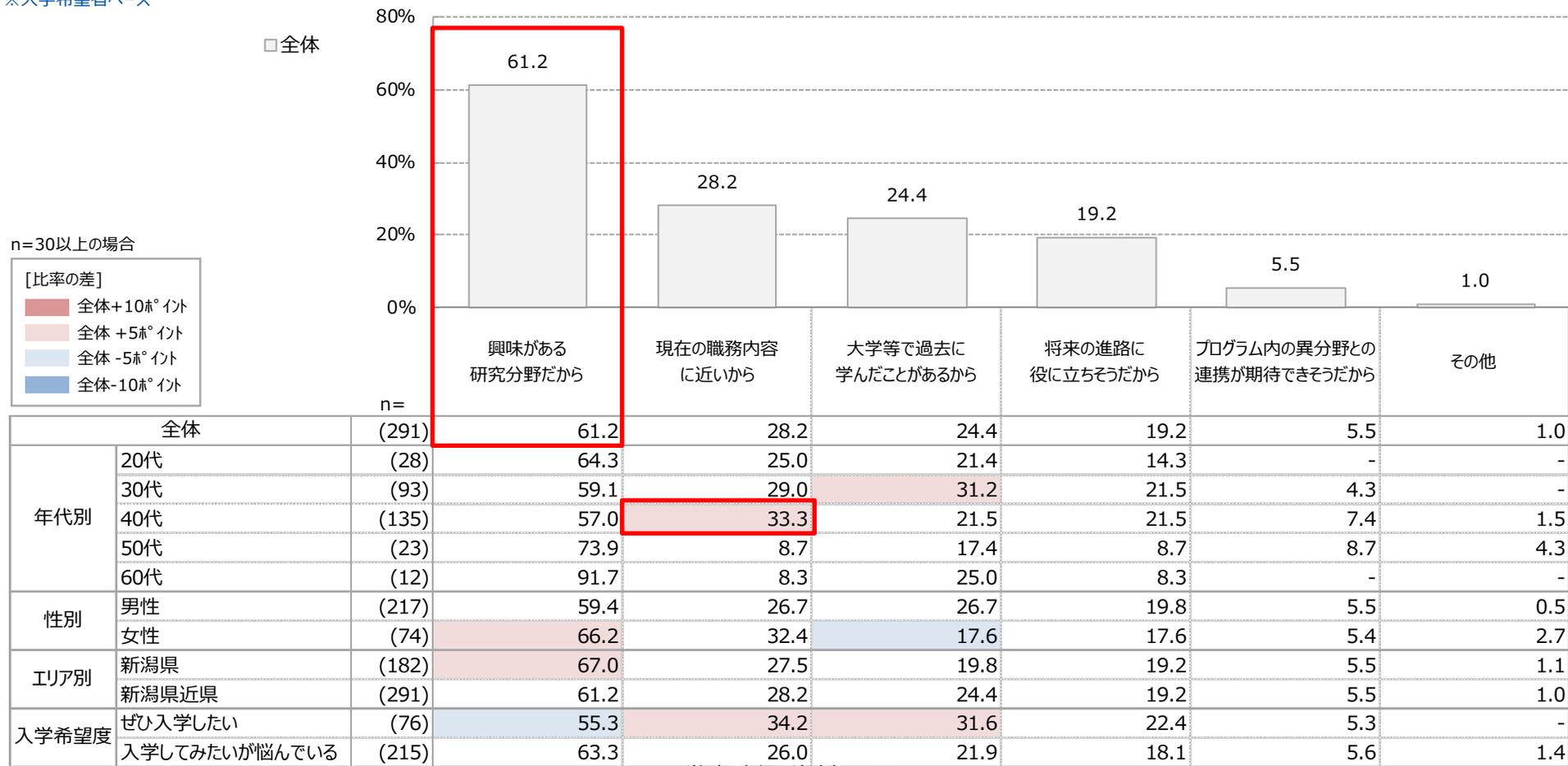
プログラム選択理由

- ✓ プログラム選択理由は「興味がある研究分野だから」が61.2%でトップ。「現在の職務内容に近いから」「過去に学んだことがあるから」が続く。
- ✓ 年代別で見ると、40代では「現在の職務内容に近いから」が33.3%と、他の年代に比べてやや高く、特に50-60代と比べると25pt程度高い。

Q5 前問で当該プログラムを選んだ理由を伺います。以下の選択肢から該当するものを全て選択してください。（複数選択可）

MA

※入学希望者ベース



学生確保(資料) - 38

※「全体」で降順ソート

博士後期課程までの進学検討度合い

- ✓ 博士後期課程まで進学を検討している人は51.6%。
- ✓ 年代別で見ると、50代の検討度合いが他の年代に比べて特に高い。※サンプル数僅少のため参考値
- ✓ 入学希望度別で見ると、〈ぜひ入学したい層〉は進学検討度が82.5%と、〈入学してみたいが悩んでいる層〉に比べて42pt高い。

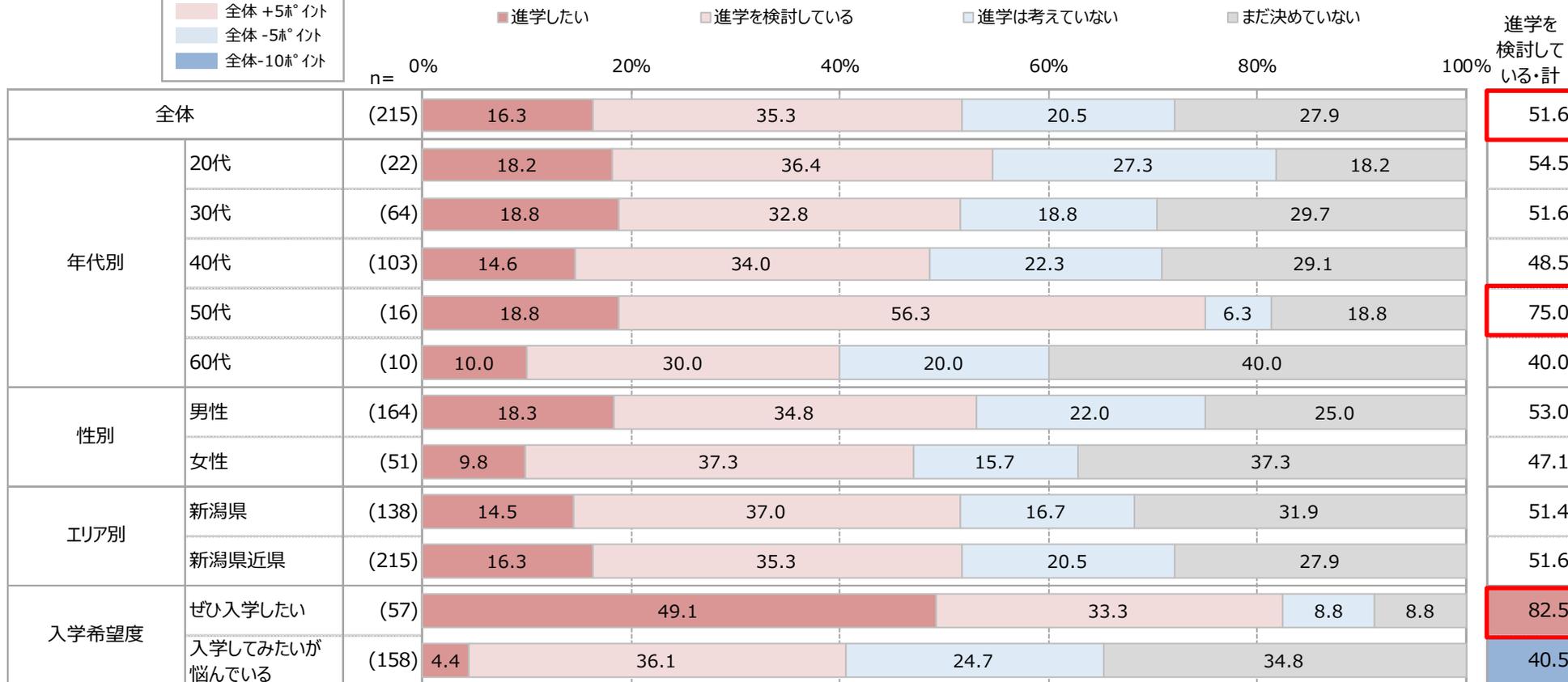
Q6 博士後期課程までの進学を考えていますか。以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選択してください。

SA

※入学を悩んでいる人ベース

n=30以上の場合

[比率の差]



制度利用意向

- ✓ 利用意向の高い制度は「**社会人向け奨学金**」「**リモートによる講義・研究指導**」が**トップ**。僅差で「**土日・夜間の開講**」が続く。
- ✓ 年代別で見ると、20-30代は「**託児所**」のスコアが他の層に比べて高く、一定のニーズがある様子。※20代はサンプル数僅少のため参考値
- ✓ 入学希望度別で見ると、**<ぜひ入学したい層>**は「**土日・夜間の開講**」が**64.5%**で最も高い。

Q7 新たな大学院に下記のような制度を設置した場合、利用しますか。以下の選択肢から該当するものを全て選択してください。（複数選択可）

MA

※入学希望者ベース



学生確保(資料)ー40

※「全体」で降順ソート

(参考) 社会人向けアンケート集計結果

Q1 新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称：現在の現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合した、新しい時代に対応する研究科）の博士課程が開設された場合、入学したいとお考えになりますか。パンフレット画像もご確認ください。以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選択してください。

	総合学術研究科への入学希望	回答人数	割合
1	ぜひ入学したい	76	14.7%
2	入学してみたいが悩んでいる	215	41.7%
3	興味がない	213	41.3%
4	その他	12	2.3%
	合計	516	100.0%

Q4で、希望する学位プログラムとして博士後期課程を選択した者を「その他」に含めた場合

	総合学術研究科への入学希望	回答人数	割合
1	ぜひ入学したい	57	11.0%
2	入学してみたいが悩んでいる	158	30.6%
3	興味がない	213	41.3%
4	その他	88	17.1%
	合計	516	100.0%

Q2 人文社会・自然科学研究科（仮称）への入学を希望する時期をお聞かせください。以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選択してください。

※Q1で「ぜひ入学したい」又は「入学してみたいが悩んでいる」と回答した291人が回答対象者

	入学希望時期	回答人数	割合
1	令和8年度（開設時）	33	11.3%
2	令和9年度～令和11年度（開設後3年以内）	71	24.4%
3	令和12年度以降（開設後4年後以降）	48	16.5%
4	決めていない	139	47.8%
	合計	291	100.0%

Q4で、希望する学位プログラムとして博士後期課程を選択した者を「その他」に含めた場合

※Q1で「ぜひ入学したい」又は「入学してみたいが悩んでいる」と回答した215人が回答対象者

	入学希望時期	回答人数	割合
1	令和8年度（開設時）	29	13.5%
2	令和9年度～令和11年度（開設後3年以内）	48	22.3%
3	令和12年度以降（開設後4年後以降）	34	15.8%
4	決めていない	104	48.4%
	合計	215	100.0%

Q3 大学院入学を悩んでいる理由を教えてください。以下の選択肢から該当するものを全て選択してください。（複数選択可）

※Q1で「入学してみたいが悩んでいる」と回答した215人が回答対象者

	悩んでいる理由	回答人数	回答者の割合
1	経済的理由	106	49.3%
2	仕事との両立 時間や体力	168	78.1%
3	職場で同意を得られない	52	24.2%
4	興味はあるが、学力に不安がある	56	26.0%
5	介護を抱えている	16	7.4%
6	育児している	36	16.7%
7	（介護・育児以外に）家族の反対	4	1.9%
8	その他（病気など）	3	1.4%
	回答者数	215	

Q4で、希望する学位プログラムとして博士後期課程を選択した者を「その他」に含めた場合

※Q1で「入学してみたいが悩んでいる」と回答した158人が回答対象者

	悩んでいる理由	回答人数	回答者の割合
1	経済的理由	77	48.7%
2	仕事との両立 時間や体力	122	77.2%
3	職場で同意を得られない	32	20.3%
4	興味はあるが、学力に不安がある	40	25.3%
5	介護を抱えている	12	7.6%
6	育児している	23	14.6%
7	（介護・育児以外に）家族の反対	1	0.6%
8	その他（病気など）	3	1.9%
	回答者数	158	

Q4 新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）に設置を予定している以下の学位プログラムのうち、入学後に最も希望する学位プログラムをひとつ選択してください。以下のパンフレット画像もご確認ください。

※Q1で「ぜひ入学したい」又は「入学してみたいが悩んでいる」と回答した291人が回答対象者

	入学を希望する学位プログラム	回答人数
1	人間文化科学プログラム（博士前期課程）	41
2	現代社会科学プログラム（博士前期課程）	53
3	物質創成・基礎科学プログラム（博士前期課程）	15
4	システム創成科学プログラム（博士前期課程）	15
5	生命環境科学プログラム（博士前期課程）	16
6	アニメ・映像資源科学プログラム（博士前期課程）	2
7	日本酒学プログラム（博士前期課程）	14
8	情報社会デザイン科学プログラム（博士前期課程）	14
9	カーボンニュートラル融合科学プログラム（博士前期課程）	10
10	フィールド科学プログラム（博士前期課程）	9
11	ひと脳・健康科学プログラム（博士前期課程）	26
	（博士前期課程）小計	215
12	総合人文社会科学プログラム（博士後期課程）	19
13	創成理工科学プログラム（博士後期課程）	7
14	生命環境科学プログラム（博士後期課程）	8
15	アニメ・映像資源科学プログラム（博士後期課程）	3
16	日本酒学プログラム（博士後期課程）	7
17	情報社会デザイン科学プログラム（博士後期課程）	9
18	カーボンニュートラル融合科学プログラム（博士後期課程）	6
19	フィールド科学プログラム（博士後期課程）	17
	（博士後期課程）小計	76
	合計	291

Q4で、希望する学位プログラムとして博士後期課程を選択した者の希望入学年度

※Q1で「ぜひ入学したい」又は「入学してみたいが悩んでいる」と回答した215人が回答対象者

	入学を希望する学位プログラム	令和8年度	令和9年度～令和11年度	令和12年度以降	決めていない
1	人間文化科学プログラム（博士前期課程）	13	9	2	17
2	現代社会科学プログラム（博士前期課程）	4	12	13	24
3	物質創成・基礎科学プログラム（博士前期課程）	2	4	3	6
4	システム創成科学プログラム（博士前期課程）	1	4	3	7
5	生命環境科学プログラム（博士前期課程）	0	3	3	10
6	アニメ・映像資源科学プログラム（博士前期課程）	0	0	0	2
7	日本酒学プログラム（博士前期課程）	3	2	2	7
8	情報社会デザイン科学プログラム（博士前期課程）	1	1	1	11
9	カーボンニュートラル融合科学プログラム（博士前期課程）	1	5	1	3
10	フィールド科学プログラム（博士前期課程）	1	4	1	3
11	ひと脳・健康科学プログラム（博士前期課程）	3	4	5	14
	合計	29	48	34	104

Q5 前問で当該プログラムを選んだ理由を伺います。以下の選択肢から該当するものを全て選択してください。（複数選択可）

※Q1で「ぜひ入学したい」又は「入学してみたいが悩んでいる」と回答した291人が回答対象者

	プログラム選択理由	回答人数	回答者の割合
1	現在の職務内容に近いから	82	28.2%
2	大学等で過去に学んだことがあるから	71	24.4%
3	興味がある研究分野だから	178	61.2%
4	将来の進路に役に立ちそうだから	56	19.2%
5	プログラム内の異分野との連携が期待できそうだから	16	5.5%
6	その他	3	1.0%
	回答者数	291	

Q4で、希望する学位プログラムとして博士後期課程を選択した者を「その他」に含めた場合

※Q1で「ぜひ入学したい」又は「入学してみたいが悩んでいる」と回答した215人が回答対象者

	プログラム選択理由	回答人数	回答者の割合
1	現在の職務内容に近いから	62	28.8%
2	大学等で過去に学んだことがあるから	46	21.4%
3	興味がある研究分野だから	133	61.9%
4	将来の進路に役に立ちそうだから	44	20.5%
5	プログラム内の異分野との連携が期待できそうだから	10	4.7%
6	その他	2	0.9%
	回答者数	215	

Q6 博士後期課程までの進学を考えていますか。以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選択してください。

※Q4で博士前期課程を希望した215人が回答

	博士後期課程への進学希望	回答人数	割合
1	進学したい	35	16.3%
2	進学を検討している	76	35.3%
3	進学は考えていない	44	20.5%
4	まだ決めていない	60	27.9%
	回答者数	215	100.0%

Q7 新たな大学院に下記のような制度を設置した場合、利用しますか。以下の選択肢から該当するものを全て選択してください。（複数選択可）

※Q1で「ぜひ入学したい」又は「入学してみたいが悩んでいる」と回答した291人が回答対象者

	活用を希望する制度	回答人数	回答者の割合
1	社会人向け奨学金	177	60.8%
2	土日・夜間の開講	173	59.5%
3	リモートによる講義・研究指導	177	60.8%
4	託児所	28	9.6%
5	早期修了制度	56	19.2%
6	その他	0	0.0%
7	利用しない	9	3.1%
	回答者数	291	

Q4で希望する学位プログラムとして博士後期課程を選択した者を除いた場合

※Q1で「ぜひ入学したい」又は「入学してみたいが悩んでいる」と回答した215人が回答対象者

	活用を希望する制度	回答人数	回答者の割合
1	社会人向け奨学金	130	60.5%
2	土日・夜間の開講	130	60.5%
3	リモートによる講義・研究指導	126	58.6%
4	託児所	18	8.4%
5	早期修了制度	36	16.7%
6	その他	0	0.0%
7	利用しない	6	2.8%
	回答者数	215	

令和 7 年 1 月

人事採用ご担当者様

国立大学法人新潟大学
理事・副学長 末吉 邦

「新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）に関するアンケート」ご協力のお願い

拝啓 厳冬の候、貴社・貴団体におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より本学に対し、格別なるご理解とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新潟大学では、人文社会科学系と自然科学系の大学院を1研究科に統合し、新たに「人文社会・自然科学研究科（仮称）」の設置を構想しています。

世界を含め、わが国が抱える社会課題は複雑化しており、現在の新潟大学大学院における研究科・専攻・コース単位で物理的に分断された教育体制では、社会の「複合的課題」の解決に貢献できる人材の養成が難しくなっています。これらの課題を解決し、社会で新たな価値を創出するため「総合知[※]」の活用が必須であり、人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」を融合させる大学院改革の必要性が高まっています。

人文社会・自然科学研究科は、1専攻の下に特色ある学位プログラムを編成し、専門分野固有の能力に加えて、学際的知識・複数の研究方法論やトランスファラブルスキルを修得させる新しい科目を開設します。単一の専門知だけでは解決できない人間や社会の課題解決、すなわち「総合知」を創生する場で活躍できる人材を養成します。特に博士人材は、添付の文部科学省からの依頼にもありますように、幅広い分野での活躍が望まれることから、高度な専門性に加えて、幅広い学際性を身に付ける教育体制を構築します。

本構想について、研究科が養成する人材像、修了生の採用意向等について、人事採用ご担当者様からご意見をお伺いしたいと考えております。ご多忙の折、大変恐縮ではございますが、同封の人文社会・自然科学研究科のパンフレットをご高覧の上、下部の回答用URL又は二次元コードからアンケートフォームにアクセスいただき、令和7年1月30日（木）までにご回答くださいますようお願い申し上げます。

なお、アンケートの結果は、上記の目的で統計資料としてのみ活用いたしますので、貴社・貴団体およびご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることはありません。

末筆ながら、貴社・貴団体のますますのご発展をお祈り申し上げます。

敬具

※総合知：「多様な『知』が集い、新たな価値を創出する『知』の活力を生むこと」と定義され、所属組織や、専門領域を超えて、様々な知の融合により、イノベーションの創出や社会実装に向けた手段を見出し、社会課題の解決を図ることにつながります。

本件問合せ先 新潟大学総務部企画課（担当：潟上、池井）
住所：〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地
TEL： 025-262-6026
E-mail：planning@adm.niigata-u.ac.jp

企業・団体様向けアンケート

本調査は、新潟大学が新たに設置を構想している大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）が養成する人材の需要、社会人学生としての派遣意向に関してお尋ねし、今後の本学の大学院教育改革の基礎資料とすることを目的に実施しています。

結果は調査目的以外に利用することはありません。

なお、アンケートに記載されている新潟大学大学院人文社会・自然科学研究科（仮称・設置構想中）に関する事項は全て予定であり、内容が変更する可能性があります。

Q1 貴社・貴団体の所在地（本社）について選択してください。

1. 北海道
2. 東北
3. 新潟県
4. 関東・甲信
5. 東海・北陸
6. 近畿
7. 中国
8. 四国
9. 九州

Q2 貴社・貴団体の業種について選択してください。

1. 農業・林業
2. 水産業
3. 鉱業、採石業、砂利採取業
4. 建設業
5. 製造業
6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業
8. 運輸業、郵便業
9. 卸売業、小売業
10. 金融業、保険業
11. 不動産業、物品賃貸業
12. 学術研究、専門・技術サービス業
13. 宿泊業、飲食サービス業
14. 生活関連サービス業、娯楽業
15. 教育、学習支援業
16. 医療、福祉
17. 複合サービス事業
18. サービス業（他に分類されないもの）
19. 公務（他に分類されるものを除く）
20. 分類不能の産業

Q3 貴社・貴団体の過去3年間の平均採用人数を、選択してください。（正確な人数ではなく概算人数で結構です）

1. 5人以下
2. 6人～10人
3. 11人～15人
4. 16人～20人
5. 21人以上

Q4 前問で回答いただいた中で、大学院（修士・博士）の過去3年間の平均採用人数をお聞かせください。（把握している人数で結構です）

修士課程修了者	人
博士課程修了者	人

Q5 文部科学省より、各経済団体、業界団体に向けて「博士人材の活躍促進に向けた企業の協力等に関するお願いについて」として、依頼されていますが、貴社・貴団体においては、博士後期課程の修了者の採用を今後、増やしていきますか？以下から選択してください。

1. 採用を増やす
2. 例年並み
3. 検討する
4. 減らす

5. わからない

Q6

人文社会・自然科学研究科（仮称：現在の現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合した、新しい時代に対応する研究科）では、これまでの専門分野固有の能力の育成に加えて、「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組み複雑化する社会課題に対応できる人材を養成します。（詳細は添付のパンフレットをご覧ください）

人文社会・自然科学研究科（仮称）で養成する人材に対する、貴社・貴団体の考えを以下から選択してください。

1. 評価できる
2. ある程度評価できる
3. あまり評価できない。

4. 評価できない
5. わからない

Q7

前問で「あまり評価できない」又は「評価できない」を選択した場合に、その理由をご記入願います。

自由記述

Q8 人文社会・自然科学研究科（仮称）では、以下のような能力を養成します。貴社・貴団体では、採用する場合は、どの程度重視していますか。

以下（１）～（８）の各能力について、該当する番号に（１～４）を選択してください。

- 1 重視している
- 2 やや重視している
- 3 あまり重視していない
- 4 重視していない

- (1) 専門分野に関する高度な専門的知識 [1 2 3 4]
- (2) 分野を横断した学際的知識 [1 2 3 4]
- (3) 高度な言語スキルによる情報発信力、コミュニケーション能力
[1 2 3 4]
- (4) 異なる分野・背景を持つ人とも協働して共通目標に向けてチームワークを発揮できる
コラボレーション力 [1 2 3 4]
- (5) データサイエンススキル、ICTスキルを活用した情報処理能力
[1 2 3 4]
- (6) 論理的思考に基づく批判的能力 [1 2 3 4]
- (7) 収集・分類・整理した情報を元に新たなアイデアや価値を創造できる価値想像力
[1 2 3 4]
- (8) 特定テーマ・ 이슈ー（論点・争点）に関して、複眼的思考で課題解決に生かすこと
ができる学際的能力 [1 2 3 4]

Q9 人文社会・自然科学研究科（仮称）修了者（修士・博士）の貴社・貴団体の採用意向についてお聞かせください。

Q9-1【修士課程修了者】

1. ぜひ採用したい
2. 条件が合えば採用したい
3. 採用しない
4. わからない

Q9-2【博士課程修了者】

1. ぜひ採用したい
2. 条件が合えば採用したい
3. 採用しない
4. わからない

Q10 近年、社会人のリカレント・リスキリングの重要性が高まっています。本学では、社会人の正規生の場合は、長期履修制度（注1）を活用することや正規生の他に科目等履修生（注2）として入学することが可能です。

また、入学後は、勤務状況に合わせ授業の開講や遠隔での指導も取り入れていま

す。
貴社・貴団体では、社員を研修制度の一環として、大学院の社会人学生として派遣する制度はございますか。

1. 制度はある
2. 現在、制度はないが今後検討する
3. 制度はない

注1) 長期履修制度：標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）を超えて、一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了できる制度

注2) 科目等履修生：希望する授業科目のみ履修する制度。修得した単位は、正規生として入学した際に修了要件単位に含むことができる。

Q11 貴社・貴団体では、人文社会・自然科学研究科（仮称）に社員を入学（派遣）させたいと思いますか。

Q11-1 【修士課程】

1. 社会人学生として入学させたい
2. 社会人学生として入学させる可能性はある
3. 社会人学生として入学させる可能性はない
4. わからない

Q11-2 【博士課程】

1. 社会人学生として入学させたい
2. 社会人学生として入学させる可能性はある
3. 社会人学生として入学させる可能性はない
4. わからない



国立大学法人新潟大学御中

企業向けアンケート結果報告書

2025年2月13日

目次

◆ 調査概要	P3
◆ 回答者プロフィール	P4
◆ 調査結果の詳細	P5

報告書内の記述について

※n=30未満は参考値として記載

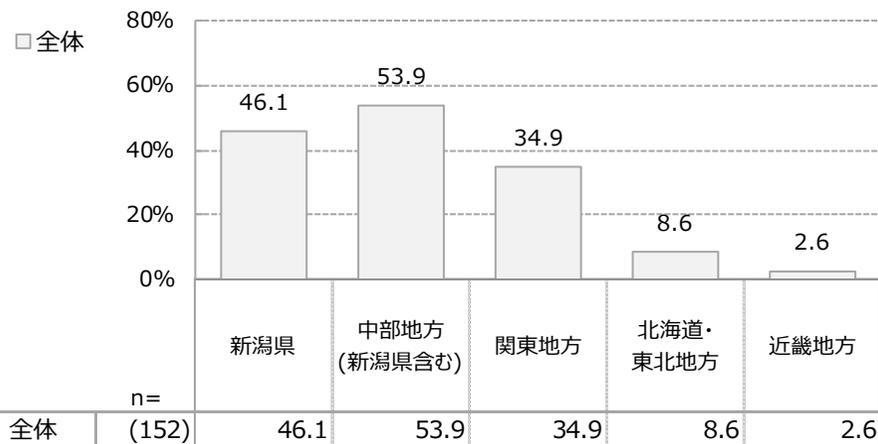
※「*」は非聴取項目

調査概要

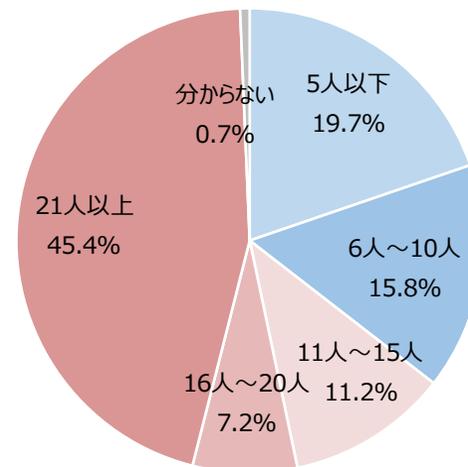
- ◆ 調査目的 : 新たに、大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）の設置を構想しておられる。
＜社会人（学ばれる方）＞＜企業（派遣する側）＞の両側面から、学部のニーズを把握し、
今後の大学院教育改革の基礎資料とされたい
※今回のレポートでは＜企業（派遣する側）＞の結果を掲載。
- ◆ 調査対象 : 新潟大学・修了者の就職先企業
- ◆ 調査地域 : 全国
- ◆ 調査方法 : インターネットリサーチ
- ◆ 調査時期 : 2025年1月10日（金）～1月31日（金）
- ◆ 有効回答数 : 152サンプル

回答者プロフィール n=152

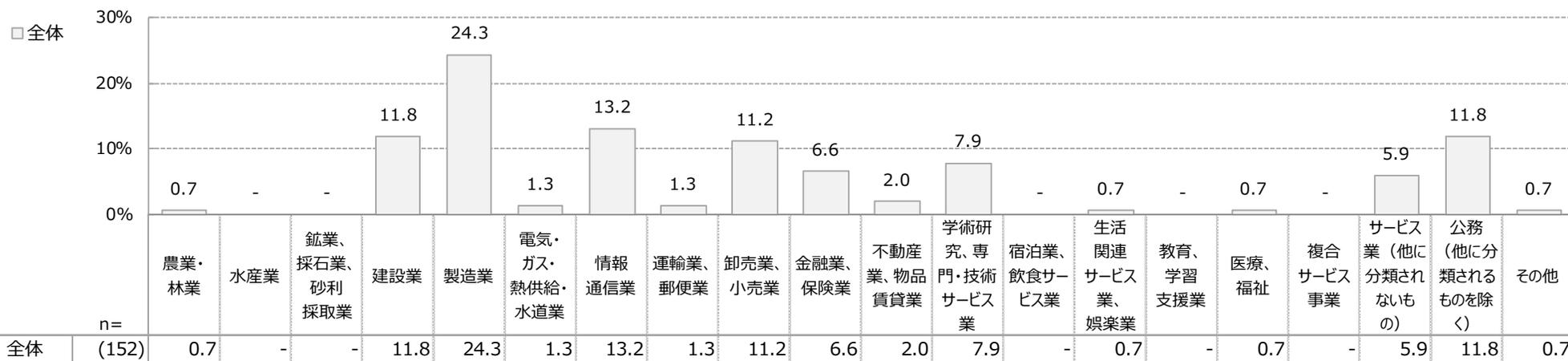
本社所在地



過去3年間の平均採用人数



業種



調査結果の詳細

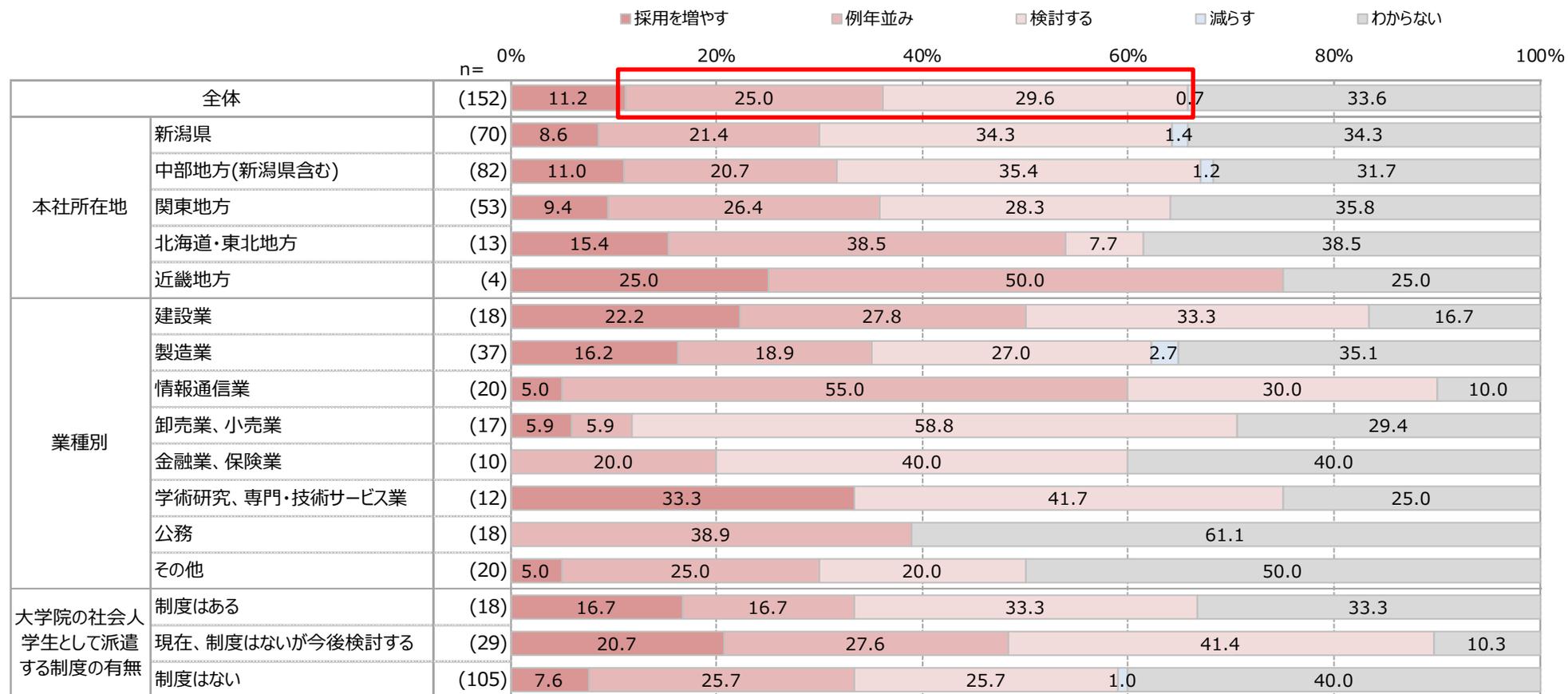
博士後期修了者の採用方針

- ✓ 博士後期課程の修了者の採用方針は、「採用を増やす」は**11.2%**。「例年並み」が25.0%、「検討する」が29.6%と「わからない」を除きボリュームゾーン。
- ✓ 本社所在地別で見ると、大きな差はないものの、＜関東地方/北海道・東北地方/近畿地方＞は「減らす」が0%。
※北海道・東北地方/近畿地方はサンプル数僅少のため参考値

Q5 文部科学省より、各経済団体、業界団体に向けて「博士人材の活躍促進に向けた企業の協力等に関するお願いについて」として、以下の画像のとおり依頼されていますが、貴社・貴団体においては、博士後期課程の修了者の採用を今後、増やしていきますか？以下から選択してください。※可能であれば、事前にご共有されている資料をお手元にご準備の上ご確認をお願いします。以下の画像からもご確認いただけます。

SA

※全体ベース



学生確保(資料)－57

大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）の設置評価度

- ✓ 大学院人文社会・自然科学研究科（仮称）の設置は「評価できる」が49.3%、「ある程度評価できる」が34.9%で**合計84.2%**。
- ✓ 本社所在地別で見ると、大きな差は見られない。新潟県に本社のある企業は「評価できない」が0%。
- ✓ 大学院の社会人学生の派遣制度有無別で見ると、制度がある企業は「評価できる」が100%となっている。

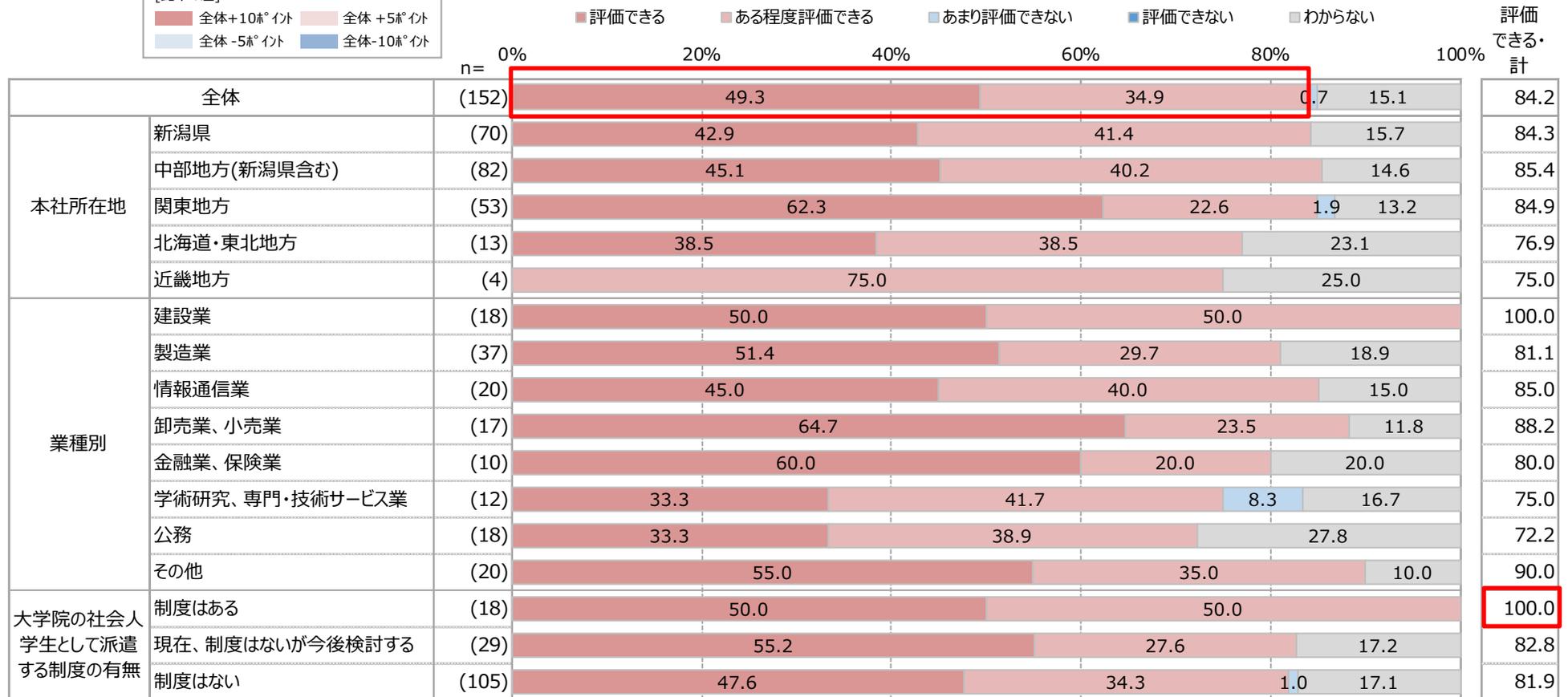
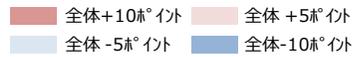
Q6 人文社会・自然科学研究科（仮称：現在の現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合した、新しい時代に対応する研究科）では、これまでの専門分野固有の能力の育成に加えて、「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組み複雑化する社会課題に対応できる人材を養成します。人文社会・自然科学研究科（仮称）で養成する人材に対する、貴社・貴団体の考えを以下から選択してください。※可能であれば、事前にご共有されている資料をお手元にご準備の上ご確認をお願いします。以下の画像からもご確認いただけます。

SA

※全体ベース

n=30以上の場合

[比率の差]



学生確保(資料) - 58

※評価できる・計（「評価できる」+「ある程度評価できる」）

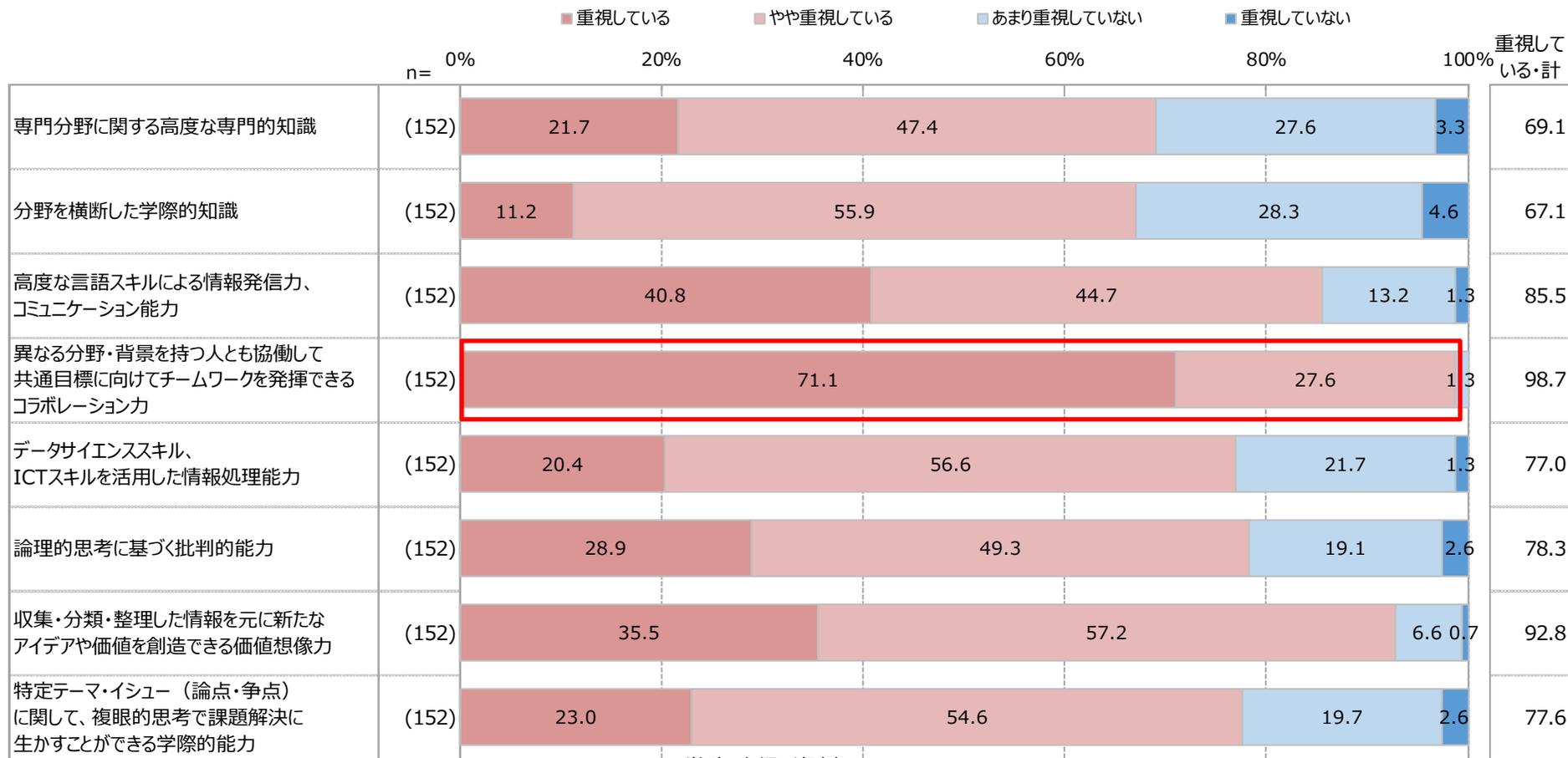
能力重視度

- ✓ 各能力に対する重視度を比較すると、「異なる分野・背景を持つ人とも協働して共通目標に向けてチームワークを発揮できるコラボレーション力」の重視度は98.7%と最も高く、「収集・分類・整理した情報を元に新たなアイデアや価値を創造できる価値想像力」も90%を超えて高い。
- ✓ 「重視している」TOP1スコアで見ると、「高度な言語スキルによる情報発信力、コミュニケーション能力」も40.8%と2番目に高い。

Q8 人文社会・自然科学研究科（仮称）では、以下のような能力を養成します。貴社・貴団体では、採用する場合は、どの程度重視していますか。
以下（1）～（8）の各能力について、該当する番号（1～4）を選択してください。

SA

※全体ベース



人文社会・自然科学研究科（仮称）の修士修了者の採用意向

- ✓ 人文社会・自然科学研究科（仮称）の修士修了者の採用意向度は、「ぜひ採用したい」が32.2%、「条件が合えば採用したい」が55.3%で合計87.5%。
- ✓ どの本社所在地・業種においても「採用しない」は0%で、需要がある様子。

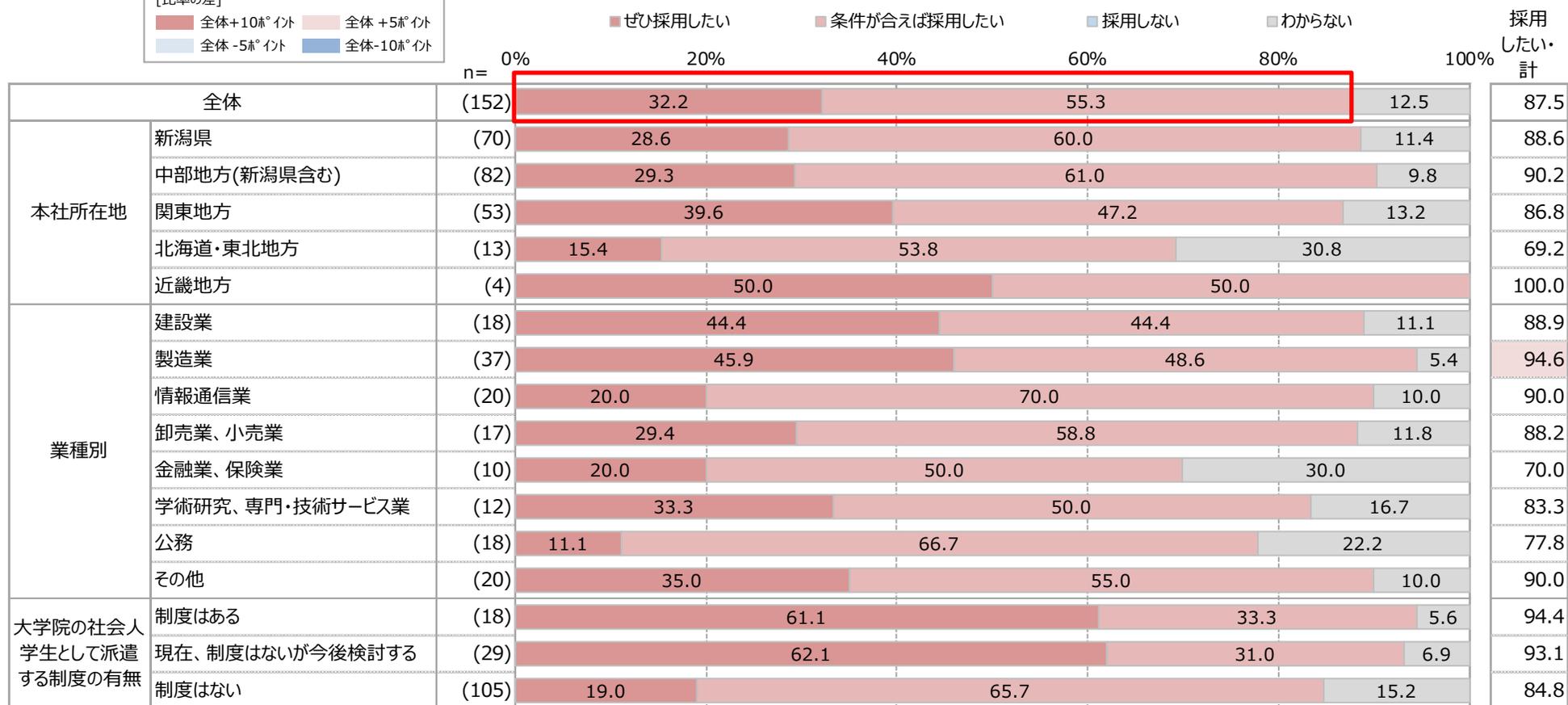
Q9S1 人文社会・自然科学研究科（仮称）修了者（修士・博士）の貴社・貴団体の採用意向について以下から選択してください。【修士課程修了者】

SA

※全体ベース

n=30以上の場合

[比率の差]



学生確保(資料)－60

※採用したい・計（「ぜひ採用したい」+「条件が合えば採用したい」）

人文社会・自然科学研究科（仮称）の博士修了者の採用意向

- ✓ 人文社会・自然科学研究科（仮称）の博士修了者の採用意向度は、「ぜひ採用したい」が15.1%、「条件が合えば採用したい」が65.1%で合計80.3%。
- ✓ 本社所在地別で見ると、＜北海道・東北地方＞は「採用したい・計」が61.5%と他のエリアと比べると低い。※北海道・東北地方はサンプル数僅少のため参考値

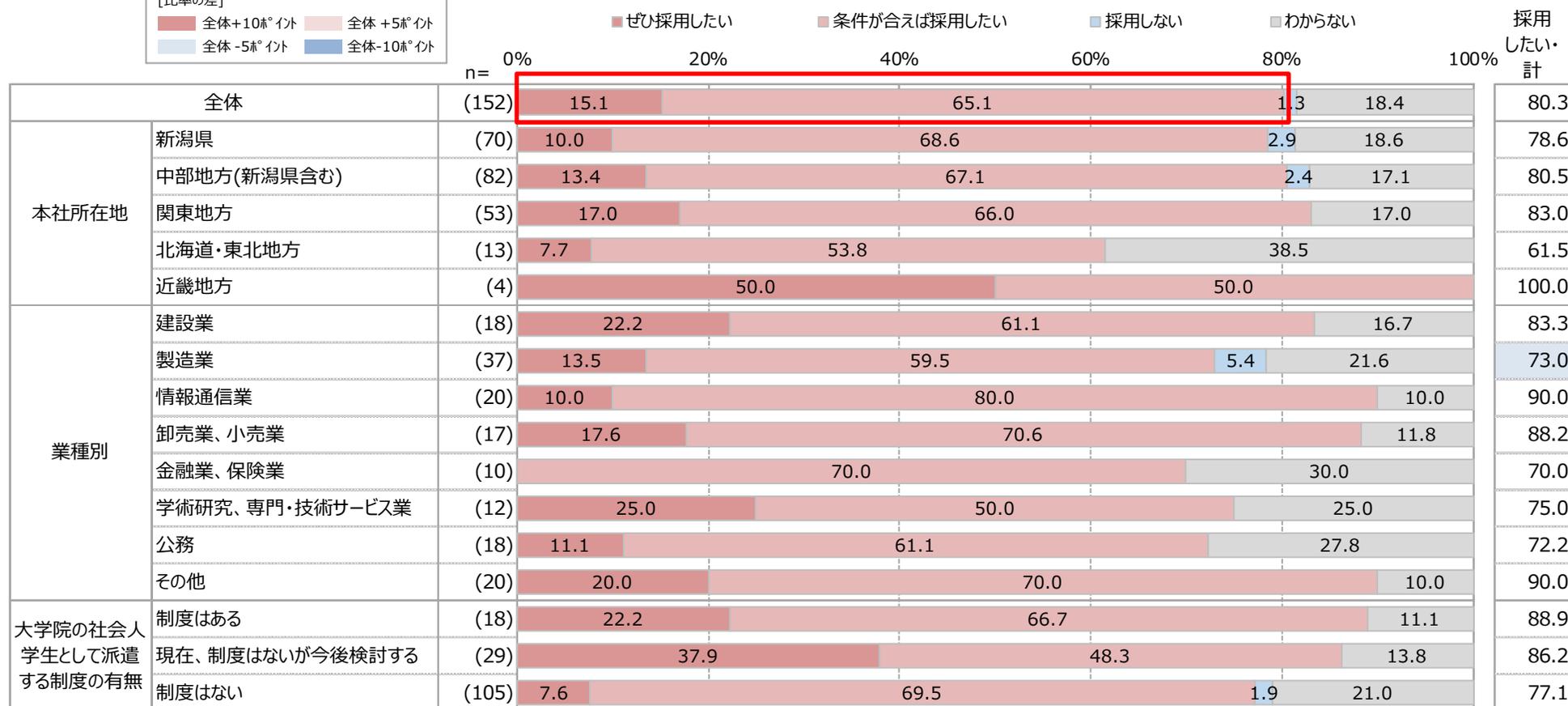
Q9S2 人文社会・自然科学研究科（仮称）修了者（修士・博士）の貴社・貴団体の採用意向について以下から選択してください。【博士課程修了者】

SA

※全体ベース

n=30以上の場合

[比率の差]



学生確保(資料) - 61

※採用したい・計（「ぜひ採用したい」+「条件が合えば採用したい」）

社員を大学院の社会人学生として派遣する制度の有無

- ✓ 社員を大学院の社会人学生として派遣する制度は、「制度はある」が11.8%、「現在、制度はないが今後検討する」が19.1%と合計30.9%。
- ✓ 本社所在地別で見ると、＜新潟県/中部地方/北海道・東北地方＞は「制度がある」が10%未満と他のエリアと比べると低い。
※北海道・東北地方はサンプル数僅少のため参考値

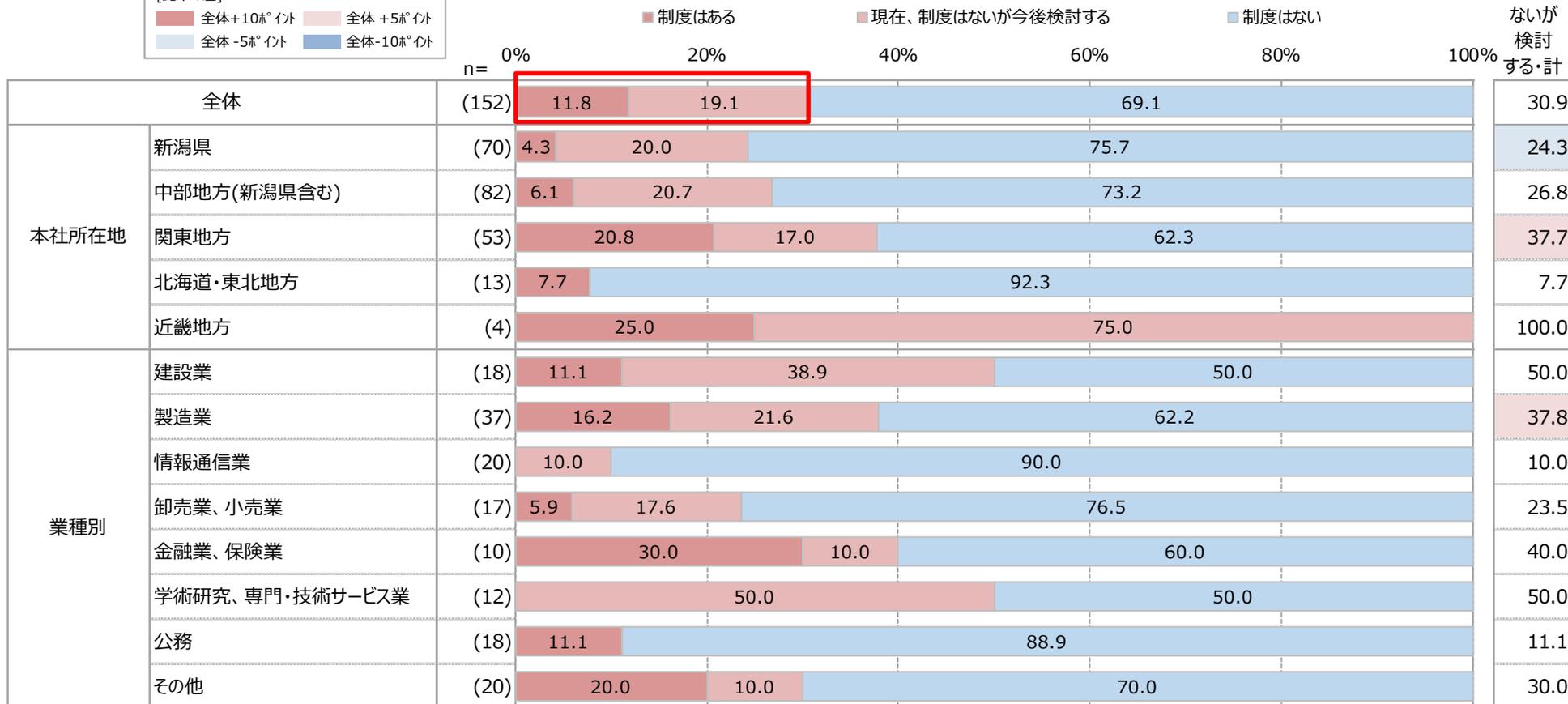
Q10 近年、社会人のリカレント・リスキリングの重要性が高まっています。本学では、社会人の正規生の場合は、長期履修制度を活用することや正規生の他に科目等履修生として入学することが可能です。また、入学後は、勤務状況に合わせ授業の開講や遠隔での指導も取り入れています。貴社・貴団体では、社員を研修制度の一環として、大学院の社会人学生として派遣する制度はございますか。以下から選択してください。

SA

※全体ベース

n=30以上の場合

[比率の差]



学生確保(資料)ー62

※制度はある・ないが検討する・計 (「制度はある」+「現在、制度はないが今後検討する」)

修士課程への派遣意向

- ✓ 人文社会・自然科学研究科（仮称）の修士課程への派遣意向は、「入学させたい」が0%、「入学させる可能性はある」が10.5%とやや低迷。ただ、「わからない」が69.7%とボリュームゾーンとなっており、今後の意向に注目。
- ✓ <大学院の社会人学生の派遣制度のある層>では、「入学させる可能性はある」が27.8%と高い。※サンプル数僅少のため参考値

Q11S1 貴社・貴団体では、人文社会・自然科学研究科（仮称）に社員を入学（派遣）させたいと思いますか。以下から選択してください。【修士課程】

SA

※全体ベース

n=30以上の場合

[比率の差]



入学
させたい・
可能性
はある・
計

		n=	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
全体		(152)	10.5	19.7			69.7		10.5
本社所在地	新潟県	(70)	11.4	21.4			67.1		11.4
	中部地方(新潟県含む)	(82)	12.2	19.5			68.3		12.2
	関東地方	(53)	11.3	17.0			71.7		11.3
	北海道・東北地方	(13)		38.5			61.5		-
	近畿地方	(4)					100.0		-
業種別	建設業	(18)	22.2	5.6			72.2		22.2
	製造業	(37)	16.2	24.3			59.5		16.2
	情報通信業	(20)	5.0	20.0			75.0		5.0
	卸売業、小売業	(17)		17.6			82.4		-
	金融業、保険業	(10)	10.0	10.0			80.0		10.0
	学術研究、専門・技術サービス業	(12)		16.7			83.3		-
	公務	(18)		22.2			77.8		-
	その他	(20)	20.0	30.0			50.0		20.0
大学院の社会人学生として派遣する制度の有無	制度はある	(18)	27.8	11.1			61.1		27.8
	現在、制度はないが今後検討する	(29)	24.1	13.8			62.1		24.1
	制度はない	(105)	3.8	22.9			73.3		3.8

学生確保(資料) 62
※実数をもとに可能性のある計（「社会人学生として入学させたい」+「社会人学生として入学させる可能性はある」）

博士課程への派遣意向

- ✓ 人文社会・自然科学研究科（仮称）博士課程への派遣意向は、「入学させたい」が0%、「入学させる可能性はある」が9.9%とやや低迷。ただ、「わからない」が68.4%とボリュームゾーンとなっており、今後の意向に注目。
- ✓ <大学院の社会人学生の派遣制度のある層>では、「入学させる可能性はある」が33.3%と高く、制度がある企業にニーズがある様子。
※サンプル数僅少のため参考値

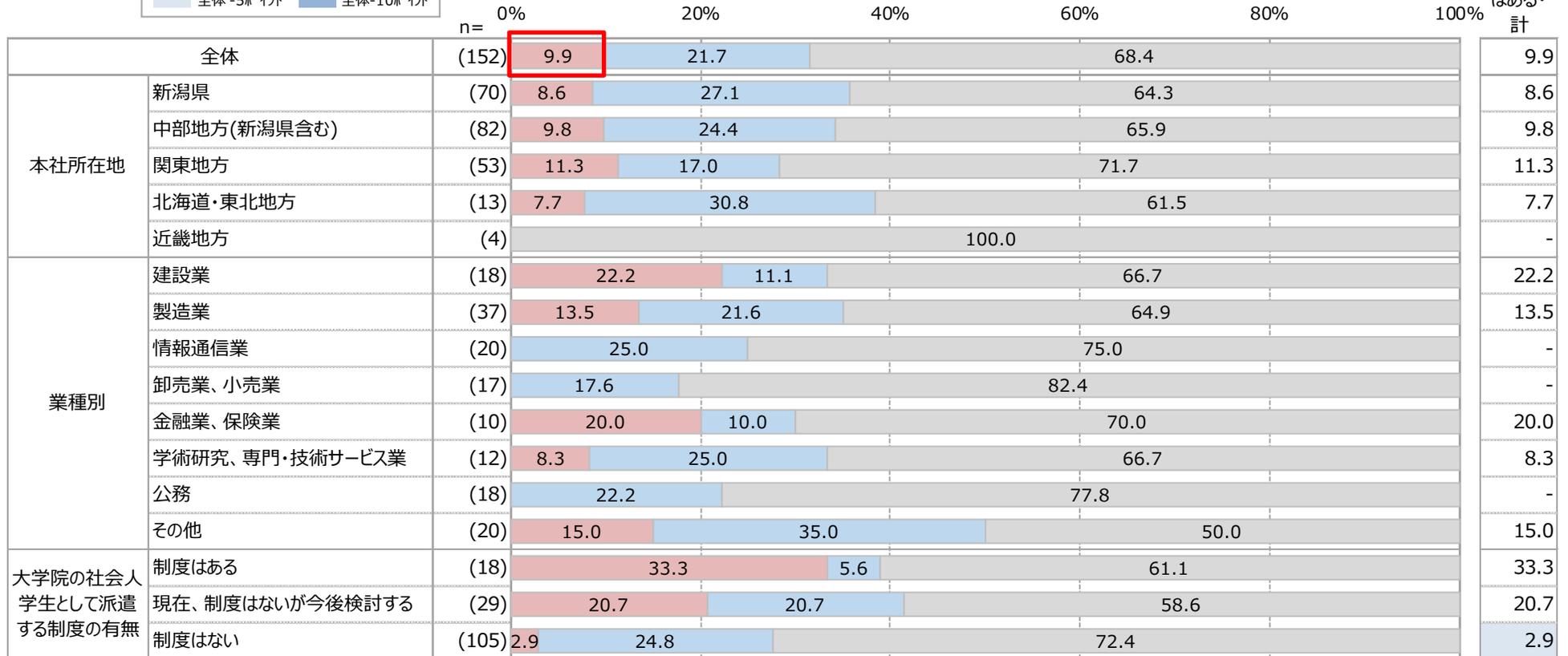
Q11S2 貴社・貴団体では、人文社会・自然科学研究科（仮称）に社員を入学（派遣）させたいと思いますか。以下から選択してください。【博士課程】

SA

※全体ベース

n=30以上の場合

[比率の差]



学生確保(資料) 64
※実数でも同じ傾向がある・計（「社会人学生として入学させたい」+「社会人学生として入学させる可能性はある」）

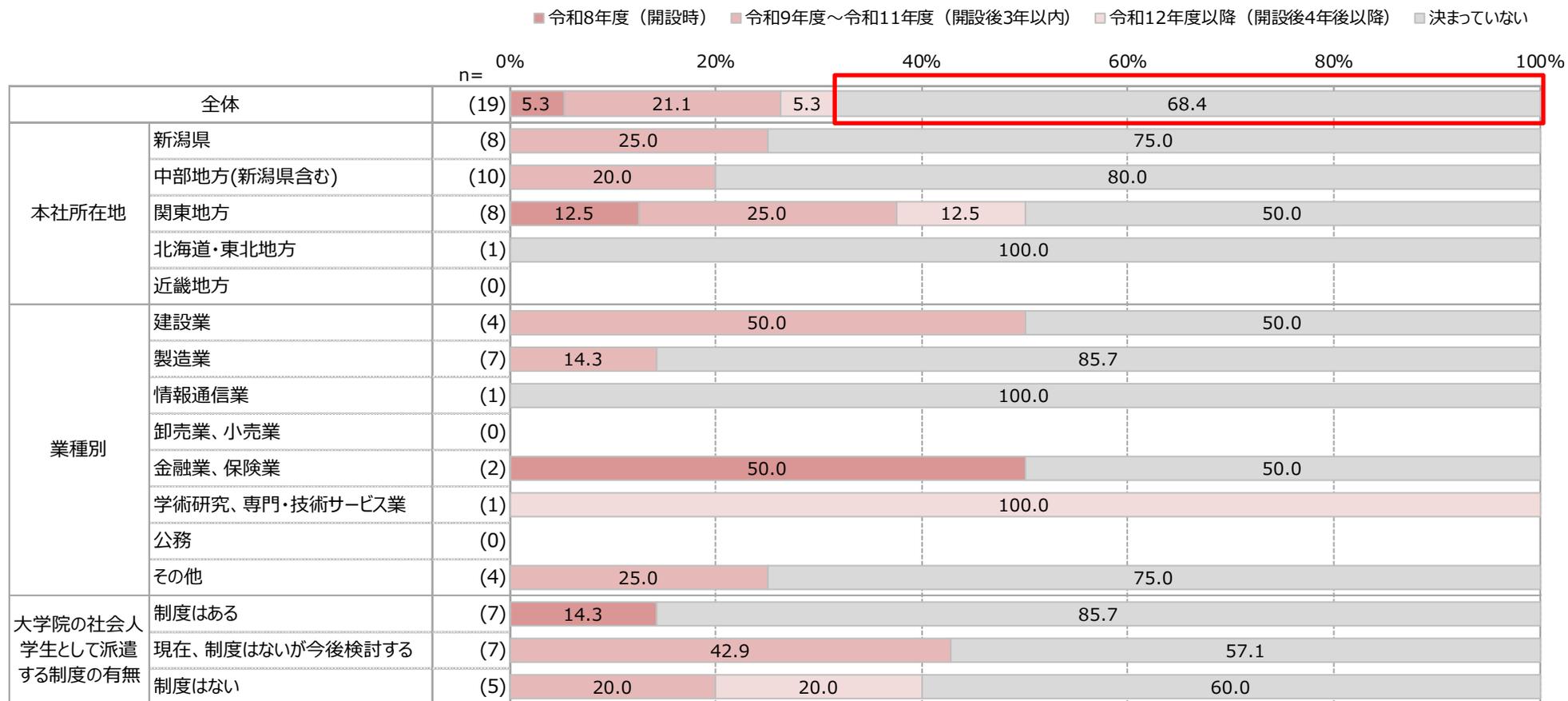
社員の派遣希望時期

- ✓ 人文社会・自然科学研究科（仮称）への派遣希望時期は、「決まっていない」が68.4%と半数以上を占める。決まっている方では、「令和9年度～令和11年度（開設後3年以内）」がボリュームゾーン。
- ✓ 開設時の「令和8年度」は5.3%に留まる。

Q12 前問において、「社会人学生として入学させたい」又は「社会人学生として入学させる可能性はある」を選択された方にお伺いします。人文社会・自然科学研究科（仮称）への社員の派遣時期を以下から選択してください。※一番近い時期についてお答えください。

SA

※入学(派遣)意向者ベース



学生確保(資料)－65

希望支援

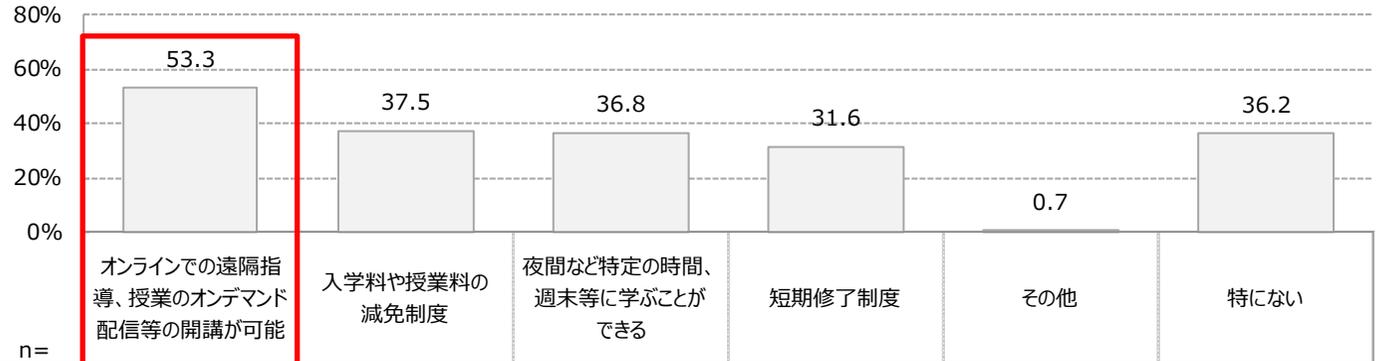
- ✓ 大学の希望支援について、「オンラインでの遠隔指導、授業のオンデマンド配信等の開講が可能」が53.3%と最も高く、その他の支援のスコアは30-40%程度で大きな差は見られない。
- ✓ 本社所在地別で見ると、＜新潟県/中部地方(新潟県含む)＞は「夜間など特定の時間、週末等に学ぶことができる」が他エリアに比べてやや高い。

Q13 人文社会・自然科学研究科（仮称）に社員を入学（派遣）させたいと回答された方にお伺いします。社会人学生として派遣する場合に、大学としてどのような支援を求めますか。また、Q11で人文社会・自然科学研究科（仮称）に社員を入学させる可能性はある、入学させる可能性はない、わからないと回答された方は、大学からどのような支援があれば、社会人学生としての派遣を促進する要因となりますか。以下から選択してください。（複数選択可）

MA

※全体ベース

□全体



n=30以上の場合

[比率の差]

全体+10%以上
全体+5%以上
全体-5%以上
全体-10%以上

		n=	53.3	37.5	36.8	31.6	0.7	36.2
			オンラインでの遠隔指導、授業のオンデマンド配信等の開講が可能	入学料や授業料の減免制度	夜間など特定の時間、週末等に学ぶことができる	短期修了制度	その他	特にない
全体	全体	(152)	53.3	37.5	36.8	31.6	0.7	36.2
本社所在地	新潟県	(70)	54.3	41.4	42.9	35.7	-	31.4
	中部地方(新潟県含む)	(82)	53.7	40.2	41.5	35.4	1.2	30.5
	関東地方	(53)	54.7	37.7	34.0	24.5	-	39.6
	北海道・東北地方	(13)	38.5	15.4	23.1	30.8	-	61.5
	近畿地方	(4)	75.0	50.0	25.0	50.0	-	25.0
業種別	建設業	(18)	50.0	27.8	33.3	27.8	-	44.4
	製造業	(37)	56.8	40.5	43.2	24.3	2.7	29.7
	情報通信業	(20)	65.0	40.0	40.0	35.0	-	30.0
	卸売業、小売業	(17)	47.1	41.2	52.9	41.2	-	35.3
	金融業、保険業	(10)	50.0	20.0	30.0	10.0	-	50.0
	学術研究、専門・技術サービス業	(12)	66.7	50.0	50.0	58.3	-	16.7
	公務	(18)	27.8	27.8	22.2	38.9	-	55.6
	その他	(20)	60.0	45.0	20.0	25.0	-	35.0
大学院の社会人学生として派遣する制度の有無	制度はある	(18)	72.2	38.9	44.4	11.1	-	16.7
	現在、制度はないが今後検討する	(29)	72.4	48.3	51.7	55.2	-	24.1
	制度はない	(105)	44.8	48.3	31.4	28.6	1.0	42.9

学生確保(資料) ー66

※「全体」で降順ソート

(参考) 企業向けアンケート集計結果

Q1 貴社・貴団体の所在地（本社）について選択してください。

	本社所在地	回答機関数	割合
1	北海道・東北	北海道	8.6%
4		宮城県	
5		秋田県	
6		山形県	
7		福島県	
9	関東地方	栃木県	34.9%
10		群馬県	
11		埼玉県	
12		千葉県	
13		東京都	
14		神奈川県	
15	新潟県	新潟県	46.1%
16	中部地方	富山県	7.9%
17		石川県	
18		福井県	
19		山梨県	
20		長野県	
22		静岡県	
26	近畿地方	京都府	2.6%
27		大阪府	
	合計	152	100.0%

Q2 貴社・貴団体のメインの業種について選択してください。

	メインの業種	回答機関数	割合
1	農業・林業	1	0.7%
4	建設業	18	11.8%
5	製造業	37	24.3%
6	電気・ガス・熱供給・水道業	2	1.3%
7	情報通信業	20	13.2%
8	運輸業、郵便業	2	1.3%
9	卸売業、小売業	17	11.2%
10	金融業、保険業	10	6.6%
11	不動産業、物品賃貸業	3	2.0%
12	学術研究、専門・技術サービス業	12	7.9%
14	生活関連サービス業、娯楽業	1	0.7%
16	医療、福祉	1	0.7%
18	サービス業（他に分類されないもの）	9	5.9%
19	公務（他に分類されるものを除く）	18	11.8%
20	その他	1	0.7%
	合計	152	100.0%

Q3 貴社・貴団体の過去3年間の平均採用人数を、選択してください。（正確な人数ではなく概算人数で結構です）

	過去3年間の平均採用人数	回答機関数	割合
1	5人以下	30	19.7%
2	6人～10人	24	15.8%
3	11人～15人	17	11.2%
4	16人～20人	11	7.2%
5	21人以上	69	45.4%
6	分からない	1	0.7%
	合計	152	100.0%

Q4 前問で回答いただいた中で、大学院（修士・博士）の過去3年間の平均採用人数をお聞かせください。（把握している人数で結構です）

	大学院（修士・博士）の過去3年間の平均採用人数	各機関の回答合計	回答機関数	平均採用者数
1	修士課程修了者	1,051	151	6.96
2	博士課程修了者	86	151	0.57
	合計	1,137	151	7.53

Q5 文部科学省より、各経済団体、業界団体に向けて「博士人材の活躍促進に向けた企業の協力等に関するお願いについて」として、以下の画像のとおり依頼されていますが、貴社・貴団体においては、博士後期課程の修了者の採用を今後、増やしていきますか？以下から選択してください。

※可能であれば、事前にご共有されている資料をお手元にご準備の上ご確認をお願いします。以下の画像からもご確認いただけます。

	博士後期課程修了者の採用方針	回答機関数	割合
1	採用を増やす	17	11.2%
2	例年並み	38	25.0%
3	検討する	45	29.6%
4	減らす	1	0.7%
5	わからない	51	33.6%
	合計	152	100.0%

Q6 人文社会・自然科学研究科（仮称：現在の現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合した、新しい時代に対応する研究科）では、これまでの専門分野固有の能力の育成に加えて、「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組み複雑化する社会課題に対応できる人材を養成します。人文社会・自然科学研究科（仮称）で養成する人材に対する、貴社・貴団体の考えを以下から選択してください。

※可能であれば、事前にご共有されている資料をお手元にご準備の上ご確認をお願いします。以下の画像からもご確認いただけます。

	人文社会・自然科学研究科（仮称）の評価	回答機関数	割合
1	評価できる	75	49.3%
2	ある程度評価できる	53	34.9%
3	あまり評価できない	1	0.7%
4	評価できない	0	0.0%
5	わからない	23	15.1%
	合計	152	100.0%

Q7 前問で「あまり評価できない」・「評価できない」と回答した方にお伺いします。そのように回答した理由をご記入願います。

・人文系と自然科学系を統合する意義があまり感じられない

O8 人文社会・自然科学研究科（仮称）では、以下のような能力を養成します。貴社・貴団体では、採用する場合は、どの程度重視していますか。以下（1）～（8）の各能力について、該当する番号（1～4）を選択してください。

	専門分野に関する高度な専門的知識	回答機関数	割合
1	重視している	33	21.7%
2	やや重視している	72	47.4%
3	あまり重視していない	42	27.6%
4	重視していない	5	3.3%
	合計	152	100.0%

	分野を横断した学際的知識	回答機関数	割合
1	重視している	17	11.2%
2	やや重視している	85	55.9%
3	あまり重視していない	43	28.3%
4	重視していない	7	4.6%
	合計	152	100.0%

	高度な言語スキルによる情報発信力、コミュニケーション能力	回答機関数	割合
1	重視している	62	40.8%
2	やや重視している	68	44.7%
3	あまり重視していない	20	13.2%
4	重視していない	2	1.3%
	合計	152	100.0%

	異なる分野・背景を持つ人とも協働して共通目標に向けてチームワークを発揮できるコラボレーション力	回答機関数	割合
1	重視している	108	71.1%
2	やや重視している	42	27.6%
3	あまり重視していない	2	1.3%
4	重視していない	0	0.0%
	合計	152	100.0%

	データサイエンススキル、ICTスキルを活用した情報処理能力	回答機関数	割合
1	重視している	31	20.4%
2	やや重視している	86	56.6%
3	あまり重視していない	33	21.7%
4	重視していない	2	1.3%
	合計	152	100.0%

	論理的思考に基づく批判的能力	回答機関数	割合
1	重視している	44	28.9%
2	やや重視している	75	49.3%
3	あまり重視していない	29	19.1%
4	重視していない	4	2.6%
	合計	152	100.0%

	収集・分類・整理した情報を元に新たなアイデアや価値を創造できる価値想像力	回答機関数	割合
1	重視している	54	35.5%
2	やや重視している	87	57.2%
3	あまり重視していない	10	6.6%
4	重視していない	1	0.7%
	合計	152	100.0%

	特定テーマ・イシュー（論点・争点）に関して、複眼的思考で課題解決に生かすことができる学際的能力	回答機関数	割合
1	重視している	35	23.0%
2	やや重視している	83	54.6%
3	あまり重視していない	30	19.7%
4	重視していない	4	2.6%
	合計	152	100.0%

Q9 人文社会・自然科学研究科（仮称）修了者（修士・博士）の貴社・貴団体の採用意向について以下から選択してください。

	修士課程修了者	回答機関数	割合
1	ぜひ採用したい	49	32.2%
2	条件が合えば採用したい	84	55.3%
3	採用しない	0	0.0%
4	わからない	19	12.5%
	合計	152	100.0%

	博士課程修了者	回答機関数	割合
1	ぜひ採用したい	23	15.1%
2	条件が合えば採用したい	99	65.1%
3	採用しない	2	1.3%
4	わからない	28	18.4%
	合計	152	100.0%

Q10 近年、社会人のリカレント・リスキリングの重要性が高まっています。本学では、社会人の正規生の場合は、長期履修制度（注1）を活用することや正規生の他に科目等履修生（注2）として入学することが可能です。また、入学後は、勤務状況に合わせ授業の開講や遠隔での指導も取り入れています。貴社・貴団体では、社員を研修制度の一環として、大学院の社会人学生として派遣する制度はございますか。以下から選択してください。

注1) 長期履修制度：標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）を超えて、一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了できる制度

注2) 科目等履修生：希望する授業科目のみ履修する制度。修得した単位は、正規生として入学した際に修了要件単位に含むことができる。

	社会人学生として派遣する制度の有無	回答機関数	割合
1	制度はある	18	11.8%
2	現在、制度はないが今後検討する	29	19.1%
3	制度はない	105	69.1%
	合計	152	100.0%

Q11 貴社・貴団体では、人文社会・自然科学研究科（仮称）に社員を入学（派遣）させたいと思いますか。以下から選択してください。

	修士課程への派遣意向	回答機関数	割合
1	社会人学生として入学させたい	0	0.0%
2	社会人学生として入学させる可能性はある	16	10.5%
3	社会人学生として入学させる可能性はない	30	19.7%
4	わからない	106	69.7%
	合計	152	100.0%

	博士課程への派遣意向	回答機関数	割合
1	社会人学生として入学させたい	0	0.0%
2	社会人学生として入学させる可能性はある	15	9.9%
3	社会人学生として入学させる可能性はない	33	21.7%
4	わからない	104	68.4%
	合計	152	100.0%

Q12 前問において、「社会人学生として入学させたい」又は「社会人学生として入学させる可能性はある」を選択された方にお伺いします。人文社会・自然科学研究科（仮称）への社員の派遣時期を以下から選択してください。

※一番近い時期についてお答えください。

	修士課程派遣希望時期	回答機関数	割合
1	令和8年度（開設時）	0	0.0%
2	令和9年度～令和11年度（開設後3年以内）	4	25.0%
3	令和12年度以降（開設後4年後以降）	0	0.0%
4	決まっていない	12	75.0%
	合計	16	100.0%

	博士課程派遣希望時期	回答機関数	割合
1	令和8年度（開設時）	1	6.7%
2	令和9年度～令和11年度（開設後3年以内）	4	26.7%
3	令和12年度以降（開設後4年後以降）	1	6.7%
4	決まっていない	9	60.0%
	合計	15	100.0%

Q13 人文社会・自然科学研究科（仮称）に社員を入学（派遣）させたいと回答された方にお伺いします。社会人学生として派遣する場合に、大学としてどのような支援を求めますか。また、Q11で人文社会・自然科学研究科（仮称）に社員を入学させる可能性はある、入学させる可能性はない、わからないと回答された方は、大学からどのような支援があれば、社会人学生としての派遣を促進する要因となりますか。以下から選択してください。（複数選択可）

	希望する支援	回答機関数	回答機関の割合
1	夜間など特定の時間、週末等に学ぶことができる	56	36.8%
2	オンラインでの遠隔指導、授業のオンデマンド配信等の開講が可能	81	53.3%
3	入学料や授業料の減免制度	57	37.5%
4	短期修了制度	48	31.6%
5	その他	1	0.7%
6	特になし	55	36.2%
	回答機関数	152	100.0%

2026年4月開設予定

設置構想中

※掲載内容は予定であり変更となる場合があります。

資料5

広がる視野、深まる専門
～あなたの未来を支える総合知～

新潟大学大学院 人文社会・自然科学研究科(仮称)

新潟大学は、現代社会文化研究科と自然科学研究科を1研究科に統合する大学院改革を行います。

学びの幅を広げ、より深い専門知識を築くための教育を提供し、グローバルな未来へとつながるキャリアをサポートします。

人生120年時代、22世紀まで生きる皆さん。AIに使われる側ではなく、AIを使う側に立つために、総合知を身に付けませんか。

複雑化する社会課題を解決できる 人材養成が求められている時代



グローバル課題

- 気候変動、温暖化問題
- 食料、エネルギー問題
- 安全保障問題
- SDGsの推進
- 急速なデジタル化への対応



日本の社会課題

- 超高齢化問題
- 地方から都市への人口流出
- 産業競争力の低下
- 労働生産人口の減少
- 地域コミュニティの弱体化

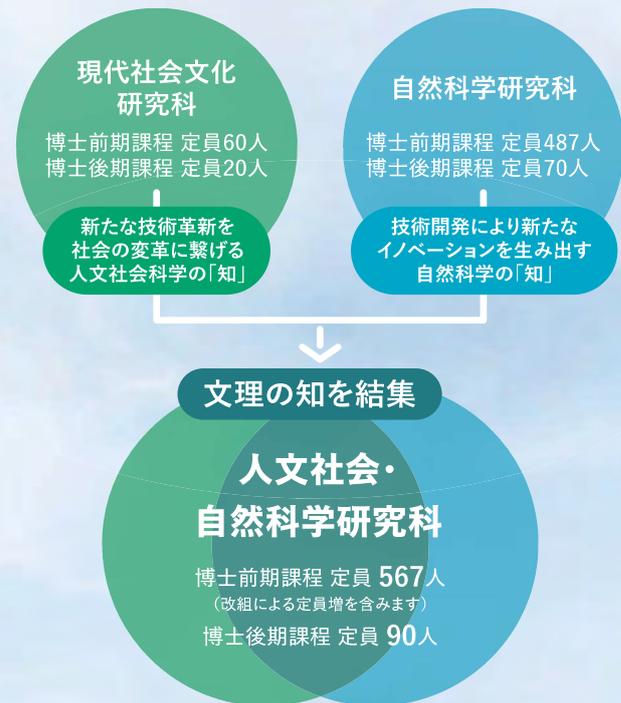


就職後の不安

- スキル不足への不安
- 知識不足への不安
- キャリアパスへの不安
- AI普及に伴う将来への不安
- グローバル対応への不安

社会課題は複雑さを増しており、企業、団体、行政機関、教育・研究機関などのような場においても特定分野の専門知識のみでの対応は困難です。科学技術を人間社会に調和的に社会実装し、社会で新たな価値を創造し、高めていくためには、俯瞰的な視野で物事をとらえ、分野横断的、多様な「知」の集結、「総合知」が必要とされています。

人文社会科学の「知」と自然科学の「知」を結合させ 単一の専門知では解決できない課題を 解決する総合知を創出



単一の専門知だけでは解決できない人間や社会の課題解決、すなわち「総合知」を創生する場で活躍できる人材を養成します。

● 総合知とは

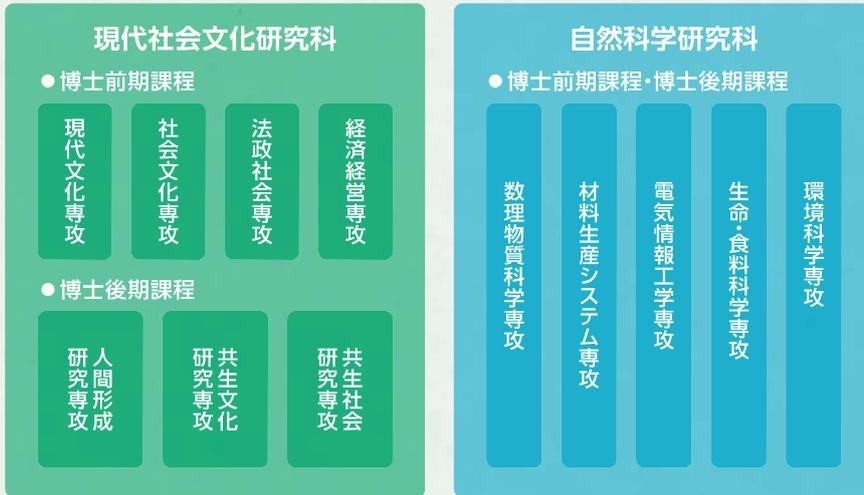
内閣府において、「多様な『知』が集い、新たな価値を創出する『知』の活力を生むこと」と定義されています。すなわち、所属組織や専門領域を超えた様々な知の融合により、イノベーションの創出や社会実装に向けた手段を見出し、社会課題の解決を図ることにつながります。

組織の移行と大学院教育改革



人文社会・自然科学研究科（仮称）は多数の専攻やコース制による細分化を解消し、1専攻のもと異分野共同で学ぶ研究科共通の科目を新設します。さらに明確な教育目標を設定した学位プログラムを設置することにより、「学際的な幅広さ」と「確かな専門性の深さ」を両立する教育課程を編成します。

● 組織移行前 縦割りによる細分化された専門性の深さを追求



● 組織移行後 「学際的な幅広さ」と「確かな専門性の深さ」を両立

人文社会・自然科学研究科(仮称)

基幹学問分野に根差す「専門深化型プログラム」と新潟大学の強みを生かし、社会やグローバルニーズに対応した「新潟学際型プログラム」に大別して、学位プログラムを編成。

人文社会・自然科学専攻(仮称)		
	A 専門深化型プログラム 総合知を創出する場で 確かな専門性を発揮できる人材を養成	B 新潟学際型プログラム 総合知を創出する場を リード・ファシリテートできる人材を養成
博士前期課程	人間文化科学プログラム 現代社会科学プログラム 物質創成・基礎科学プログラム システム創成科学プログラム 生命環境科学プログラム	ひと脳・健康科学プログラム アニメ・映像資源科学プログラム 日本酒学プログラム 情報社会デザイン科学プログラム カーボンニュートラル融合科学プログラム フィールド科学プログラム
博士後期課程	総合人文社会科学プログラム 創成理工科学プログラム	生命環境科学プログラムまたは 大学院医学総合研究科への進学を想定

プログラムの型(タイプ)



総合知を創出する場で
A 深い専門性を武器に
活躍したい

→専門深化型がおすすめ

特色ある学際分野を研究したい
B 総合知を創出する場をリード・
ファシリテートして活躍したい

→新潟学際型がおすすめ

教育課程の特徴 幅広さと深さを両立する柔軟な教育課程



- 学問分野の体系に即した複数科目によって構成された科目群
- プログラムごとの体系的な専門科目群
- 学際的知識、複数の研究方法論とトランスファラブルスキルを修得するための学際的科目群

育成する人材

単一の専門知識だけでは解決できない人間や社会の課題を解決できる人材
すなわち「総合知」を創出する場で活躍できる人材

修得を目指す資質・能力

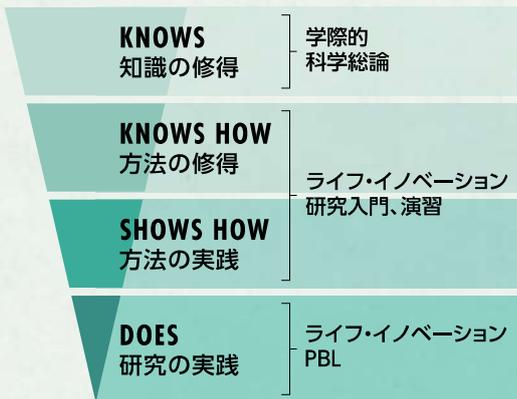
学際的知識と複数の研究方法論、トランスファラブルスキルと専門分野固有の能力を統合し、単一の学問分野では不可能であった理論や方法で課題解決を行う能力

学際的知識・複数の研究方法論

トランスファラブルスキル

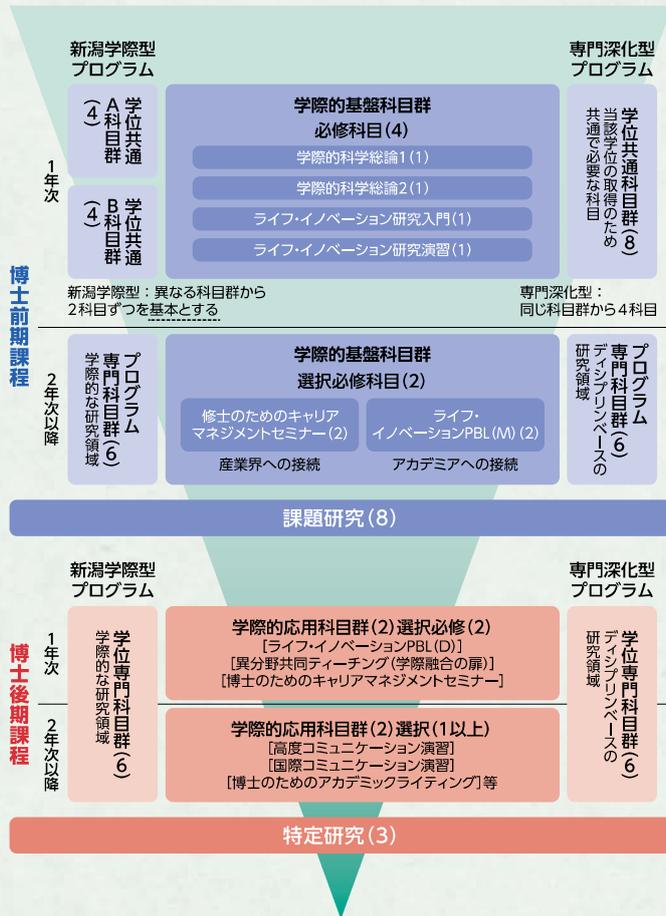
専門分野固有の能力

学際的思考の段階性



● 在学中の学び

()内は単位数



入学から修了までのサポート

様々なバックグラウンドを持つ大学院生の修学を支援するため、大学院入学から修了後の進路選択まで幅広くサポートする体制を整備しています。



入試における特別選抜の実施

社会人、外国人留学生を対象に職務経験や修学歴に対応した、特別選抜を実施し、積極的な受け入れを行っています。入学時期は4月入学以外に10月の入学も可能です。

長期履修制度^(※)

標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に授業を履修し、修了することが可能です。前期課程の場合は、通常「2年」の修業年限を「3年」又は「4年」に延長することができます。(授業料は2年分)

※現に職業を有している方等が対象です。

研究環境支援・奨学金

【大学院生対象】

- 授業料免除・徴収猶予制度
- TA、RAによる指導力、研究力の促進と、経済的支援

【博士後期課程学生対象】

- 次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING事業)
- 博士前期課程からの進学者対象の奨学金
- 研究科独自の研究費支援

授業方法等の配慮^(※)

夜間の開講、休業期間中の集中講義や研究指導、メディアツールを利用した遠隔授業等、職業を有している方が離職することなく修学可能となるよう柔軟な履修方法や授業時間帯を設定しています。

※社会人の方を対象とします。(大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例の適用によるもの。)

キャリア支援

進学や修了後のキャリアを相談できる体制を整備。即戦力を習得できるセミナー、産業界への就職を後押しするマッチングイベント、企業研究サイトビジット、長期/短期、単位取得可能、有給であるJOB型等各種インターンシップ。

学位プログラム概要

専門深化型学位プログラム

人間文化科学 前期



哲学、史学、文学、心理学、メディア学、芸術実践、情報社会科学、生活健康行動科学について学修・研究する。「公認心理師」、「臨床心理士」、「日本語教育」のコースを含みます。

現代社会科学 前期



法学、政治学、行政学、経済学、経営会計などの社会科学について、他の専門分野や実務家と密接な関連を保ちながら学修・研究をします。

物質創成・基礎科学 前期



物質科学の基礎分野である物理・宇宙科学、基礎化学、数理学、新物質・新素材の開発と実装を目指す材料科学、応用化学を学修・研究します。

システム創成科学 前期



スマート社会を構築するための基盤となる先端技術の開発と社会実装を行うため、機械工学、電子情報通信工学、人間支援科学を学修・研究します。

生命環境科学 前期 後期



生命現象や自然環境に関する科学的探求とその社会実装を目指す、基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学、流域環境学、都市・環境デザイン、地球科学、災害科学を学修・研究します。

総合人文社会科学 後期



前期課程の人間文化科学プログラムと現代社会科学プログラムを統合し、人文・社会諸科学の専門領域について学修・研究をします。

創成理工科学 後期



前期課程の物質創成・基礎科学プログラムとシステム創成科学プログラムを統合し、物理・宇宙科学、基礎化学、数理学、材料科学、応用化学、機械工学及び電子情報・人間支援科学を学修・研究します。



新潟学際型学位プログラム

アニメ・映像資源科学 前期 後期



新潟大学が持つアニメ等のアーカイブから出発して、アニメや地域のさまざまな映像資料について、その文化や社会とのかかわり、画像処理と保存、データベースなどについて領域横断的に学修・研究をします。

日本酒学 前期 後期



日本酒という対象を共通の軸として、自らの専門領域から、日本酒の原料、生産、販売、消費、文化、歴史、健康に至るまでの幅広い領域を俯瞰的に学修・研究します。

情報社会デザイン科学 前期 後期



情報技術を活用して社会課題を解決するためのデザイン思考やデータサイエンス、ICTスキル、デジタルアーカイブ、コミュニケーションデザインなど情報社会デザイン科学を学修・研究します。

カーボンニュートラル融合科学 前期 後期



創エネルギー・省エネルギー・蓄エネルギーに関連する個別科学技術に加え、スマートグリッドに代表されるエネルギーマネジメントやエネルギー輸送など、カーボンニュートラル融合科学を学修・研究します。

フィールド科学 前期 後期



さまざまなフィールドで得たデータを分析・解析する「フィールド科学」を通じて、自然現象の科学的理解や自然環境と人間社会の共生を目指し学修・研究をします。

ひと脳・健康科学 前期



人間の脳と健康に関する科学的知識について、特に脳の機能や神経疾患、精神疾患のメカニズム解明、治療法の開発など、ひと脳・健康科学を学修・研究します。

入学料／授業料

入学料 282,000円／授業料 535,800円(年額)

※入学料及び授業料は予定額です。

※在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

〈お問い合わせ〉

総務部企画課

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

電話 025-262-6026

メール planning@adm.niigata-u.ac.jp

大学院改革設置構想中

学生確保(資料) - 76

